卓球王国連載パック“ePAC.”

全日本卓球選手権大会

（2013.1／平成24年度）

【REAL! TT 速報 全日本2016.1】バージョン

卓球王国2013年4月号（vol.191）に掲載した、平成24年度（2013年1月開催）の「全日本卓球選手権」報道記事、全59ページ（e Bookで追加した扉や余白を除く）をまとめた。

卓球王国

【王国e book】について

● この【王国e book】（e PAC.）は、月刊『卓球王国』誌に掲載された連載やシリーズをまとめたパックです。

● **閲覧は、卓球王国WEB【REAL! TT 速報 全日本2016.1】で有料速報をご利用いただいている方の、個人的な利用に限らせていただきます**。商用利用、複製したファイルの譲渡、販売、ネット等での配布を禁止します。PDFから一部のデータを抜き出したものについても同様です。

● **本ファイルの複製は原則禁止**です。ただし、お買い上げいただいた方の個人利用に限り、ご自身所有の複数の装置（パソコン、タブレット等）にコピーして閲覧することが可能です。

● お問い合わせは、卓球王国WEB「お問い合わせ」フォーム（トップページ画面左下の青字リンク）から、もしくは以下宛にお願い致します。

（株）卓球王国
電話 03-5365-1771

→ 見開き表示の
右ページ

閲覧に際して

● PDF形式による電子書籍で、パソコンやタブレットなどでご覧いただけます。PDFの閲覧には「Adobe Reader」またはその他のPDF閲覧ソフトをご使用ください。

● パソコンのモニタで閲覧する場合、ページ表示を「見開きページ」に設定すると、実際の冊子のように見開き表示で見やすいでしょう。タブレットで閲覧する場合は、「単一ページ」のほうがサイズ的に見やすいでしょう。

●「Adobe Reader」で見開き表示する場合、以下のように設定してください。設定に関する詳細は、「Adobe Reader」のヘルプ等をご覧ください。

①［ページ表示］メニューで「見開きページ表示」にチェックを入れる。

②［ページ表示］メニューで「見開きページ表示で表紙を表示」にチェックを入れる。

見開き表示では、本ページが左ページ、前ページが右ページに来れば、実際の雑誌と同じ配置になります。もし左右が逆に表示される場合は、「環境設定」（Windowsでは［編集］メニュー内、Macでは［Adobe Reader］メニュー内）の「言語」で、「デフォルトの読み上げ方向」を「右から左へ」に設定してください。

見開き表示の
左ページ

本e-bookは2015年12月17日作成

Copyright ⓒ卓球王国, All right Reserved

Men's Singles Winner

KOKI NIWA

天皇杯・皇后杯
平成24年度

全日本
卓球選手権大会
［一般・ジュニアの部］

1.15›20

東京・国立代々木競技場
第一体育館

中国に次ぐ
世界トップランカーを揃える日本。
76年前の昭和11年（1936年）に
第1回大会が始まった
全日本選手権大会は、
国内選手権としては歴史と重み、
マスコミの注目度からして、
世界でも他に類を見ない大会となっている。
今年度のファイナルを飾ったのは、
高校3年生の丹羽孝希と、
「世界のフクハラ」福原愛だった。

世界レベルの頂上戦。

取材＝卓球王国編集部
covered by World Table Tennis editors
写真＝江藤義典・渡辺塁・奈良武
photographs by Yoshinori Eto, Rui Watanabe & Takeshi Nara

各種目優勝者

[男子シングルス]
丹羽孝希（青森山田高）

[女子シングルス]
福原愛（ANA）

[男子ダブルス]
松平健太／丹羽孝希
（早稲田大／青森山田高）

[女子ダブルス]
藤井寛子／若宮三紗子
（日本生命）

[混合ダブルス]
田添健汰／前田美優
（希望が丘高）

[男子ジュニア]
森園政崇（青森山田高）

[女子ジュニア]
松平志穂（四天王寺高）

Women's Singles Winner
AI FUKUHARA

THE EN

All Japan Championships 2013.1

18歳の天才

丹羽孝希が水谷隼を倒し、王座に就く。

【青森山田高・青森】

最終日のセンターコートで全日本王者として勝利の雄叫びを上げたのは、昨年、怒涛の勢いで優勝した吉村真晴でもなく、リベンジを図った水谷隼でもない。18歳の高校3年生。クールボーイの丹羽孝希だった。

過去、丹羽は全日本選手権で水谷に二度敗れている。「ラリーになったら勝てないので速攻で勝負をつけたい」。2年前、水谷との戦いについて聞かれた時にそう語った丹羽。しかし、今回の戦いは少し違った。1-3とゲームをリードされ、窮地に立たされた丹羽は「1ゲーム目は大事だったので、そこで取って流れに乗ったかなと思ったら、やはり水谷さんは強くて1-3までいかれた。このままでは難しいと思い、1本1本粘っていこうと思いました」。あえてすべてのラリーをハイリスクな勝負に持ち込まずに、粘るところは粘り、勝負するところは勝負する。このわずかな余裕は2年間の丹羽自身の成長を表している。余裕を持つことで相手の心理や攻め方が見え、この小さな勝負師は「今までの水谷さんとは違う」と試合中に直感した。

後がない丹羽の5ゲーム目、8-3とリードしたが、そこから8-7まで追い上げられ、水谷がサービスのところでタイムアウト。ベンチに入った邱建新（フリッケンハウゼン監督）にはレシーブの指示を受け、「強気なプレーをして流れを変えるしかなかった」と丹羽は腹をくくった。このゲームを11-7と制し、試合の流れは徐々に丹羽に傾いていく。

6ゲーム目は出足で水谷が3-0とリードしたが5-5になり、そこから丹羽が一気に11-5と突き放す。丹羽のサービスまでのインターバルはとてつもなく早く、試合の流れを水谷には渡さない所作のようでもあった。

そして、決戦は最終ゲームにもつれ込んだ。丹羽が5-3のリードでチェンジエンド。7-7から丹羽が3本連取して、マッチポイントを奪うが、10-9と水谷が追いかけるスリリングな展開。

Men's Singles Winner

KOKI NIWA

最終ゲーム、11－9で水谷を破り優勝した瞬間の丹羽

超速卓球で、最終ゲーム11-9。43分で駆け抜け、初優勝！

4 丹羽孝希 青森山田高	FINAL	3 水谷隼 beacon.LAB
	11－8	
	3－11	
	8－11	
	9－11	
	11－7	
	11－5	
	11－9	

クールな丹羽も表彰式では笑顔を見せた

〈決勝〉

Final

ラストは、丹羽が得意のチキータを繰り出し、水谷の3球目がオーバーして、18歳、高校3年生の新しいチャンピオンが誕生した。優勝の記者会見でも終始、その冷静な態度は変わらなかった。

「最終ゲーム10-7でリードして安心したけど、10-9になった時に危ないと思い、一番自信のあるチキータで勝負しました。水谷さんには全日本では2回負けているし、準決勝の相手の松平健太さんには去年は負けているので、リベンジする形で勝って優勝できたのは良かった。

優勝した瞬間は、うれしかったけど、実感が沸かなくて何も考えられなかった。青森山田から出る最後の大会で、少しは恩返しできたと思っています。今回のこの優勝だけでは正直（水谷さんを）超えたとは言えないし、優勝したこの1年間が大事なので、しっかり成績を残したい」

11年11月には世界ジュニア選手権で優勝し、12年4月には五輪アジア予選で世界ランキング1位の馬龍（マ・ロン）（中国）を破った丹羽。順風満帆（じゅんぷうまんぱん）にキャリアを積み重ねていた丹羽だが、メダル獲得を狙って挑戦したロンドン五輪では苦い経験を味わった。団体戦の準々決勝、香港戦で単複2点を落とし、屈辱の底に沈んだ。

それから半年後の1月20日、五輪での悔しさを胸にしまいながら、精神的にもタフになり、プレーに力強さを加えた丹羽孝希は天皇杯を高く掲げた。

Men's Singles Winner
KOKI NIWA

クール丹羽

チキータからの超速卓球 多彩なサービス、

もともと前陣での速攻＆カウンタードライブが得意だったが、中陣のラリーも強くなってきた

多彩なサービス、チキータからの速攻卓球が丹羽の代名詞だ。かつて、これほどのドライブ速攻プレーを見せた日本選手はいない。また世界でも丹羽の卓球スタイルは希有な存在と言えるだろう。

以前は台上レシーブなどはストップを中心にして、4球目でカウンタードライブを多用した丹羽だが、1年前の世界ジュニア選手権で優勝する前からチキータを積極的に使うようになった。また、以前はラリーが長引くと不利になり、早く勝負を決めようとしていた。今回は、超速卓球としてのスピード感を失わずに、ハイリスクな部分はやや抑えられ、速攻戦術をメインにしながらも、局面によってはラリー戦術も用いることができるようになった。加えて、ボールの威力がついてきたことも丹羽は自覚している。「台から下がったら厳しいけど、前よりもボールが抜けるようになっているので力がついてきたのだと感じている」（丹羽）。より多彩に、よりパワフルに丹羽孝希の卓球は変化してきている。

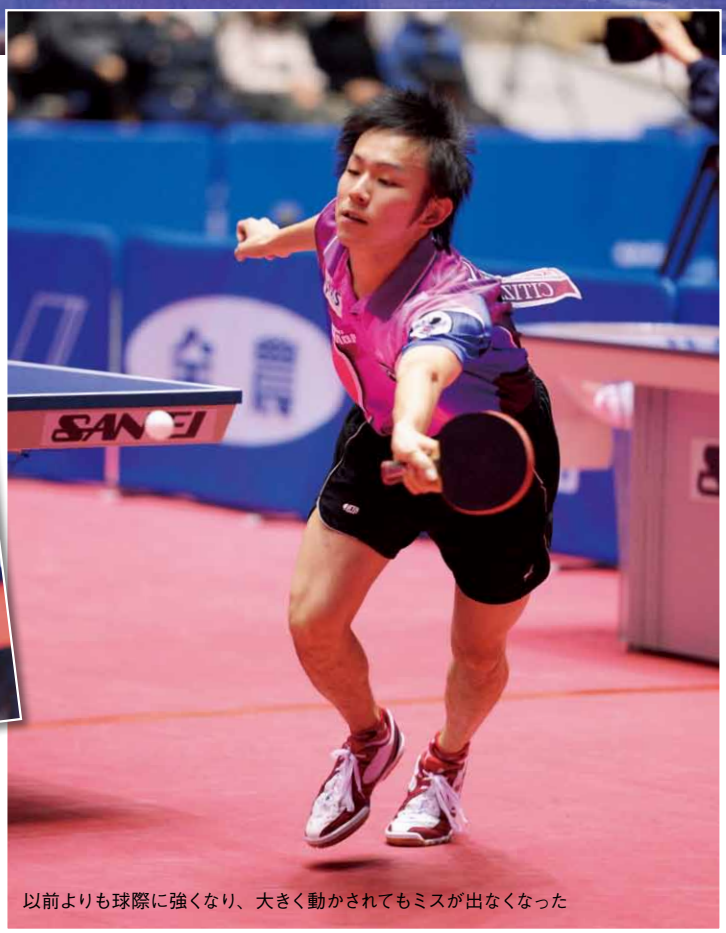
慣れているはずの相手に対しても丹羽のサービスは効く。「その試合その試合で適当に出してます」と丹羽自身は笑うが、試合ごとにまるで生き物のようにサービスが変わる。今まで何度も戦い、練習をし、ダブルスのパートナーである松平健太にも、「5ゲーム目からレシーブができなくなってしまったし、相手に自信を持って、いろんなバリエーションのサービスを出された。フォアに来るのか、バックに来るのかもわからず手こずった」と言わしめた。

丹羽孝希のもうひとつの大きな特徴はそのメンタルだ。常にポーカーフェイスで、冷静な試合態度でプレーする。決勝でも、途中から闘志をむき出しにしてきた水谷に対し、終始表情を変えなかった丹羽。勝った直後だけが、唯一感情を表に出した瞬間だった。そんな彼を青森山田高の板垣孝司監督はこう語る。「孝希は口数は少ない。

ハイリスク卓球に生まれたわずかな余裕が丹羽孝希の卓球をよりパワーアップさせた

チキータを含め多彩&強烈なバックドライブを繰り出す丹羽

試合ごとに変わる多彩なサービス



以前よりも球際に強くなり、大きく動かされてもミスが出なくなった

他人に自分の意思を語ることは少ないし、不器用かもしれない。でも、学校や吉田安夫総監督への感謝の気持ちを持っている。優勝した直後も『青森山田として最後の試合だったので優勝できて良かった』と言ってくれて、涙が出ました。それが丹羽孝希です」。

ポーカーフェイスでも、この18歳の少年は内側に熱く燃える情熱とプライドを持っている。大きくリードされた時にはあきらめが早いようにも思えるし、ミスが連続して敗れる時には淡泊に見えてしまう。「今回、孝希はあきらめなかった。『ここであきらめちゃダメだ』というスイッチを入れたのがベンチに入った邱建新さんだったかもしれない」（板垣監督）。

昨年8月から参戦したドイツのブンデスリーガ。以前は、ドイツリーグにはあまり興味がない、日本でも十分にやれる、と言っていた丹羽だが、フリッケンハウゼンの邱建新監督のもと、自身のプレーを再構築していった。

次に目指すのは世界の舞台だ。「5月にパリの世界選手権があるので、ダブルスではメダルを目指して、シングルスでは中国選手をひとりでも多く倒したい」（丹羽）。

世界ランキングで5位まで上りつめた先輩、水谷隼を格好の目標にして進んできた丹羽孝希。国内ではその水谷をキャッチアップした。次は世界の舞台でその才能を証明することになる。

決勝での心理戦。丹羽のベンチと孤独に戦う水谷

↑決勝でのベンチコーチ。ひとりで戦う水谷（左）と邱建新コーチからアドバイスをもらう丹羽

←水谷はベンチコーチ不在を試合後に「いないよりはいたほうが良い」と語った

↑「邱建新さんのアドバイスは的確だった」と語った丹羽。写真左が邱コーチ

二人の天才の対決。しかも世界レベル。

丹羽孝希の前陣で斬りつけるような速攻を、ヒラリとかわしながらラリーに持っていきたい水谷隼。自分のサービスの時にはドライブで攻め込みたい水谷だが、それを一撃のカウンターで狙いすます丹羽。そのスピードといい、打球点とコースの厳しさといい、めまぐるしく変わる試合の流れといい、まさに世界レベルの卓球が決勝の43分間に凝縮されていた。

二人の間でのひとつの違いはベンチコーチ。明治大を卒業し、エントリーぎりぎりまで所属の決まらなかった水谷はベンチコーチを置かずにひとりで戦った。「（ベンチコーチは）いないよりはいたほうが良い。だけど今回は所属も急きょ決まり、練習もひとりで大学や実業団にお邪魔してやっていた。いきなりぼくのベンチに入ったところで、普段のぼくを見ていない人がアドバイスできるとは思わなかったので、今回はひとりでいくと決めた」と試合後に水谷は語った。

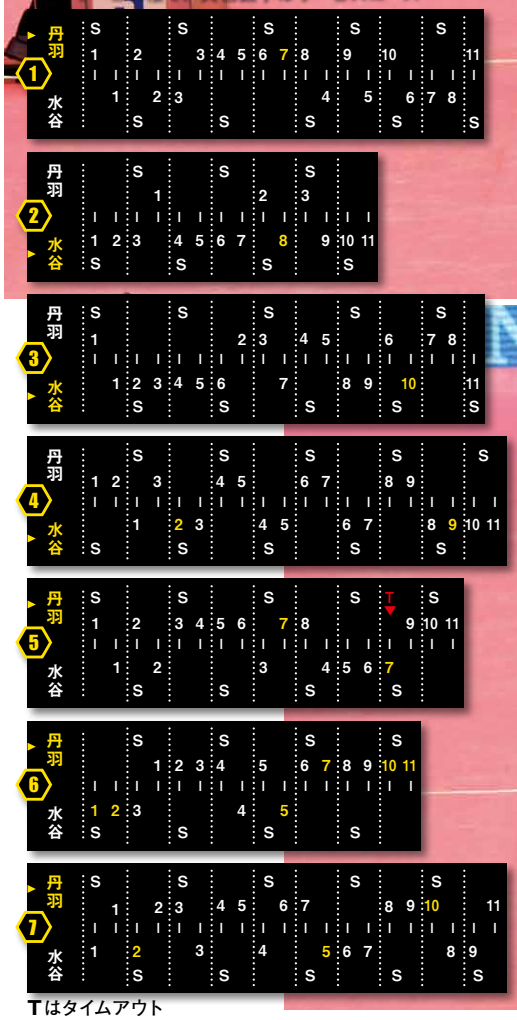
決勝でのひとつのポイントは5ゲーム目だ。一気に勝負を決めたい水谷は出足から勝負を賭けるが、丹羽は必死に攻め、8-3と離す。しかし、水谷が8-7まで差を詰めたところで丹羽がタイムアウト。

アドバイスするのは現在、丹羽が所属するフリッケンハウゼン監督の邱建新。今回、全日本のために来日した。「邱さんのベンチコーチはとても的確で、サービスの出す位置や相手のレシーブのクセとか細かいところまでアドバイスしてくれる。邱さんのアドバイスがあるから優勝できた。水谷さんに対しては良いレシーブをしても絶対返ってくるので、4球目のプレーで凡ミスせ

世界レベルの打撃戦。速攻・丹羽対技巧・水谷

男子シングルス決勝・スコアの流れ

Sはサービス権で、黄色数字はサービスエース



Tはタイムアウト

ラリーの質が世界レベルだった決勝の丹羽対水谷

ずに攻めていけと言われました」と丹羽は語る。

第5ゲーム、このタイムアウトの後、11-7で丹羽が取る。第6ゲームは、5-5から一気に11-5と丹羽が連取。丹羽のインターバルは、テレビの実況アナウンサーが話し終える前にサービスに入るほど異常に早い。相手に考える暇を与えずに自分の世界に引きずり込むようなテンポだった。

一方の水谷は結局タイムアウトを取らずに試合を終えた。この心理戦を観客席から見ていた青森山田高の板垣監督はこう分析した。「最終ゲームは水谷選手と邱さんとの駆け引きが始まっていました。自分（水谷）がタイムアウトを取ったら、丹羽は邱建新さんから最後のアドバイスをもらえるので、それを嫌がっていたのかもしれない」。

最終ゲーム、5-3で丹羽リードでチェンジエンド。7-4から7-7に水谷が追いつき、9-7から丹羽のサービスエースで10-7とマッチポイント。次の1本を水谷が逆モーションでバックフリックしたボールがネットイン。取ろうとした丹羽が足をすべらせ転倒、10-8。次の1本は水谷がフォアクロスでサイドを切って3球目を決め、10-9。しかし、最後は丹羽がフォア前をチキータで攻め、優勝を決めた。「ポイントが欲しいあまり、無意識のうちに安定を求め、入れにいってしまった。逆に相手は思い切ってきたので受け身になってしまった」（水谷）。

心理戦と一流の技のぶつかり合いと駆け引き。世界レベルでの壮絶な戦いは、162センチの体に大きな潜在力を秘めた丹羽孝希という新王者の勝利で終わった。

Men's Singles Runner-Up
JUN MIZUTANI

王者返り咲きならず。水谷隼、五輪後の空白を埋められないまま敗退

［beacon.LAB・東京］

1年前に高校生の吉村真晴に最終ゲーム、10-7からの逆転負けを喫し、悔恨と屈辱でベンチから動けなかった水谷隼。

世界ランキング10位という世界のトップランカーにとって、失ったタイトルを取り戻すという元王者の意地とプライドを賭けた全日本。そして、もうひとつ。水谷が抱えていたのはブースター（補助剤）問題。五輪後に、読売新聞や本誌を通じて、水谷は「ブースターによるアンフェアな状態が解決しないのなら国際大会に出たくない」と発言してきた。その後、フジテレビ、朝日新聞などのマスコミを通じて発信は続いたが、かねがね、「全日本選手権は唯一フェアな状態で戦える場」と発言してきた彼にとって、優勝した後の記者会見で、堂々と、日本選手が置かれた窮状を訴えたかったのではないか。しかし、敗れてしまっては、それは言い訳にしか聞こえなくなる。ブースター問題に関する抗議の言葉を彼は呑み込んだ。

メダルを獲りに行ったロンドン五輪で、水谷は敗れた。その精神的なショックと虚脱感、そしてブースターによるアンフェアな状況への怒り。すべてが彼の心に入り込み、彼を卓球に向かわせるまでは時間がかかった。彼が本格的にラケットを握り、台に向かったのは五輪から月日が経った11月頃。しかも、明治大を卒業後、どこにも所属せずに、マネージメント会社も変わるなど、慌ただしい身辺。

しかし、試合に出ないブランクの長さを考えると、練習を開始し、徐々に体もできてきたが、唯一足りなかったのは勝負勘だったのかもしれない。相手の丹羽も「今までの水谷さんとは違った」と語っている。敗戦後の会見では「去年は6連覇のかかる大会で、最後は逆転負けで本当に悔しかった。今年はそういったプレッシャーもなかったので、思い切ってプレーするだけでした。決勝にいくまでに苦しい試合が何試合もあった。準々決勝の張選手との試合では、ほぼ負けかけていたのにそこを乗り切って決勝に進出したけど、決勝は3-1でリードしていて負けてしまい、本当に悔しい」と語った水谷

2年連続、決勝の最終ゲームで力尽きた世界のトップランカー

は、その敗因を聞かれると「もしかしたら最後に結果を分けたのはその（五輪後の）5カ月を休んでいたからかもしれない。緊張してしまった。試合中に大事にいってしまう場面が多かった。思い切ってプレーするつもりが、試合では消極的になってしまった」と答えた。人一倍ゲーム感覚に優れた勝負師・水谷に、最後の最後で実戦不足の影響が出てしまった。

五輪後には「ブースター問題が解決されなければ、国際大会や世界選手権に出るかどうかわからない」と語った水谷は、2月4日に世界選手権の日本代表に選ばれた。5月の世界選手権までにブースター問題が解決する見込みはない。ならば、彼にはプロ選手として戦うことしか選択の余地はない。

「毎年、若手の選手や日本全体のレベルが上がってきており、初戦から厳しい戦いを強いられている。今年も1勝するのが難しいと感じた。来年もさらにレベルアップしてくると思うし、自分も負けないように頑張りたい」。最後は前向きなコメントで会見を締めた水谷。

いくらアンフェアだとしても、パリ大会のセンターコートで水谷隼が何者なのかを証明するしか、彼の渇（かわ）いた心は満たされないはずだ。

⬇ロンドン五輪後にブースター問題もあり、国際大会を見合わせ、長めの休養をとっていた水谷。必死の戦いを見せたが、試合勘が戻らなかった

〈準決勝〉
Semi-Final

Men's Singles Semi-Finalist
KENTA MATSUDAIRA

2年連続の3位。松平健太［早稲田大・東京］スピードとテクニックの狭間での苦悩

4	SEMI-FINAL	2
丹羽孝希 青森山田高	14－12	松平健太 早稲田大
	8－11	
	8－11	
	11－8	
	11－8	
	11－7	

2年連続の3位となった松平健太。気鋭の村松雄斗（JOCエリートアカデミー／帝京）を巧みなカット攻略で退け、準々決勝の岸川聖也（スヴェンソン）戦では激しいラリー戦を制した。しかし、準決勝の丹羽戦では速さで上回る相手に対して主導権を奪えず敗退した。速さでは丹羽に及ばず、巧みなラリー戦だけでは勝てない。スピードとテクニックのジレンマに陥っているようだった。

「4ゲーム目、出足はシーソーゲームだったけど終盤離された。やはりサービス、レシーブだと思います。ラリーになれば続くけど、サービス、レシーブは毎試合毎試合お互い工夫する。今回は丹羽が工夫してきて、やりづらかった。そこの差だった。優勝したいので3位になってもうれしくないし、プレー自体もまだまだだと思う」（松平）

世界選手権代表には選ばれたが、より特長を明確にしなくては世界の舞台でも難しいという命題を突きつけられている。

↓準々決勝で激戦の末に岸川を破った松平健太

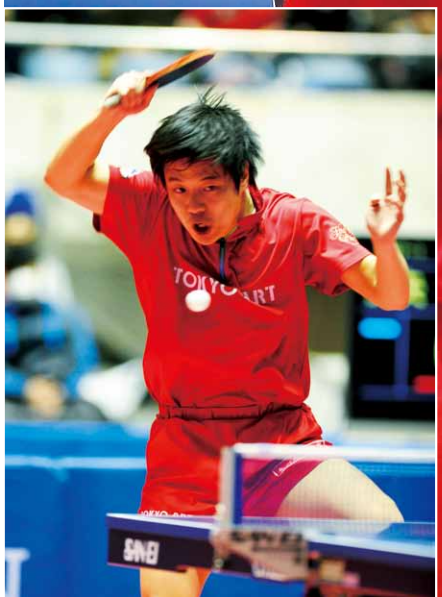
Men's Singles Semi-Finalist
HIDETOSHI OYA

4 水谷 隼 beacon.LAB	SEMI-FINAL	1 大矢 英俊 東京アート
	11－6	
	11－13	
	11－2	
	11－6	
	13－11	

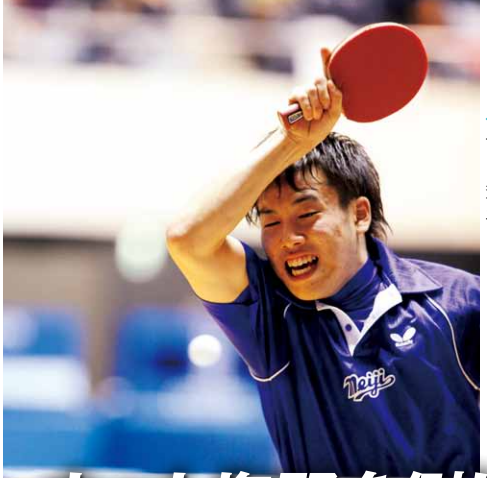
冷静な野獣 大矢英俊［東京アート・東京］ 上田、時吉、賢二をガブリ。5年ぶりの3位

準決勝に進んだのは5年ぶり3度目の大矢英俊。上田仁（青森大）、時吉佑一（TEAM GIFU）、松平賢二（協和発酵キリン）という強豪を連破した。特に準々決勝の松平戦は「いつも吠えると言われているけど、今回は吠えながら冷静を保っていた。賢二はバック対バックで勝負というのは自分の頭に強くあって、今回初めてそれを外して、あえてフォアから攻めたらやりやすかった」と振り返った。準決勝は水谷に完敗。「すごい勝ちたかった。ぼく、ものすごい調子が良かったから。でも、相手は世界一桁の選手、壁を感じました。全日本で当たったのは初めて。いろんな球質を持っているので対応できなかった。強いというオーラがあって、それで2、3点くらいリードされている感じで焦っちゃう」。

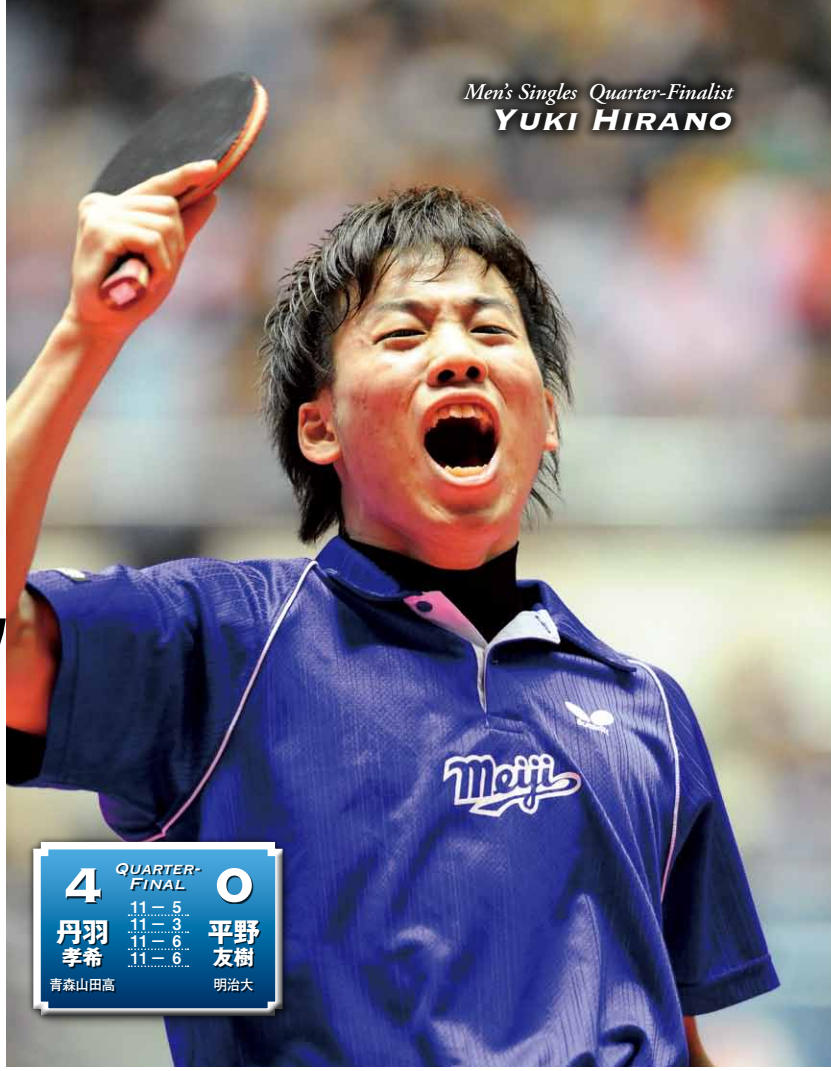
5年間、上位の壁を破れず苦しんだ大矢。「途中、心が折れてました。逆境の中、みんなに支えてもらった」と野獣から素顔の青年に戻った。「これできっかけをつかんだ気がします」。



← 強敵を次々と倒し、準決勝に進んだ大矢



← 前年優勝者・吉村から終始ラリーの主導権を奪い、完勝した平野



カット塩野を倒し、マッハ吉村に勝った！平野友樹パワー炸裂!!

［明治大・山口］

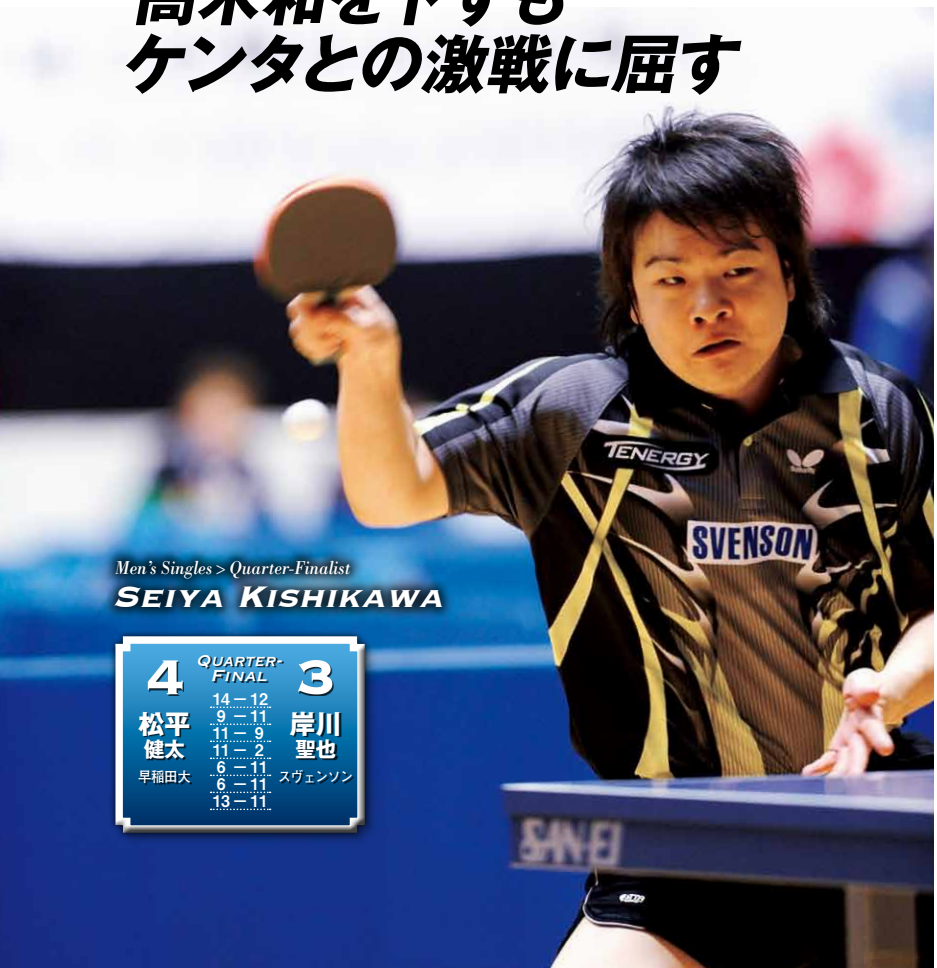
「大きなヤマだった。ずっとカット打ちの練習をやってきた」とゲームオールのジュースで破ったランク決定の塩野戦を振り返った平野。前回優勝者の吉村に対しては打ち勝ち、その存在感をアピールした。「高校の後輩なので、戦い方を知っている分、自分のほうが有利。チャレンジャー精神で戦いました。中途半端に行くとすごいボールを打たれてしまうので、攻撃と守りのメリハリをつけて、攻める時は攻める、守る時は守るという展開に持っていった」（平野）。しかし、準々決勝の丹羽には完敗。「チャンスがない、歯が立たなかったという感じですね。すべての技術で相手が上回っていた。情けないです」（平野）。

《準々決勝》

Quarter-Final

魅せた技、岸川聖也高木和を下すもケンタとの激戦に屈す

［スヴェンソン・東京］



↑ 好ラリーで観衆を魅了した松平健太戦

五輪ベスト８の岸川聖也は６回戦で強敵・高木和卓（東京アート）に打撃戦の末に競り勝った。「高木和は最近かなり調子がいいし、競るのはわかっていた。最後はサービスが効いて得点できた。それが効いていなかったら勝てなかった」（岸川）。

岸川は続く準々決勝でも松平健太と大激戦。攻守がめまぐるしく替わる好ゲームだったが、岸川は最終ゲーム、あと１本に泣いた。「レベルの高い試合だった。今年の全日本のベスト８はここ何年間で一番レベルが高い。最後、マッチポイントを取りながら勝ちきれなかったのは悔やまれるし、最後に勝たないと意味がない。全日本はオリンピックと違って毎年あるので、来年またチャレンジできるので、負けた試合こそ次につなげることができる」（岸川）。

実力者・岸川にとっても全日本の壁は厚い。

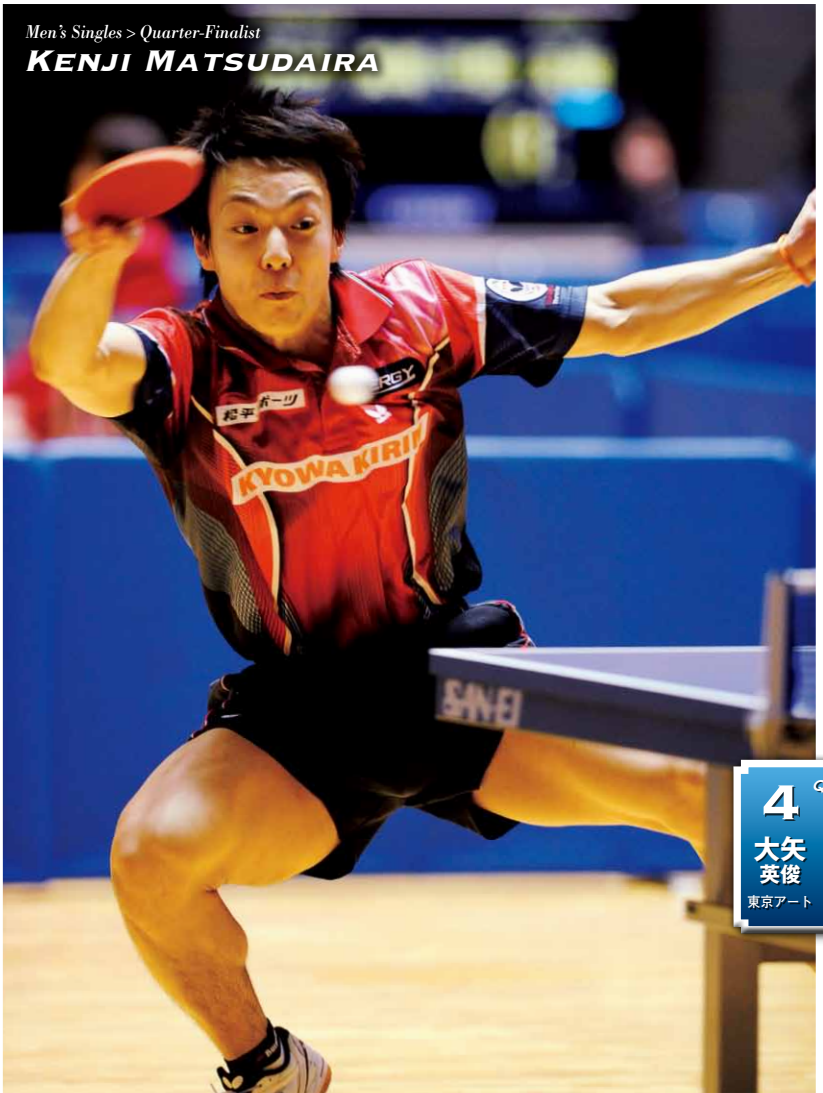
張一博、【東京アート・東京】
あとイッポ。最終ゲームで力尽きる

1-3とゲームをリードされてから3-3まで追いついたが、要所でのバックハンドのミスが痛かった。「最終ゲーム、自分のサービスで2-0でリードしたあと2本を取られるのが早かった。そこで流れが変わった。あんなに早く取られるとは……。焦って凡ミスも多くなった。あと少しのところで自分に負けてしまった」と悔やんだ張。全日本での水谷戦はまさに張にとって鬼門(きもん)となっている。

全日本では3度目の対戦となった水谷対張。水谷が競り合いでの強さを発揮した

Men's Singles > Quarter-Finalist
KAZUHIRO CHAN

4	QUARTER-FINAL	3
水谷 隼	11－9	張 一博
	9－11	
	11－3	
	11－6	
	7－11	
	9－11	
	11－3	
beacon.LAB		東京アート



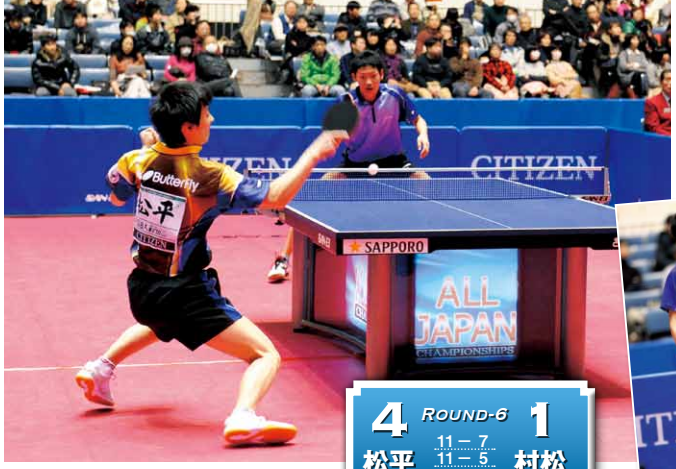
Men's Singles > Quarter-Finalist
KENJI MATSUDAIRA

前年3位、世界選手権でも活躍した松平賢二は、バック対バックから大矢にうまくフォアを攻められ、足を封じられた。「調子は悪くなかったけど、とにかく大矢さんが強かった。完敗です。バック対バックのラリーで主導権を握られてしまった。いつも大矢さんはもっと声を出して自分を鼓舞(こぶ)するのに、今日はあまり吠えなくて、やりにくかった」(松平)。

【協和発酵キリン・東京】
松平賢二
静かな大矢の前にマッスルケンジよもやの完敗

大矢にフォアをうまく攻められ、力を出し切れずにコートを去った松平

4	QUARTER-FINAL	0
大矢 英俊	11－6	松平 賢二
	11－5	
	11－6	
	11－6	
東京アート		協和発酵キリン



⬇ 松平にフォアに浅く落とされ、力を封じられた村松

4	ROUND-6	1
松平 健太 早稲田大	11－7 / 11－5 / 4－11 / 13－11 / 12－10	村松 雄斗 EA／帝京

※ EA ＝ JOC エリートアカデミー

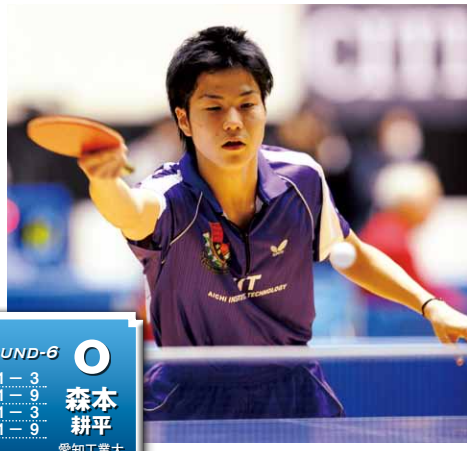
世界ランキング急上昇中の村松は松平健太の前に完敗、ベスト 16 に終わった。「相手はフォア前にループで落としてきて、ぼくのカットが浅くなったところを強打する作戦でした」（村松）。「思いどおりの展開にはならずに苦しかった。村松は最近伸びてきているので、要注意です」（松平）。

国内で越えるべき壁が村松の前に立ちはだかっている。

4	ROUND-6	0
水谷 隼 beacon.LAB	11－8 / 11－7 / 11－5 / 11－6	瀬山 辰男 リコー

センスあふれるプレーで初のランク入りを果たした瀬山は水谷に完敗。「相手は強かった。何もできなかった。最後で１点取るのはきついですね。いくら打っても返ってくるから」（瀬山）。

⬇ ２年連続のベスト８入りはならなかった森本



4	ROUND-6	0
張 一博 東京アート	11－3 / 11－9 / 11－3 / 11－9	森本 耕平 愛知工業大

昨年ベスト８の森本は今まで一度も勝ったことのない笠原（協和発酵キリン）に競り勝ったが、張に完敗。「 笠原さんに勝てたことがすごい自信になった。張さんにはいつも歯が立たない。打っても全部返されるから、いつも心が折れる。ぼくに打たせてから攻撃してくる」（森本）。

⬇ 前回チャンピオンの吉村は高校の先輩に球筋を読まれ完敗した

前回チャンピオン吉村を破った平野、勝利の跳躍

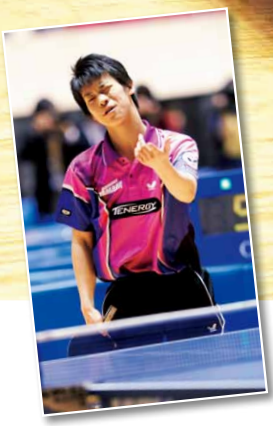
4	ROUND-6	1
平野 友樹 明治大	11－8 / 13－11 / 9－11 / 11－7 / 11－4	吉村 真晴 愛知工業大

高校（野田学園）の後輩、吉村を破った平野。敗れた吉村は「平野さんにはこの６年間で１回くらいしか勝ったことがない。体も思うように動いていなかったし、完全に相手の好きなようにやられた。全然進化しきれてないというか、ただただ止まっていただけなのかも」と絞り出すように敗戦後にコメントした。

松平賢二、昇り龍・吉田を完封

ラン決で吉田海偉を打撃戦の末に破った吉田雅己は松平賢二に完敗。「守備が苦手なので、先に攻められるととても苦しくなる。賢二さんは常に先手を取ってくるのでやりづらい。賢二さんに勝つことを目標にしていた。悔いが残る」（吉田）。

4	ROUND-6	0
松平賢二（協和発酵キリン）	11－6 11－8 11－9 13－11	吉田雅己（青森山田高）



⬅ブンデスリーガで活躍中の吉田は上位を狙ったが、ベスト16で終わった

〈6回戦〉ベスト8決定戦
Round-6

激戦、激ラリーを制した業師（わざし）・岸川

4	ROUND-6	3
岸川聖也（スヴェンソン）	5－11 11－8 16－14 11－13 11－7 1－11 11－4	高木和卓（東京アート）

岸川との壮絶なラリー戦に敗れた高木和。「レシーブが最後うまくできなかった。最終ゲームはちょっと大事にいこうとしすぎて、プレーが消極的になってしまったし、ボールも走らなかった」（高木和）。

ラリーでは互角だったが、最後は岸川のハイレベルなテクニックが高木和を押さえ込んだ。

⬆五輪選手に惜敗した社会人チャンピオンの高木和

優勝した丹羽に完敗した坪口。「ぼくの前陣と丹羽の前陣は違いすぎる。ぼくは台から出てから。丹羽は台の中で振るじゃないですか。もう崩しようがないです。強いですね。速さでは勝てない」と高校の後輩に脱帽。

4	ROUND-6	1
丹羽孝希（青森山田高）	11－3 2－11 11－3 11－4 11－3	坪口道和（長崎県スポーツ専門員）

大矢止まらず、時吉を止める

4	ROUND-6	3
大矢英俊（東京アート）	11－5 9－11 9－11 4－11 11－5 11－9 11－7	時吉佑一（TEAM GIFU）

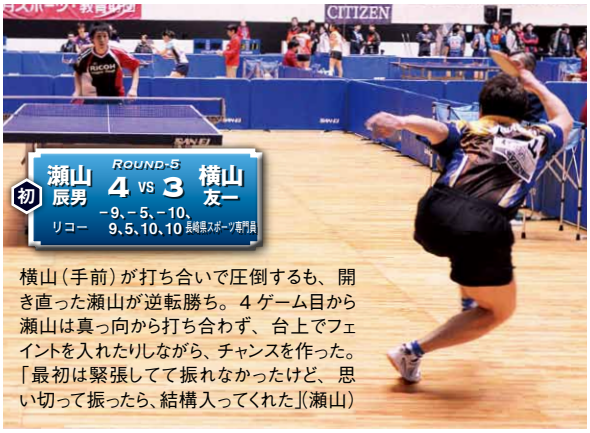
昨年は台風の目となった時吉は、下山（協和発酵キリン）に競り勝ち、大矢にもゲームオール7本まで迫った。「バック対バックで得点しないといけないと思っていたが、途中からミドルを突かれ、フォアで回り込んでから流れが変わってしまった。6ゲーム目、9-9に追いついてから勝負に出過ぎてしまった。もう少しゆっくり考えることができたら……」（時吉）。

大物食いの時吉は、気合い十分の野獣・大矢に食われた。

⬆下山を下したが、大矢には3-1のリードから痛恨の逆転負けを喫した時吉

魂のカット攻略で初ランク！

ユウキ感激



初 瀬山 辰男 ROUND-5 4 VS 3 横山 友一
リコー −9、−5、−10、9、5、10、10 長崎県スポーツ専門員

横山（手前）が打ち合いで圧倒するも、開き直った瀬山が逆転勝ち。4ゲーム目から瀬山は真っ向から打ち合わず、台上でフェイントを入れたりしながら、チャンスを作った。「最初は緊張してて振れなかったけど、思い切って振ったら、結構入ってくれた」（瀬山）

3 森本 耕平 ROUND-5 4 VS 3 笠原 弘光
愛知工業大 7、−7、−8 8、−6、8、7 協和発酵キリン

➡ 笠原が積極的に回り込んでフォアの引き合いに持ち込むが、サイドを突いたドライブ、フィッシュからの反撃で粘った森本がフルゲームで勝利。「もっとラリーになると思っていたけど、自分のミスが多すぎた」（笠原）

⬆ 森薗がチキータからの回り込みパワードライブを炸裂させ、水谷に迫った。「出足で水谷さんの雰囲気に押された。もう少し早く自分のプレーができていれば良かった」（森薗）

9 水谷 隼 ROUND-5 4 VS 2 森薗 政崇
beacon.LAB 6、9、−8、−4、3、11 青森山田高

※スコア内、勝者横の数字は、ランク入りの通算回数

初 平野 友樹 ROUND-5 4 VS 3 塩野 真人
明治大 −10、9、7、−9、10、−9、10 東京アート

⬆➡ 一進一退の白熱の激戦。最終ゲームは平野が1−4とリードされたがタイムアウトを取り、冷静さを取り戻して死闘を制した。「これまでにないくらいカット打ちに取り組んだ練習の成果がここで出たと思う。ランク決定戦でなく、対カットという意識で試合に入った」という平野。勝利を決めると何度もガッツポーズを繰り返した。一方の塩野は昨年6回戦の再現のような逆転負けに、ショックでコートに倒れた

《5回戦》ベスト16決定戦

Round-5

ランク決のドラマ

シングルスベスト16に贈られる“ランキング”を争う5回戦、「ランク決定戦」では、毎年激闘が繰り広げられる。そのドラマをお届けしよう！

初 村松 雄斗 ROUND-5 4 VS 1 森田 侑樹
EA／帝京 6、−13、7、7、8 シチズン

ループドライブと強打が巧みな森田（右）だったが、村松に対し「カットの変化は最後までわからなかった」と脱帽

7 高木和 卓 ROUND-5 4 VS 1 田勢 邦史
東京アート 3、5、−5、4、9 協和発酵キリン

出足から6−0とリードした高木和（奥）が攻撃の手をゆるめず、田勢のブロックを両ハンドで打ち抜いた

9 岸川 聖也 ROUND-5 4 VS 1 有延 大夢
スヴェンソン 7、5、−5、5、6 野田学園高

有延は岸川にボールを短く集められ得意のバックドライブもなかなか打てず。「また1年後にここまで来て次は勝ちたい」（有延）

初 吉田 雅己 ROUND-5 4 VS 1 吉田 海偉
青森山田高 8、−8、7、10、5 えひめTTC

雅己（左）が海偉のフォアを早めに突き、回り込みを封じた。「今は自分のほうが練習しているし、負けるわけにはいかない」（雅己）

野獣大矢が吠えた！飛んだ!!

⑧ 大矢 英俊（東京アート） ROUND-5 4 vs 2 上田 仁（青森大）
3、−4、6、5、−3、9

前陣でのピッチ対決。5ゲーム目に上田（左）が大矢のミドルを効果的に攻めて流れを引き戻すも、あと一歩及ばず。「今大会は今までで一番緊張した。ダブルスでも自分らしいプレーができず、不安要素を残したまま試合に臨んでしまった」（上田）

③ 時吉 佑一（TEAM GIFU） ROUND-5 4 vs 3 下山 隆敬（協和発酵キリン）
7、−6、−5、−9、8、10、8

早稲田大の同級生対決。「下山はダブルスのパートナーだったので、手の内はお互い知り尽くしている。とにかく先手を取ることを考えた」（時吉／手前）。下山も打球点の早い攻撃を見せたが、中陣で引き合うラリーで時吉の両ハンドが炸裂した

⑤ 丹羽 孝希（青森山田高） ROUND-5 4 vs 3 松下 海輝（明治大）
10、−9、2、−7、7、−11、3

松下が強烈なチキータレシーブを軸に攻める。「決め球を相手のフォア側に打とうと決めていた」という松下は、フォアのシュートドライブ、バックではドライブとミートを混ぜながらコースを突き、互角のラリーを繰り広げた。しかし最終ゲームは丹羽の本気が目覚め松下を一蹴。「（最後は）やろうと決めてたことができず、迷いが出てしまったのが敗因」（松下）

「大学に入ってから3回当たって、いつも競って負けていたので、対策は立てていた」という大島（手前）。昨年度チャンプの吉村に真っ向勝負のラリー戦を挑んだが、あと一歩だった

② 吉村 真晴（愛知工業大） ROUND-5 4 vs 3 大島 祐哉（早稲田大）
−8、8、−7、8、10、−8、9

③ 張 一博（東京アート） ROUND-5 4 vs 1 吉村 和弘（野田学園高）
6、4、−11、7、8

吉村（手前）のバックハンドが張のフォアを何本も抜くが、安定感の差が出た。「やったことがある相手だからわかっていた」（張）

⑥ 松平 賢二（協和発酵キリン） ROUND-5 4 vs 1 韓 陽（東京アート）
5、3、9、−10、4

動きの良くなかった韓に対し、松平がきっちりと打ち勝った。「しっかり動き、自分のやれることだけに徹した」（松平）

⑤ 坪口 道和（長崎県スポーツ専門員） ROUND-5 4 vs 1 上江洲 光志（愛工大名電高）
−6、7、6、6、9

坪口がサービスからの速攻で若手を一蹴。「仕掛けていくプレーをすれば良かったのに、中途半端になってしまった」（上江洲）

⑧ 松平 健太（早稲田大） ROUND-5 4 vs 0 坂本 竜介（協和発酵キリン）
3、8、9、4

坂本（奥）が随所で持ち味のパワフルなドライブを放つも、健太がストレートへの前陣カウンターなどで封じた

⬆決勝でも自分のペースを崩さず、前陣に徹した丹羽

EVALUATION

決勝は前・中陣での戦い。丹羽の強い部分と勝負してしまった水谷

倉嶋洋介
◉全日本男子監督

今年の全日本の男子シングルスでは、昨年の吉村真晴に続き、高校生の丹羽孝希がチャンピオンとなった。10代のチャンピオンが相次いで誕生するということは、日本男子の将来にとっても明るい傾向だと言える。

ベスト16以上の選手たちはかなりレベルが高く、実力的にも拮抗しており、優勝のチャンスがある選手が数人はいた。日本男子のレベルの高さ、競争の激しさを改めて証明するものだ。

男子決勝の丹羽と水谷隼の一戦は、ともにサービス・レシーブがうまく、3球目攻撃での得点率が高い選手同士の対戦だが、前・中陣でのプレーを主体とする丹羽、中・後陣でのラリー戦が多い水谷というプレー領域の違いがある。普段どおりに前陣に徹してプレーした丹羽に対し、水谷はあまり台から下がらず、丹羽と同じく前・中陣でのプレーが多くなっていた。序盤はそれで得点できていたが、中盤からは丹羽がコース取りや球種の変化を使ってうまく対応し、逆転した。水谷は丹羽の最も強い部分とまともに勝負してしまった感があり、ラリー戦に持ち込んで自分のペースに引きずり込むという、本来のプレーが最後まで影を潜めた。中・後陣での粘りやフィッシュでミスを誘いながら、うまく前陣でのプレーを混ぜていけば、より丹羽にプレッシャーをかけていけただろう。

水谷はロンドン五輪以来、およそ5カ月ぶりの公式戦。準々決勝の張一博戦からは本気モードに入り、「かなり感覚を取り戻したな」と感じたが、リードした試合は逃さない水谷が、決勝で逆転されたのはメンタル面の変化か。少し消極的になったところもあるだろうし、実戦感覚を取り戻せなかった部分が出てしまったのかもしれない。

3位には松平健太と大矢英俊が入った。松平健は昨年末から調子を落としていたが、全日本ではしっかり仕上げてきていた。彼は故障や病気が多く、大会に照準を合わせられないことが多かったが、調整能力という部分では成長が見られ、動きの良さも光った。大矢は勝ち上がるにつれて調子を上げてくるタイプで、調子の波に乗れば、やはり上位に食い込む力はある。

松平健と準々決勝で好勝負を演じた岸川聖也も、ここ最近は非常に良いプレーをしている。ロンドン五輪でベスト8に入った後も、モチベーションが低い試合は一切見られないし、「これから世界選手権もあるぞ」という志の高さを感じる。彼もまだ若いし、世界選手権でシングルス・ダブルスともにメダルを目指してもらいたい。

2連覇を目指した吉村真晴のプレーは、本調子とは言えなかった。吉村の卓球はツボにはまると強いが、タイミングを外されたり、手の内を知られた相手に攻めを封じられるとまだ弱い。全日本チャンピオンになってかなり研究され、自分の思うような感覚でプレーできなかったのではないか。それはトップ選手の宿命であり、研究されてもさらにその上を行くプレーを目指してもらいたい。

卓球では、いかに「相手に良い体勢で打たせないか」が非常に大事になる。世界のトップクラスであれば、自分が待っているところに来たボールならば、どんなに強いボールであっても対応できる。技術的にはやはりサービス・レシーブが最も重要であり、そしてボールの威力、ピッチの早さ、コース取りで、相手の体勢を崩していかなければならない。日本選手は打球タイミングの早さとコース取りのうまさでは世界のトップクラスであり、この日本の特長をさらに磨いていきたい。

今回の全日本を見て、選手たちを非常に頼もしく思う。10代の選手も村松雄斗をはじめ、才能ある選手が次々に育ってきている。

常に進化していかなければ世界の舞台では戦っていけないので、男子NTの監督として選手たちの進化を促していきたい。世界選手権の重要性は言うまでもないが、常に4年後のリオデジャネイロ五輪を視野に入れながら、強化を進めていきたい。

⬆技術力は健在だった水谷だが、決勝はやや前陣で勝負しすぎた感があった

《決勝》

Final

Women's Singles Winner

AI FUKUHARA

「自分は一番プレッシャーが少ない」逆境を力に変えた

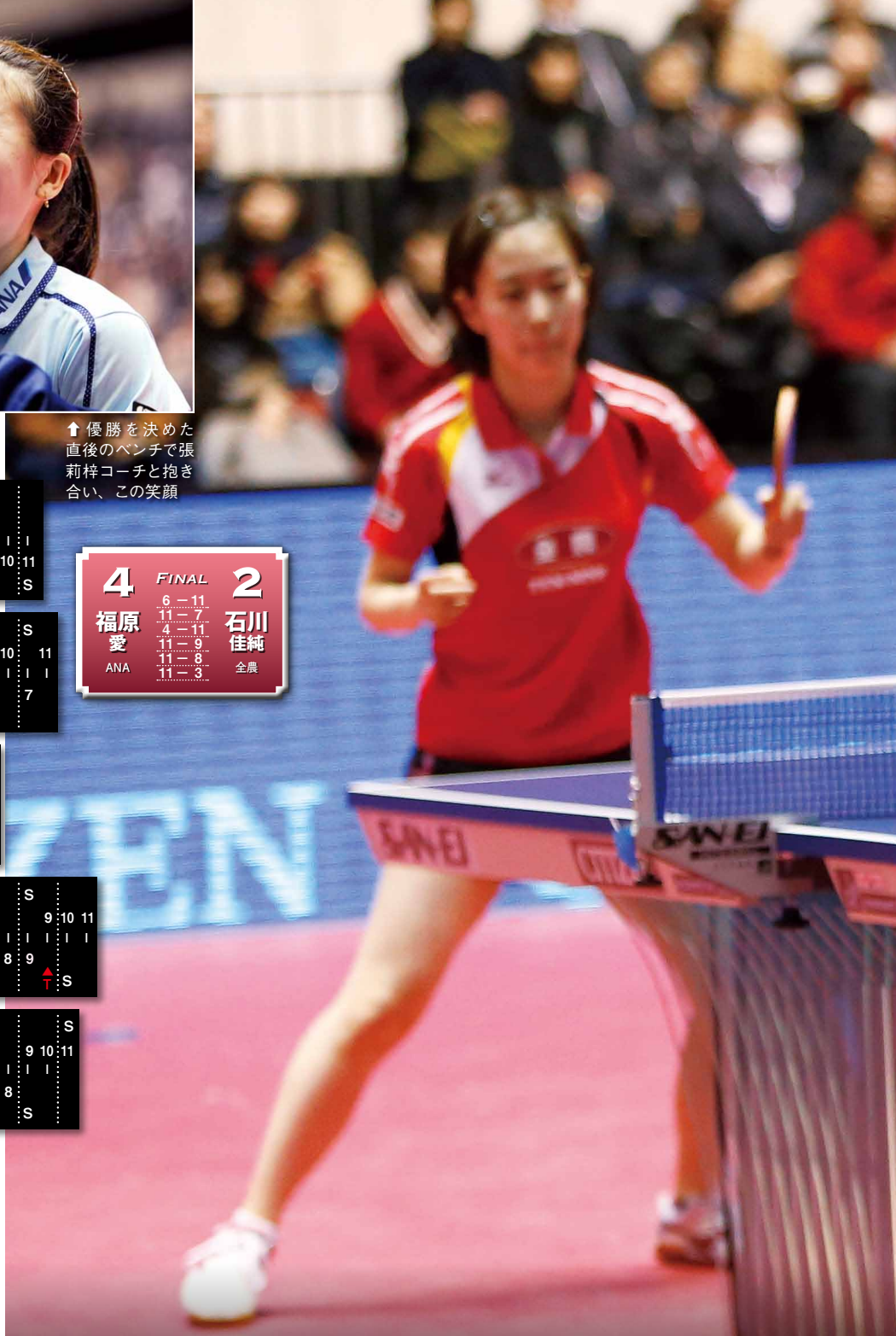
新生・福原愛［ANA・東京］2連覇!!

ロンドン五輪ベスト4の石川佳純とベスト8の福原愛。昨年と同じ顔合わせ、国内選手権としては中国に次ぐレベルの高さを示した女子決勝。

過去の対戦成績は福原の5勝、石川の2勝。直近の3試合はいずれも福原が勝利していたが、試合の序盤、先にエンジンがかかったのは石川だった。第1ゲーム6−6から、フォアドライブでのレシーブエースなどで5点を連取し、1ゲーム先取。福原はこの大会で初めて1ゲーム目を落とした。

そして、試合のひとつ目のターニングポイントがやってくる。第2ゲーム2−0で石川がリードした場面。ここで福原が2本連続でバックサイドに来た

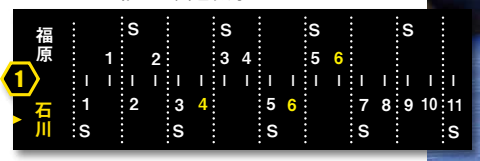
⬆優勝を決めた直後のベンチで張莉梓コーチと抱き合い、この笑顔

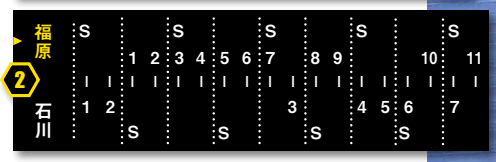


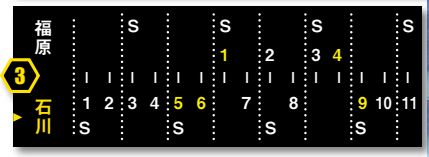
4	FINAL	2
福原 愛 ANA	6－11 11－7 4－11 11－9 11－8 11－3	石川 佳純 全農

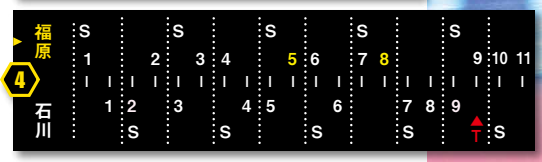
女子シングルス決勝・スコアの流れ

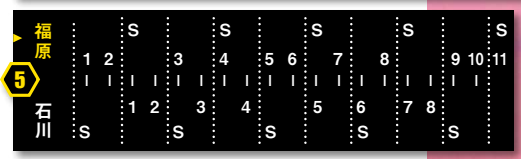
Sはサービス権で、黄色数字はサービスエース

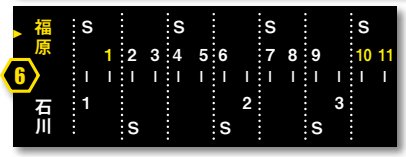












Tはタイムアウト

石川のロングサービスを、2本とも石川のフォアサイドを切るコースへバックハンドで返球。石川の3球目攻撃のミスを誘い、2－2に追いつくと、一気に7点連取で7－2と逆転した。

石川のロングサービスは本来のスピードではなく、次の3球目もつないで次球を狙う余裕が、石川にはなかった。「相手のボールに対して体が突っ込んだ。早く決めたいという焦りがプレーにたくさん出てしまった」（石川）。リードを広げれば試合の流れをつかめる場面で、「勝負を賭けた」というより、「勝負を焦った」サービスと3球目攻撃ではなかったか。

そして最大のターニングポイントは、石川がゲームカウント2－1とリードした4ゲーム目、9－9の場面だ。ここで石川がサービスの構えに入ってから、石川のベンチに入った劉国棟コーチ（元シンガポール女子監督）が慌ててタイムアウトを取る。

劉コーチが石川に授けたサービスのコースは、福原のフォア前。しかし、石川のサービスは狙いよりもミドル寄りに飛んだ。福原はすかさずバックフリックでレシーブし、意表を突かれた石川のバックハンドは力なくコートをオーバー。次の一本も福原が強烈なフォアドライブをフォアクロスに決めた。

「あのゲームを取られていたら、負けていたと思います」と福原は試合後のインタビューで語っている。勝負所で強気に攻めた福原と、サービスのコントロールを乱し、タイムアウトを活かせなかった石川。この第4ゲーム終盤の攻防が、両者の明暗を分けた。

「佳純ちゃんはもうタイムアウトを使っている。流れを変えるのは難しいと思った」と精神的に余裕を持って戦った福原は、第5ゲームを競り勝ち、第6ゲームは0－1から一気の6点連取。10－3でマッチポイントを握る。最後は石川の台上バックドライブがミスになり、福原の2連覇が決まった。

1ゲーム目を取られても弱気にならず、強気のレシーブで劣勢を跳ね返した福原。右ひじの手術からの鮮やかなカムバック。「体も技術もなかなか戻らなくて苦しかったけど、優勝できて一気にうれしい気持ちに変わりました」（福原）。表彰台で掲げた皇后杯は、初優勝の昨年とは違う輝きを放った。

全日本の呪縛から解き放たれ、「新しい腕」でつかみ取った皇后杯！

準決勝の藤井戦でも常に先手を奪い、競り勝った

《決勝》

Final

Women's Singles Winner

AI FUKUHARA

「今大会、一番プレッシャーがないのは自分なのかなと思います」

女子シングルス4回戦の終了後、そう語った福原。今年の全日本での福原のプレーには、簡単には崩れそうにない強さがあった。

言うまでもなく、今大会での最大の不安材料は、昨年8月のロンドン五輪閉幕後に手術を受けた右ひじの状態だった。

しかし福原は、右ひじを手術以前の状態と比べることをせず、「新しい腕と交換したと思っている」と語った。手術後の3カ月近いブランクによって、銀メダル獲得による「燃え尽き症候群」になることもなく、全く新しい気持ちで卓球に向き合うことができた。「ケガの功名」と言ってしまえば簡単だが、それを可能にした彼女のセルフコントロールには驚かされる。

かつての全日本で優勝へのプレッシャーに苦しみ、無理な強打を連発してペースを崩していた頃の面影はもうない。「今年こそ優勝」「来年こそ優勝」と言われながら、苦しそうにプレーしていた福原愛は、もういないのだ。

「今でも練習後はアイシングとマッサージを欠かさない」と張莉梓コーチが語ったように、まだ「新しい腕」は万全ではない。しかし、常に抱えていた痛みがなくなり、思い切り振り切れるようになったバックハンドは、抜群の決定率を誇った。

昨年、威力の出るスイングへの改造に取り組んだフォアハンドも、よりスムーズに振れるようになっている。決勝では石川のハイトスサービスが台から出てくるのを、すかさずレシーブからフォアドライブで攻めたことが、勝利の大きな要因となった。

「愛は試合でちゃんと自分の技術を出せるようになった。成長したなあと思います」（張コーチ）。全日本で見せた新生・福原愛のプレーは、5月の世界選手権パリ大会にも期待を抱かせる。03年大会でベスト8に入って華々しく国際舞台にデビューして以来、10年ぶりのパリの地へ。パリもきっと、彼女の凱旋を待っている。

Golden Card

女子卓球界の黄金（ゴールデン）カードを検証する

福原愛 vs. 石川佳純

Ai Fukuhara　Kasumi Ishikawa

人気と実力を兼ね備えたふたりの対戦は、まさに女子卓球界の黄金カード。初めて公式戦で対戦した平成20年度全日本選手権からの熱戦の歴史を、ここにプレイバック！

すごく緊張した。試合をやっていて
勝てる感じではなかった（石川）

福原 4－0 石川

↑「石川選手に勝っている点は経験なので、そこを活かした」という福原が、硬さの見える石川にラリー戦で完勝

いつかは抜かれると思っていた
負けてプレッシャーがなくなった
すごく**スッキリ**しています（福原）

石川 4－1 福原

↑石川がキレのある両ハンドドライブで福原に快勝。福原は「すごく頼もしいなと思う」とコメント

↑福原との試合に敗れ、涙を流した石川

今日の**負け方**は
決して悪い負け方ではない（福原）

石川 4－1 福原

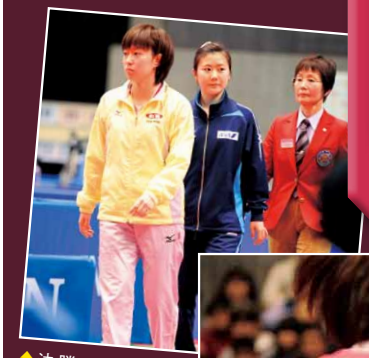
↑悲願の初優勝を目指した福原を、石川が準決勝で撃破。石川はこの勢いのまま初優勝を飾り、福原より先に皇后杯を手にした

6勝 ★★★★★★ 2009▸2013 **2勝** ★★

Ai Fukuhara

VS.

Kasumi Ishikawa



↑決勝のコートに入場するふたり

福原 4－0 石川

荻村杯の準決勝での対戦は、ストレートで福原に軍配

➡強化されたフォアハンドでレシーブから積極的に攻めた福原が、石川を下してついに初優勝

大事なところで思い切ったプレーができなかった。
これじゃ愛ちゃんに
勝てるわけがない（石川）

石川さんと試合をすると、いつも新しい発見がある。
どんな発見があるか**楽しみ**でした（福原）

■ 公式戦対戦記録　福原愛 VS 石川佳純

2009	平成20年度全日本選手権	準々決勝	○福原	−6、7、−4、9、8、3	石川
2009	アジア選手権代表選考会	最終戦	○福原	−7、9、9、10	石川
2010	ジャパントップ12	決勝	福原	−3、−5、−5、6、−8	石川○
2011	平成22年度全日本選手権	準決勝	福原	−7、10、−3、−4、−9	石川○
2011	JTTLビッグトーナメント	決勝	○福原	9、9、−9、4	石川
2011	ジャパンオープン荻村杯	準決勝	○福原	11、9、14、6	石川
2012	平成23年度全日本選手権	決勝	○福原	7、7、7、−3、5	石川
2013	平成24年度全日本選手権	決勝	○福原	−6、7、−4、9、8、3	石川

自分の成長を確かめながら高め合う福原と石川

「愛ちゃん2世」。全日本選手権で華々しい活躍を見せるようになった頃、石川はマスコミからそう呼ばれていた。しかし、今やふたりは全日本の決勝で堂々と渡り合い、全く違うプレースタイルで世界に挑み続けている。

昨年の全日本選手権後に福原が発した「石川さんと試合をすると、いつも新しい発見がある」というコメントからは、自分の能力を引き出し、高めてくれる相手としての石川の存在の大きさがうかがえる。それは石川にとっても同じことだろう。これからも、ふたりが展開する熱戦からは目が離せない。

Women's Singles Runner-up
KASUMI ISHIKAWA

精度を失ったサービス
石川佳純、先手を奪えず
［全農・山口］
悔しい2年連続の準優勝

女子シングルスの初戦となった4回戦の伊藤みどり（十六銀行）戦を終え、石川佳純はこんなコメントを残した。「サービスがまだまだ良くない。今日はもう少しサービス練習をして明日に備えます」。

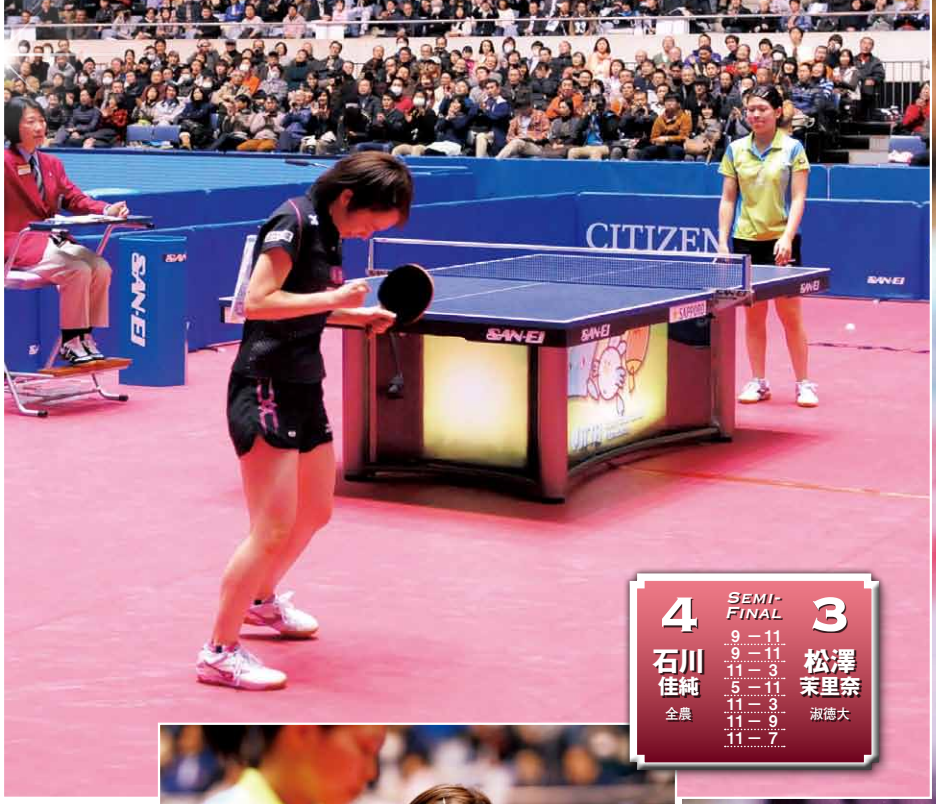
しかし、石川の強さの源であるサービスは、女子シングルス決勝のゲームオーバーの瞬間まで、ついに本来の感覚を取り戻すことはなかった。それは「フォア前にサービスを出そうと思ったけど、思ったよりミドル寄りになって狙われてしまった」と振り返った、決勝第4ゲーム9－9からの一本に象徴されている。

ボールの落下スピードを利用して、強い回転を与えるハイトスサービスは、威力と引き替えに安定性やコントロールを失いやすい「諸刃の剣」。会場の中の気流や照明の違いにも大きく影響を受ける。決勝を戦った石川と福原はともにハイトスサービスの使い手だが、両者ともサービスのコントロールには甘さが見られた。

しかし、石川のサービスのコントロールが乱れた最大の要因は、やはりプレッシャーだろう。福原に敗れた決勝を振り返って、「正直、いつもよりすごく緊張しました。リードしたところで守りに入ってしまったし、『攻めていこう』ではなく、『何を入れよう』と思ってしまった」と語っている。

これまで全日本の魔物とは無縁に見えた石川を襲ったプレッシャー。今年の彼女は明らかに挑戦者ではなかった。中学2年で全日本ベスト4入りを果たし、両ハンドのカウンターを連発した天才少女は、今や五輪銀メダリストの称号とともに、多くの選手からの挑戦を受ける立場。準決勝で石川を敗戦の瀬戸際まで追い詰めた松澤（淑徳大）は、「石川さんは同じ年代で良い刺激をもらっているし、勝てるように頑張りたい」とコメントしている。

2年連続で決勝で敗れた悔しさに、表彰台では硬い表情を崩さなかった石川。しか



4 石川佳純 全農	SEMI-FINAL	3 松澤茉里奈 淑徳大
	9 − 11	
	9 − 11	
	11 − 3	
	5 − 11	
	11 − 3	
	11 − 9	
	11 − 7	

↑→ 準決勝の松澤戦は両ハンドのカウンターに苦しめられ、まさに薄氷を踏む勝利

↓ 積極的に取り入れていた台上バックドライブ。目の覚めるような強打を見せたが、ミスも多かった

↓ 石川のベンチに入ったのは、シンガポール女子を北京五輪団体銀メダルに導いた劉国棟コーチ（右）

し、今大会では新たな進化への予兆も感じさせた。決勝で時折見せた台上バックドライブや3球目でのバックドライブ攻撃だ。

まだ技術的には不安定で、決勝の最後のポイントも台上バックドライブのミスで失ったが、その威力は抜群。大会後に行われたオーストリアオープンの準々決勝では、中国のホープ・朱雨玲に対して強烈な3球目バックドライブを連発し、4−1で完勝。バックハンドの攻撃力の向上に、一定の成果を挙げつつある。

今年は20歳の節目の年。「活躍が期待される新成人」のスポーツ部門では1位にも選ばれた石川佳純。

全日本はもう、「怖い者知らず」で戦える舞台ではなくなったのかもしれない。悔恨もある、産みの苦しみもある。しかし、歩む道のりは悪路であるほうが、頂点へたどり着く強い足腰が養われるはずだ。

故障明けも何のその ファイター松澤茉里奈 圧巻の攻撃力

[淑徳大・埼玉]

Women's Singles Semi-Finalist
MARINA MATSUZAWA

前陣での両ハンドで、石川をあと一歩まで追い詰めた

さに「ぶっつけ本番」の全日本で、松澤茉里奈は昨年のベスト16から、一気に表彰台へと駆け上がった。

「昨年のジャパンオープンくらいから右肩を傷めていて、ずっとラケットを握れなかった。9月からは試合にも出られなくて、リハビリに通ったりして、練習を始めたのは11月後半くらいでした」。準決勝を戦い終え、そう語った松澤。昨年後半は大会出場をすべてキャンセルし、2連覇がかかった全日本大学総合選手権(個人)への出場もかなわなかった。

しかし、全日本が始まってみれば、そのプレーは快調そのもの。強く弾き打つバックハンド強打に加え、ミートの強いフォアハンドは、すでに日本女子でもトップクラスの攻撃力を備えている。

昨年の全日本では連続でフォアハンドを振ると、次第に体が開いてしまい、ボールがフォアストレートに集まる傾向があったが、今年は自在なコース取りでパワードライブを連発。準々決勝では昨年敗れた田代(日本生命)にも完勝し、会心のガッツポーズを見せた。

準決勝の石川戦もゲームカウント3−2の第6ゲームに9−7とリードし、決勝進出まで「あと2本」だったが、9−8となったところでのタイムアウトは、むしろ石川に反撃の余裕を与えてしまったか。最終ゲームも4−1、5−3のリードから逆転され、大魚を逃した。

「石川さんとはNTの合宿で練習することはあったけど、対戦するのは初めて。今日は向かっていくだけだったんですが、最後のゲームもリードしていたのに負けたのは、実力の差、経験の差だと思います」(松澤)。

五輪代表の福原・石川の強さが目立った今大会で、松澤の活躍は最もセンセーショナルだった。大会後には世界選手権パリ大会(個人戦)の日本女子代表にも選出。国際大会で経験を積めば、日本女子チームの貴重なポイントゲッターになれるポテンシャルを秘めた選手だ。

ロンドン五輪代表の福原・石川・平野の3人に対抗できる一番手という評価が高かった。昨年の全日本社会人では、2ゲームしか落とさずに2連覇を達成した藤井寛子。

藤井自身も「平野・福原・石川と、昨年度大会で負けた石垣。この4人に勝つことを目標に今大会に臨んだ」と語り、ベスト8決定の平野戦に照準を合わせていた。平野との対戦は実現しなかったが、準決勝までの勝ち上がりは完璧。準々決勝では対戦した岡本（サンリツ）に、「藤井さんのボールは下回転がすごく重くて、他の人とは全然違っていた」と言わしめた。

準決勝の福原戦は、2年前のジャパントップ12の決勝で4－1で勝利して以来の対戦。序盤ではフォアサイドからサービスを出すなど、サービスを出す位置を変えて福原に揺さぶりをかけたが、福原は両ハンドで藤井の攻撃を正確にブロック。強攻での自滅を避け、粘り強いプレーを見せた。藤井も随所で打球点の高いバック強打を決め、ゲームカウント0－2から2－2に追いついたが、中盤から攻めの手数を増やした福原に一歩及ばず。

「途中からは相手のバック半面にサービスを集めたり、戦い方を変えたけど、相手を崩すところまでいかなかった。福原の動きも良かったし、ラリーで全体的にボールが浅くなって、上から狙われて苦しくなった」（藤井）

これで全日本は準優勝3回、3位が2回。しかし、試合後の藤井の表情に「悲願かなわず」の悲壮感はなかった。「ずっとプロツアーに一緒に行ったりしてきた福原と準決勝で戦えて、お互いの持っているものをぶつけ合うことができた。今大会は自分の卓球をしたいという思いが強くて、観客の皆さんに一本でも良いプレーを観てもらいたかった」。

準決勝のゲームセットの直後、福原、審判、そして観客席へ小さくお辞儀した藤井。技量、品格は申し分なし。あとは全日本の土俵で、少し強引すぎるくらいのプレーも見てみたい。

Women's Singles Semi-Finalist

HIROKO FUJII

4 福原 愛 ANA	SEMI-FINAL	2 藤井 寛子 日本生命
	11－8	
	11－9	
	9－11	
	11－13	
	11－9	
	11－4	

「一本でも良いプレーを観てもらいたかった」

藤井寛子［日本生命・大阪］

納得の銅メダル

準決勝の福原戦ではフォアサイドからサービスを出すなど、揺さぶりをかけたが、福原のプレーは崩れなかった

小野思保［日立化成・東京］
初のベスト8も流す涙は悔し涙

Women's Singles Quarter-Finalist
SHIHO ONO

巧みな裏面ドライブと強烈なフォアスマッシュで、6回戦では強敵・若宮（日本生命）に完勝するなど、充実ぶりが光っていた小野。準々決勝の福原（ANA）戦では第2ゲームに1－6のビハインドから大逆転して1－1のタイに持ち込んだが、バック対バックで劣勢に立たされ、福原の3球目攻撃の緩急に苦しめられた。

「福原さんはサービスの出し方、タイミングの外し方がうまかった。注意していたけど、やっぱりうまくレシーブできなかった。初めてのベスト8ですけど、ベスト8が最低の目標だったので、うれしくはない」と試合後の小野。貴重なペン表速攻型としての矜持を見せた。

➡「自分としてはもっと上を狙っていた」と敗戦に涙を見せた小野

《準々決勝》
Quarter-Final

「一歩ずつ前進」岡本真由子［サンリツ・東京］ステップアップの8強

Women's Singles Quarter-Finalist
MAYUKO OKAMOTO

「今回はちゃんと力をつけてきたし、誰とやってもベスト8以上はいこうと思っていた。どういう結果になっても後悔はないくらいやり込んできました」。6回戦で狭間（十六銀行）との激戦を制し、充実のコメントを残した岡本。右シェークのフォア表ソフト・バック粒高という特異なスタイルで、全日本で存在感を示した。

準々決勝の藤井寛戦はストレート負け。藤井寛の重い下回転のボールに苦しんだ。「自分の課題がハッキリした試合。もうちょっと良い試合がしたかったし、悔しい」（岡本）。しかし、「ベスト8はまた来年の目標、一歩ずつという感じ」という昨年の言葉どおり、ステップアップの8強入りを果たした。

⬅6回戦で狭間（十六銀行）との大接戦を制し、脇ノ谷監督と笑顔で握手

4 藤井寛子 日本生命
QUARTER-FINAL
11－7
11－5
11－8
11－7
0 岡本真由子 サンリツ

Women's Singles Quarter-Finalist
SAKI TASHIRO

「自分は止まっていた」田代早紀［日本生命・大阪］まさかの完敗に落胆

4 松澤茉里奈（淑徳大）	QUARTER-FINAL	1 田代早紀（日本生命）
	11－6	
	9－11	
	11－4	
	11－4	
	14－12	

全日本社会人では初戦敗退を喫するなど、今シーズンは不振にあえいだ田代が、全日本で復調の気配。ラン決で阿部（サンリツ）、6回戦ではこれまで勝ったことのない福岡（中国電力）に完勝し、ベスト8入りを決めた。

しかし、昨年ゲームオールジュースで競り勝った松澤には完敗。松澤の積極的な両ハンド攻撃に押され、昨年のような心理戦に持ち込めなかった。「松澤さんはサービスが取りづらいし、フォアもバックもカウンターがあって、前陣で厳しく攻められた。相手は強くなっていたのに、自分は1年前のままで止まってしまっていた」（田代）。安定した両ハンドドライブに、他の選手にはない個性を加えていきたい。

↑昨年は競り勝った松澤に完敗を喫し、両ひざに手をついた

6回戦では全日本実業団の決勝ラストで完敗した天野（サンリツ）の対策を練り、見事にストレートで完勝した藤井優子。レシーブから積極的なプレーを見せたが、逆に準々決勝では石川のサービスに対して、大事な場面でレシーブが乱れた。「競った時にサービスで崩されると自信を持って戦えなかった」と試合後に語った。

高校2年での初ランクから実に6年連続のランク入り、そして2大会連続のベスト8。どんな戦型にも対応できる技術力が光るが、頂点への突破力には物足りなさも残る。全日本でどこまでどん欲になれるのか。

4 石川佳純（全農）	QUARTER-FINAL	0 藤井優子（日本生命）
	12－10	
	11－4	
	11－9	
	11－3	

↓6回戦では積極的なレシーブからの攻めで、天野を下した

Women's Singles Quarter-Finalist
YUKO FUJII

藤井優子［日本生命・大阪］両立できない安定性と爆発力

4	ROUND-6	3
松澤 茉里奈（淑徳大）	11－7 / 11－2 / 14－16 / 11－6 / 9－11 / 9－11 / 11－7	森 さくら（昇陽高）

白熱！ハードヒッター対決は闘志のぶつかり合い！

今大会の台風の目・森が、松澤と壮絶な打撃戦を展開。「去年のインハイ予選で負けたのがすごく悔しくて、もっと強くなりたいと思った」という森は、青森山田中時代に全日本カデット14歳以下2位の実力者。競り合いでもビビらないメンタルの強さが魅力だ。

《6回戦》ベスト8決定戦
Round-6

4	ROUND-6	0
小野 思保（日立化成）	11－7 / 11－6 / 11－6 / 11－6	若宮 三紗子（日本生命）

激しい叩き合いが予想された一戦は、小野がフォア強打で圧倒。「全部受け身になった。相手はちゃんと対策を立ててきたけど、私は対策不足だった」（若宮）

「常に相手のほうが先に仕掛けていた」と若宮。調子を上げる余裕を与えてもらえなかった

4	ROUND-6	1
藤井 寛子（日本生命）	13－11 / 11－5 / 11－9 / 4－11 / 13－11	加藤 美優（EA）

ランカーの中で最年少、中学1年生の加藤が藤井に挑戦。自ら課題と語る、フォアを攻められた時の対応にはまだ甘さも残るが、昨年より威力を増したフォア強打で互角のラリー戦を展開した。

シェークバック表ソフト同士の対決。実力者・山梨のプレーが注目されたが、福原が打球点の早さを生かしてバック対バックで優位に立ち、バックサイド深くへのロングサービスでピンチの芽を摘みとった。

3年連続で6回戦で敗退した山梨。来年はこの壁を破りたい

4	ROUND-6	0
福原 愛（ANA）	11－9 / 11－7 / 13－11 / 11－9	山梨 有理（十六銀行）

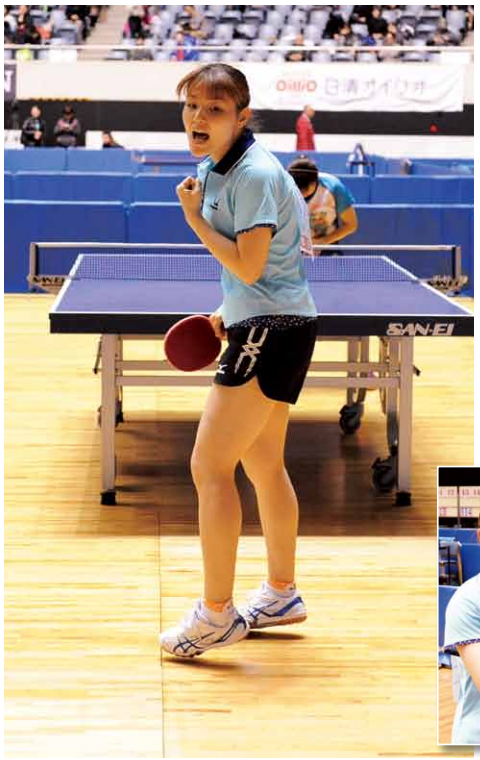
「自分でもビックリ」初勝利がストレート勝ち！

4 ROUND-6 0
田代早紀（日本生命） 11－8, 11－9, 11－6, 11－6 福岡春菜（中国電力）

安定したバックドライブを軸に、福岡の粒高の変化ボールを確実に攻略した田代。福岡対策が実り、「4、5回やって一度も勝ったことがない」というのが信じられないほど、落ち着いたプレーを見せた。「プレーを修正する勇気が足りなくて、単調になった。今年1年はすごく良かったので、もうちょっとご褒美がほしかったけど……」（福岡）。

4回戦で全中優勝の佐藤（尾札部中）、5回戦でインハイ女王の前田（希望が丘高）を連破した根本（上写真）が、高2の全日本ジュニア以来の石川との対戦。5年前は完敗だったが、今回はゲームカウント2－1とリードして石川をヒヤリとさせた。「少しは自分の成長も見られたのかなと思いました」（根本）。

4 ROUND-6 2
石川佳純（全農） 10－12, 11－9, 6－11, 11－8, 11－6, 11－6 根本理世（中央大）



最終ゲーム9－10から狭間（写真）が追いついたが、最後は岡本のエッジボールで決着。狭間は第4ゲーム10－6のゲームポイントを生かせなかったことが大きく響いた。

4 ROUND-6 3
岡本真由子（サンリツ） 8－11, 3－11, 12－10, 12－10, 8－11, 11－9, 12－10 狭間のぞみ（十六銀行）

4 ROUND-6 0
藤井優子（日本生命） 11－8, 11－4, 11－6, 11－5 天野優（サンリツ）

サービスの研究などの「天野対策」を積んだ藤井が完勝。「何回も対戦しているけど、今回はレシーブが全く違って、やりにくいところを攻められた。得意なパターンを何もやらせてもらえなかった」（天野）。

カットマンの真骨頂、粘りの逆転勝利。

➡ 序盤はループドライブからの強打を叩き込んだ松本（手前）がリード。しかし強打にも対応しはじめた根本が粘り強くカットでしのぐと、松本が打ち急ぐ展開が増えた。最後はネットインの幕切れで、冷静に拾い続けた根本が辛くも初ランクを勝ち取った

初 根本理世（中央大） ROUND-5 4 VS 2 松本優希（ミキハウス） −7、−5、11、7、9、13

⬇ ラン決挑戦３回目の松平（手前）は「レシーブができなかった」と松澤のバックサービスに苦しんだ。バック対バックの打ち合いでは互角だった松平だったが、松澤が徐々に両ハンドの威力をアップさせて勝利

2 松澤茉里奈（淑徳大） ROUND-5 4 VS 2 松平志穂（四天王寺高） −6、10、−7、5、7、5

《５回戦》ベスト16決定戦

Round-5 ラン決のドラマ

全日本に出場する誰もが“ランキング”を目指す。女子５回戦＝ランク決定戦で繰り広げられた16の熱きドラマを見ていこう。

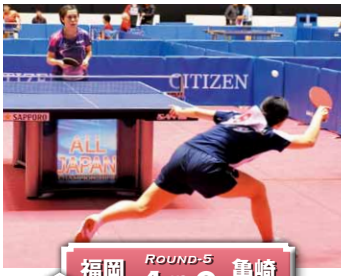
⬇ 岡本（手前）がバックにツッツキとフリックを織り交ぜ、決め球はフォアに打つ戦法で野中のカットを攻略。「（カットの）脇ノ谷監督にかなり練習してもらい、自信を持って臨むことができた」（岡本）

2 岡本真由子（サンリツ） ROUND-5 4 VS 1 野中由紀（長崎県スポーツ専門員） 10、6、−6、10、8

※スコア内、勝者横の数字は、ランク入りの通算回数

⬆４回戦で平野（ミキハウス）を破った前瀧（左）だったが、しゃがみ込みサービスから浮いたレシーブを積極的に打っていった加藤に軍配。加藤は中学１年ながらランク入りを果たした

初 加藤美優（EA） ROUND-5 4 VS 2 前瀧初音（正智深谷高） 10、−9、9、−7、8、6



4 福岡春菜（中国電力） ROUND-5 4 VS 0 亀崎遙（KTGクラブ） 3、8、8、5

福岡（奥）が粒高とループドライブで前後左右に亀崎を振り回す。亀崎も打っていくが堅いブロックにシャットアウトされた

2 天野優（サンリツ） ROUND-5 4 VS 1 中島未早希（早稲田大） 8、−7、8、4、8

好調天野（手前）がパワーで押し切り、２年ぶりのランク入り。「競ると思ったが、コースが厳しく先手が取れなかった」（中島）

初 狭間のぞみ（十六銀行） ROUND-5 4 VS 0 平侑里香（正智深谷高） 6、5、9、9

石垣（日本生命）に快勝した平を狭間（右）がラリー戦で制した。「自分自身のプレーに集中できた」と狭間は悲願のランクに笑顔

12 福原愛（ANA） ROUND-5 4 VS 1 丹羽美里（淑徳大） 7、12、6、−3、6

全日学女王の丹羽は、中陣から伸びのある両ハンドドライブを見せたが、福原のバックハンドに対応できなかった

昨年と同じカードはまたも好ゲームに。中盤は宋が若宮のフォア側をつき五分五分の展開へ。「途中で足に力が入らなくなった」という若宮が苦戦を強いられたが、コースを散らして相手のミスを誘い逃げ切った。「昨年も競っていたのでドキドキでした。バックで変化をつけてから攻める作戦がうまくいった」（若宮）

5 若宮 三紗子（日本生命） ROUND-5 4 VS 2 宋 恵佳（青森山田高）
2、9、7、−10、−8、7

↑←12月の世界選手権選考会では阿部に敗れていた田代だったが、阿部の変化ボールも苦にせず丁寧につなぎ、要所でフォアサイドを突いて笑顔の快勝。今シーズン好調の阿部も積極的な攻めを見せたが、粘り切れず先にミスが出た

3 田代 早紀（日本生命） ROUND-5 4 VS 1 阿部 恵（サンリツ）
9、−7、4、5、9

市川（左）の巧みなサービスに対し、「レシーブ練習をたくさんしてきた」という藤井が落ち着いて対応、強気の攻撃を見せた。今シーズン好調の市川はリードした場面もあったが、初のランク入りを逃した

6 藤井 優子（日本生命） ROUND-5 4 VS 0 市川 梓（日立化成）
9、11、7、11

➡ジュニアでは平野美宇にゲームカウント0−2から逆転勝利するなど、驚異的な精神力を持つ森が、この試合でも劣勢を跳ね返した。「鈴木さんは打たれ強いので、強弱をつけてきた時にしっかり対応することを考えました」（森）

初 森 さくら（昇陽高） ROUND-5 4 VS 2 鈴木 李茄（青森山田高）
−11、−8、6、8、9、13

気合い＋（プラス）冷静な戦術で怒濤の4ゲーム連取！

3 山梨 有理（十六銀行） ROUND-5 4 VS 0 橋本 帆乃香（ミキハウスJSC）
2、2、2、11

中学2年のカットマン橋本。山梨のドライブは止まるがスマッシュは止まらず。山梨が貫禄を見せつけた形になった

2 小野 思保（日立化成） ROUND-5 4 VS 1 玉石 美幸（同志社大）
4、6、7、−13、11

フォアのカウンターとバックのしのぎ、技の多さで小野が玉石を圧倒。「相手は学生だし、負けられないと思っていた」（小野）

9 藤井 寛子（日本生命） ROUND-5 4 VS 0 平野 容子（東京富士大）
2、4、5、10

平野の果敢な攻めを藤井がブロック&快帯でことごとくはじき返す。「すべての面で相手が上だなと感じた」（平野）

7 石川 佳純（全農） ROUND-5 4 VS 1 鳥居 夕華（神戸松蔭女子学院大）
6、6、−9、3、6

前陣でのバック対バックの打ち合いに持ち込み、1ゲームを奪った鳥居だが、「内容では競っていない」と石川の技術力に脱帽

↑ひじの手術を乗り越え、2連覇を果たした福原

EVALUATION

レシーブにうまさを見せた福原と、対カットから崩れた石川に明暗が出た。

村上恭和
◉全日本女子監督

福原愛は、五輪後に右ひじの手術をし、勝負勘が戻っているかという心配があったが、見事二連覇を達成。今大会は比較的対戦しやすい相手から当たっていったというのもあり、調整をしながら勝ち進むことができたようだ。

決勝の石川佳純戦は、うまくレシーブできたほうが勝つと見ていたが、福原は大事なところで良いレシーブができていた。特に4ゲーム目の9－9で石川がタイムアウトをとった後のレシーブは、ミドルに来たアップサービスに対し、バックハンドで相手のミドルに強く払った。今までにないコース取りで、あのプレーで「勝負あり」と感じた。また福原は、接戦で我慢できるようになったというのもこの1年の成長である。昔は競った場面で打ち急ぐことが多かったが、それをつなげられるようになっている。

石川は6回戦（ベスト8決定）でカットの根本理世に苦しんだが、そこから少し崩れたように思う。対カットはロンドン五輪前にかなり練習をして、誰にも負けないという自信があったはずだが、根本戦ではそれが出せなかった。その結果、スイングが崩れて、自信のあるプレーができなくなり、その後のミックスダブルスの決勝でもミスが出てしまった。根本戦をもっとスムーズに勝っていれば、ミックスダブルスも勝っていただろうし、それ以降のシングルスの戦いぶりも違っていたのではないか。

勝負強さを見せ準決勝進出を果たした松澤茉里奈は、今大会の中で一番目立った選手と言えるだろう。松澤の良さは両ハンドのドライブをストレートに打てること。ほとんどの選手は勝負所ではクロスにしか打てないものだが、いつでもストレートに打てるというのが良い。今年度は肩を痛めて、学生の大会も欠場していたが、その中でしっかりと結果を残せたというのは立派だ。調子が悪かったとはいえドライブ型を得意とする石川とあれだけの勝負ができる選手はなかなかいない。国際大会でも韓国の梁夏銀（ヤン・ハウン）に勝っているし、今後戦術の幅を広げていけば、世界での活躍も期待できるだろう。

同じくベスト4の藤井寛子は持てる力を全部出せたと思う。危なげない勝ち上がりだったし、分が悪い福原にも久しぶりに競ることができた。年齢的なものもあり、リーグ戦などの長期戦になると体力、集中力が続かない面もあるが、一発勝負のトーナメントならまだまだ勝てるだろう。

活躍が期待された平野早矢香は残念ながら初戦敗退。平野は、08年の北京五輪の後の世界戦予選会でも惨敗（ざんぱい）した経験があり、世界の大舞台で一皮（ひとかわ）むけたかと思いきや……ということが以前からある。考えすぎてしまったり、重荷を背負いすぎてしまうのだろう。ただし、彼女の場合は沈んでも、また努力を重ねて復活できる選手なので心配はない。

若手では、中学一年でランク入りを果たした加藤美優が良かった。加藤は相手をよく見てプレーができ、コース取りのうまさがある。凡ミスも少ないし、精神的にもタフな選手だ。また森さくらの活躍も光った。12月に行われた世界戦予選会1位の森薗美咲、2位の鈴木李茄を破り、松澤とも接戦を演じた。今後の成長に期待したい選手のひとりだ。以上2名は一般のシングルスでランク入りを果たしたわけだが、個人的にはジュニア世代から、一般でベスト8以上に入るような、抜け出す選手が出てほしかった。レベル的な問題もあるが、それよりも福原や石川が若かった頃の「絶対勝ってやる」という気迫が今の若い選手に感じられなかったのが残念だった。4年後、8年後の五輪に向けて、若い芽を早く育てたいという思いもあるので、もっともっと成長してもらいたいというのが全体を見ての感想だ。

➡中1でランク入りの加藤。状況判断に優れ、対応力の高さが光る期待の若手だ

※用具は全日本で使用したもの。試合名のない戦績は、全日本のもの（年は年度表記）。 ●ラケット（グリップ） ▲フォア面（表面）ラバー ★バック面（裏面）ラバー

※ EA ＝ JOC エリートアカデミー　R=Ranking

R4 大矢英俊 *Hidetoshi Oya*

東京アート・東京／三重県出身、24歳。青森短期大卒。09年5位、11年15位。08年学生選抜優勝。11年ビッグトーナメント準優勝。右S裏・裏／ドライブ型。●バタフライ／特注（ZLC）（FL）▲バタフライ／テナジー・64（特厚）★バタフライ／テナジー・05（特厚）

R3 松平健太 *Kenta Matsudaira*

早稲田大・東京／石川県出身、21歳。青森山田高卒。08年準優勝、09年混合複優勝、10年複優勝・混合複準優勝、11年3位。10年荻村杯複優勝。右S裏・裏／ドライブ型。●バタフライ／ティモボル・ALC（FL）▲★バタフライ／テナジー・05（特厚）

R2 水谷　隼 *Jun Mizutani*

beacon.LAB・東京／静岡県出身、23歳。青森山田高卒。06～10年単優勝、06～09年複優勝、11年準優勝。左S裏・裏／ドライブ型。●バタフライ／特注（スーパーZLC）（ST）▲バタフライ／テナジー・64（特厚）★バタフライ／テナジー・80（特厚）

R1 丹羽孝希 *Koki Niwa*

青森山田高・青森／北海道出身、18歳。青森山田中卒。09・10年ジュニア優勝、10年複優勝。11年世界ジュニア優勝。左S裏・裏／ドライブ型。●バタフライ／アムルート（FL）▲バタフライ／テナジー・25（特厚）★バタフライ／テナジー・05（特厚）

R8 平野友樹 *Yuki Hirano*

明治大・山口／栃木県出身、20歳。野田学園高卒。09年男子複ベスト8、ジュニア準優勝。10年インターハイ複優勝。11年全日学複優勝。右S裏・裏／ドライブ型。●バタフライ／水谷隼（FL）▲バタフライ／テナジー・05（特厚）★バタフライ／テナジー・64（特厚）

R7 松平賢二 *Kenji Matsudaira*

協和発酵キリン・東京／石川県出身、23歳。青森大卒。09年4位、10年5位、11年4位・混合複優勝。08年全日学優勝。右S裏・裏／ドライブ型。●バタフライ／SK7（特注）（ST）▲バタフライ／テナジー・64（特厚）★バタフライ／テナジー・05・FX（特厚）

R6 張　一博 *Kazuhiro Chan*

東京アート・東京／中国出身、27歳。青森短期大卒。09年3位、10年準優勝。10年東京選手権優勝、11年全日本社会人単優勝。左S裏・裏／ドライブ型。●紅双喜／キョウヒョウ皓Ⅲ（FL）▲バタフライ／テナジー・05（特厚）★バタフライ／テナジー・05・FX（特厚）

R5 岸川聖也 *Seiya Kishikawa*

スヴェンソン・東京／福岡県出身、25歳。仙台育英学園高卒。06～09年複優勝、11年複優勝。11年世界選手権混合複3位。12年ロンドン五輪ベスト8。右S裏・裏／ドライブ型。●バタフライ／SK7（FL）▲バタフライ／テナジー・05（特厚）★バタフライ／テナジー・64（特厚）

R12 吉村真晴 *Maharu Yoshimura*

愛知工業大・愛知／茨城県出身、19歳。野田学園高卒。10年ジュニア3位、11年優勝。11年世界ジュニア3位。12年学生選抜優勝。右S裏・裏／ドライブ型。●バタフライ／特注（ZLC）（FL）▲バタフライ／テナジー・05（特厚）★バタフライ／テナジー・64（特厚）

R11 村松雄斗 *Yuto Muramatsu*

EA／帝京・東京／山梨県出身、16歳。帝京高校在学。11年ジュニア3位。08年・09年全日本カデット優勝。右S裏・表／カット型。●バタフライ／朱世赫（FL）▲バタフライ／テナジー・64（特厚）★TSP／スーパースピンピップス・チョップスポンジ2（中）

R10 時吉佑一 *Yuichi Tokiyoshi*

TEAM GIFU・岐阜／愛知県出身、27歳。早稲田大卒。08年複準優勝、10年10位、11年7位。12年社会人ベスト8。右S裏・裏／ドライブ型。●紅双喜／キョウヒョウ龍（ST）▲紅双喜／キョウヒョウⅢ（特厚）★ニッタク／ファスタークC-1（特厚）

R9 高木和卓 *Taku Takakiwa*

東京アート・東京／東京都出身、24歳。青森山田高卒。09年7位、10年3位、11年8位。06年インターハイ優勝。11年社会人複優勝、12年社会人優勝。右S裏・裏／ドライブ型。●バタフライ／特注（ZLC）（FL）▲★バタフライ／テナジー・05（特厚）

R16 森本耕平 *Kohei Morimoto*

愛知工業大・愛知／広島県出身、21歳。愛工大名電高卒。10年16位、11年5位。12年全日学複優勝。右S裏・裏／ドライブ型。●バタフライ／インナーフォース・ZLC（FL）▲バタフライ／テナジー・05（特厚）★バタフライ／テナジー・64（特厚）

R15 瀬山辰男 *Tatsuo Seyama*

リコー・東京／静岡県出身、24歳。中央大卒。09年男子複3位、10年混合複優勝。09年・10年全日学複優勝、単ベスト8。右S裏・裏／ドライブ型。●ニッタク／アコースティック（FL）▲バタフライ／テナジー・05（特厚）★バタフライ／テナジー・64（特厚）

R14 吉田雅己 *Masaki Yoshida*

青森山田高・青森／北海道出身、18歳。青森山田中卒。10・11年ジュニア準優勝。09年全中単優勝。12年インターハイ単優勝。右S裏・裏／ドライブ型。●バタフライ／インナーフォース・ZLC（ST）▲バタフライ／テナジー・05（特厚）★バタフライ／テナジー・64（特厚）

R13 坪口道和 *Michikazu Tsuboguchi*

長崎県スポーツ専門員・長崎／長崎県出身、26歳。青森大卒。09年11位。11年社会人単・複ベスト16。右S裏・表／前陣速攻型。●TSP／ヒノカーボン・スピード（FL）▲バタフライ／テナジー・05（特厚）★ニッタク／ハモンドFA（1.8mm）

WOMEN'S ランキングプレーヤー・データ

※年齢は全日本時のもの。 ●ラケット（グリップ） ▲フォア面（表面）ラバー ★バック面（裏面）ラバー

R=Ranking

R4 藤井寛子 *Hiroko Fujii*

日本生命・大阪／奈良県出身、30歳。淑徳大卒。10年準優勝、11年10位、09～11年複優勝。11・12年社会人単複優勝。 右S裏・裏／ドライブ型。●バタフライ／インナーフォース・ALC（ST）▲★バタフライ／テナジー・05（特厚）

R3 松澤茉里奈 *Marina Matsuzawa*

淑徳大・埼玉／長野県出身、20歳。青森山田高卒。11年9位。10年全日学ベスト8。10年学生選抜優勝。11年全日学優勝。右S裏・裏／ドライブ型。●バタフライ／コルベル・スピード(FL) ▲バタフライ／テナジー・05（特厚） ★ヤサカ／ラクザ7(特厚)

R2 石川佳純 *Kasumi Ishikawa*

全農・山口／山口県出身、19歳。四天王寺高卒。09年5位・混合複優勝、10年優勝・混合複準優勝、11年2位。左S裏・裏／ドライブ型。●スティガ／クリッパーCR WRB(FL) ▲ニッタク／ファスタークG-1(特厚) ★バタフライ／テナジー・64（特厚）

R1 福原愛 *Ai Fukuhara*

ANA・東京／宮城県出身、24歳。青森山田高卒。08年3位、09年10位、10年3位、11年優勝。11年世界選手権混合複3位。右S裏・表／前陣速攻型。●特注(5枚合板／FL) ▲バタフライ／スピンアート(特厚) ★アームストロング／アタック8

R8 藤井優子 *Yuko Fujii*

日本生命・大阪／奈良県出身、22歳。近畿大卒。10年16位、11年7位。10年全日学優勝。11・12年社会人3位。右S裏・裏／ドライブ型。●バタフライ／インナーフォース・ZLF(ST) ▲バタフライ／テナジー・05（特厚） ★バタフライ／テナジー・25（特厚）

R7 岡本真由子 *Mayuko Okamoto*

サンリツ・東京／奈良県出身、25歳。立命館大卒。11年13位。09年全日学ベスト8。10年社会人複3位。右S表・粒／前陣速攻型。●スティガ／クリッパーCR(FL) ▲アンドロ／ヘキサーピップス(2.1mm／縦) ★ヤサカ／ファントム0011∞(極薄)

R6 田代早紀 *Saki Tashiro*

日本生命・大阪／岡山県出身、21歳。山陽女子高卒。07年ジュニア3位、10年9位、11年3位。11年社会人準優勝。右S裏・裏／ドライブ型。●紅双喜／キョウヒョウ王（FL） ▲★バタフライ／テナジー・05（特厚）

R5 小野思保 *Shiho Ono*

日立化成・東京／埼玉県出身、25歳。淑徳大卒。10・11年複準優勝、11年15位。11年社会人ベスト16。右P表・裏／前陣速攻型。●ダーカー／アクアブレード(反転式) ▲ミズノ／ブースターHP（特厚） ★ニッタク／ファスタークG-1(厚)

R12 加藤美優 *Miyu Kato*

EA・東京／東京都出身、13歳。稲付中学在学。11年ベスト32。12年全日本カデット(13歳以下)優勝。12年世界ジュニア複ベスト8。右S裏・裏／ドライブ型。●バタフライ／福原愛スペシャル（FL） ▲★バタフライ／テナジー・64（特厚）

R11 根本理世 *Riyo Nemoto*

中央大・福島／福島県出身、22歳。桜の聖母学院高卒。11年女子複ベスト16。11・12年全日学複準優勝。右S裏・粒／カット型。●バタフライ／朱世爀(ST) ▲バタフライ／テナジー・64（中） ★バタフライ／フェイント・LONGⅡ（極薄／特注）

R10 森さくら *Sakura Mori*

昇陽高・大阪／大阪府出身、16歳。青森山田中卒。10年ジュニアベスト32、11年ジュニアベスト16。11年全中ベスト16。右S裏・裏／ドライブ型。●バタフライ／インナーフォース・ZLC（AN／特注） ▲★バタフライ／テナジー・05（特厚）

R9 狭間のぞみ *Nozomi Hasama*

十六銀行・岐阜／宮城県出身、26歳。秀光中等教育卒。09年単ベスト32、女子複ベスト16。10年社会人ベスト16。右S裏・裏／ドライブ型。●スティガ／クリッパーCR WRB(AN) ▲バタフライ／テナジー・05（特厚） ★バタフライ／テナジー・64（特厚）

R16 天野優 *Yu Amano*

サンリツ・東京／和歌山県出身、20歳。明徳義塾高卒。10年14位。12年社会人単3位、複ベスト8。右S裏・表／前陣速攻型。●バタフライ／コルベル（ST） ▲バタフライ／テナジー・05（特厚） ★TSP／スペクトル・21sponge（2.0mm）

R15 若宮三紗子 *Misako Wakamiya*

日本生命・大阪／香川県出身、23歳。尽誠学園高卒。09～11年複優勝、11年6位・混合複優勝。11・12年社会人複優勝。左S裏・表／前陣速攻型。●VICTAS／カルテットⅡスピード（ST） ▲バタフライ／テナジー・05(特厚) ★ニッタク／モリストSP(厚)

R14 福岡春菜 *Haruna Fukuoka*

中国電力・広島／徳島県出身、28歳。日本大卒。05年混合複優勝・複3位、08・11年14位。11・12年社会人複3位。右S裏・粒／前陣攻守型。●紅双喜／PF4（FL） ▲TSP／トリプル・パワー（薄） ★TSP／カールP-3R（OX）

R13 山梨有理 *Yuri Yamanashi*

十六銀行・岐阜／静岡県出身、25歳。淑徳大卒。11年16位・複3位。10年荻村杯複優勝。10年社会人準優勝。右S裏・表／前陣速攻型。●ミズノ／フォルティウス（FL） ▲バタフライ／テナジー・05(特厚) ★ニッタク／モリストSP（特厚）

昨年は準決勝で足下（あしもと）をすくわれた松平健・丹羽が、今大会で完全復活。決勝は協和ペアが台上からの攻撃で攻めを封じようとしたが、「チキータが来るのはわかっていたので、無理にでもフォアに回り込んでいった」（丹羽）と展開を読み、堂々たるプレーを見せて完勝。松平は「ぼくたちのペアは攻めれば強い。前陣で相手にプレッシャーをかけることができたと思う」と試合を評価した。また２冠を達成した丹羽は、パリの世界戦に向け「横浜で水谷さんと岸川さんが銅メダルを獲ったので、ぼくたちはそれ以上を狙いたい」と高らかに目標を掲げた。

↑ カギとなった準決勝の水谷・岸川戦では、松平がパワードライブを打ち込んで丹羽をリードした

決勝完勝で完全復活！ ニワマツ２度目のV

3	FINAL	0
松平	11－7	坂本
丹羽	13－11	笠原
	11－7	
早稲田大 青森山田高		協和発酵キリン

3	SEMI-FINAL	1
松平	11－7	水谷
丹羽	11－9	岸川
	9－11	
	11－9	
早稲田大 青森山田高		beacon.LAB スヴェンソン

ALL JAPAN 優勝

松平健太（右）・丹羽孝希
［早稲田大・東京／青森山田高・青森］

《男子ダブルス》

MEN'S Doubles

水谷隼（左）・岸川聖也
［beacon.LAB／スヴェンソン・東京］

準決勝では松平／丹羽ペアに先手を取られ、後ろに下げられる展開となり、ラリーで主導権を奪えなかった。６度目の優勝はならなかったものの、パリでのメダルに期待したい

チキータ炸裂！ 社会人ペアが意地を見せる

ALL JAPAN 3位

張一博（左）・高木和卓
［東京アート・東京］

全日本でのペアリングは初めてだったが、社会人ペアを連破してベスト4。坂本・笠原戦では、お互い前陣で攻撃を仕掛けようとするも、レシーブでコースを突かれ、リズムを崩された

ALL JAPAN 準優勝

坂本竜介（左）・笠原弘光
［協和発酵キリン・東京］

今年度の社会人優勝ペアが決勝進出。坂本が切れ味抜群のチキータで先手を取って、笠原をリードし続けた。今大会で引退の坂本は「これが卓球人生最後の試合。楽しくプレーできた結果が２位だったと思う。悔いは一切ない」（坂本）と笑顔でコートを去った。

BEST8

井上一輝（右）・藤本海統
［近畿大・大阪］

藤本の一発で抜き去るバックハンドドライブと、つなぎのうまい井上のプレーで２年連続のベスト８入り

時吉佑一（右）・安藤康寛
［TEAM GIFU／岐阜信用金庫・岐阜］

５回戦で前回準優勝の共田・加藤（愛知工業大）を破る。坂本・笠原ともダイナミックなラリーを展開した

田中満雄（右）・久保田隆三
［シチズン・東京］

初戦では三ヶ尻・高橋（明豊高）に大逆転勝利。フォアドライブ連打とロビングで、張・高木和にも食い下がった

横山輝（左）・桒田晋一郎
［明治大・東京］

横山の台上フリックから、桒田（くわた）がパワードライブで攻撃を仕掛け、学生ペアを次々と破った

3	FINAL	0
藤井 若宮 日本生命	11－6 11－5 11－8	小野 森薗 日立化成

目指すはパリの表彰台 29年ぶりの4連覇！

↑「今まではパートナーが打ちやすいコースに返ってくるよう打球していたが、今回は相手の打ちにくいコースを積極的に狙っていった」という若宮

国内で無敵を誇るペアは、初戦から決勝まで1ゲームも落とすことなく完全優勝を果たした。同種目での4連覇は、昭和55～58年の神田・山下ペア以来で29年ぶり。「今大会はどの試合も絶対に競ると思っていたので、とても驚いていますが、自分たちのやってきたことが正しかったということだと思う」（藤井・若宮）。

決勝は1ゲーム目の2－4から7連続ポイント、2ゲーム目も出足から5連続ポイントをあげるなど、終始主導権を握った。世界卓球に向けて、「2年前の反省を生かして、笑顔で終われるような結果を残したい」（若宮）と抱負を述べた。

ALL JAPAN 優勝 藤井寛子(右)・若宮三紗子〈女子ダブルス〉
[日本生命・大阪]

WOMEN'S Doubles

池田好美(右)・平野容子
[東京富士大・東京]

5回戦で注目の平野・伊藤をストレートで下した。小野・森薗戦には「攻撃力があるペアなので、自分から攻めたかった。チャンスはあったのに、台上処理が良くなかった」（平野）と、悔しさをにじませた

根本理世(左)・北岡エリ子
[中央大・東京]

ALL JAPAN 3位

コンビネーション抜群のカットペア。準決勝では藤井・若宮ペアに完敗したが、北岡は「最終日まで残ることができ、この舞台でプレーできて夢みたいです」と、笑顔で試合を振り返った

逆境を乗り越えるも
決勝では沈黙・・・・・

ALL JAPAN 準優勝 小野思保(右)・森薗美咲
[日立化成・東京]

準々決勝の石塚・山梨戦では0－2とリードされながらも、小野がサービスを変え、レシーブを崩して逆転勝ち。しかし決勝では、「すべてのボールの質が高すぎて、私たちらしいプレーが何もできませんでした」（小野）と完敗の内容だった。

BEST8

鈴木李茄(左)・宋恵佳
[青森山田高・青森]

たたみかけるような鈴木のバックハンドドライブで主導権を握り、前回ベスト8の市川・野上（日立化成）を下した

福岡春菜(左)・土井みなみ
[中国電力・広島]

阿部・天野（サンリツ）の速攻ペアを破るが、根本・北岡の切れたカットを攻略できず、ドライブミスを連発した

田代早紀(右)・藤井優子
[日本生命・大阪]

一昨年ベスト8、昨年ベスト4となかなか決勝に進出できず。今年も決勝でのニッセイ対決は叶わなかった

石塚美和子(左)・山梨有理
[十六銀行・岐阜]

小野・森薗との準々決勝は、石塚の鋭いフォアドライブが冴えたが、3ゲーム目からレシーブを崩され逆転負け

全試合ストレートでの完全優勝、高校生ペアがV!!

ノーシードから勝ち上がった伏兵ペアが、1ゲームも落とさずに優勝。決勝では優勝候補の吉村・石川に対し、1ゲーム目の4－8から7点連取で勢いをつけると、2、3ゲーム目以降は田添の一発強打と前田のナックル性のバックハンドでミスを誘う。そして10－6で迎えたマッチポイントでは、石川のカウンタードライブに田添がさらにカウンターを決めて優勝を飾った。「田添くんがしっかり決めてくれるので頼もしいです。今回の優勝がまぐれだったと言われないように、来年も優勝を目指したい」(前田)。

3	FINAL	0
田添 前田 希望が丘高	11－8 / 11－9 / 11－6	吉村 石川 愛知工業大 全農

最後は田添が捨て身でカウンタードライブを打ち込んで優勝を決めた

ALL JAPAN 優勝

田添健汰(右)・前田美優
[希望が丘高・福岡]

《混合ダブルス》

MIXED Doubles

カスミ・マハル、優勝ならず……

ALL JAPAN 準優勝

吉村真晴(右)・石川佳純
[愛知工業大・愛知／全農・山口]

決勝の1ゲーム目では、吉村のアップダウンサービスでポイントを重ねて大量リードするも、そこで受け身になったのか、凡ミスを連発。これが最後まで響き、ストレート負けを喫した。「技術的には全く負けていないのに、相手の勢いに飲まれてしまった」(吉村)。

松平賢二(右)・若宮三紗子
[協和発酵キリン・東京／日本生命・大阪]

2連覇を狙ったが、準決勝の吉村・石川戦で1ゲーム目の8－4からのリードを守りきれずストレート負け。「2ゲーム目もゲームポイントを握っていたのに挽回された。1－1にしていたらチャンスはあった」(松平)

ALL JAPAN 3位

板倉健信(右)・飛永亜希
[早稲田大・福岡]

板倉の神がかり的なカウンターが炸裂し、昨年準優勝の大矢・森薗を下すも、田添・前田には完敗。「とにかくレシーブがうまくて、どこをどう攻めればいいのかわからなかった」(板倉)

BEST8

軽部隆介(右)・小野思保
[シチズン／日立化成・東京]

重いスマッシュを放つ小野と、軽部のトリッキーなプレーで勝ち進むが、吉村・石川には完敗

笠原弘光(右)・笠原多加恵
[協和発酵キリン／大正大・東京]

兄妹ならではの息の合ったプレーで、4回戦では前回3位の上田・鈴木(青森大／青森山田高)を下し、ベスト8入り

柴田直人(右)・安達渚
[愛知工業大・愛知]

強打者ペアの神・平野(明治大／東京富士大)を破ったが、板倉・飛永戦では1ゲームを奪うにとどまる

藤本海統(左)・平野早矢香
[近畿大／ミキハウス・大阪]

松平・若宮戦では、一進一退の攻防が続いたが、最後は藤本のバックドライブにミスが出て惜敗

森薗政崇

ALL JAPAN 優勝

[青森山田高②・青森]

初めてジュニアに出場した中学１年の時から、昨年まで４年連続でベスト8。安定感があると言えば聞こえは良いが、壁を突破できない選手という印象がつきまとっていた森薗。

ラストチャンスとなった今大会、精度を高めたチキータと全身を使ったドライブで、ついに表彰台のてっぺんに登った。「12年に初めてJNT（ジュニアナショナルチーム）を外されて悔しかった。だから今回の優勝は自信になります」（森薗）。小さなガッツマンが５年越しの悲願を達成した。

ラストチャンスをつかんだ 8ボーイの汚名返上 森薗、頂点！

R：キョウヒョウ王（FL）
F：テナジー・05（特厚）
B：ファスタークG－1（特厚）

3	FINAL	1
森薗 政崇 青森山田高	11－5 / 11－7 / 7－11 / 11－7	三部 航平 青森山田中

↑決勝は後輩・三部をドライブ戦で広角に攻めて攻略。バックドライブの打球点も早い

➡ヤマ場となった準決勝。昨年、敗れていた村松（左）に対し、無理に打ちにいかず粘り勝ち

3	SEMI-FINAL	1
森薗 政崇 青森山田高	6－11 / 11－6 / 12－10 / 13－11	村松 雄斗 EA／帝京

《ジュニア男子》

BOYS Junior

使用用具DATA
R：ラケット
F：ラバーフォア面
B：ラバーバック面

安定感No.1の超（スーパー）中学生！ 決勝で敗れるも、大器の片鱗を見せた

R：インナーフォース・ZLC（FL）
F：テナジー・05（特厚）
B：テナジー・05・FX（特厚）

三部航平

ALL JAPAN 準優勝

[青森山田中③・青森]

並みいる高校生を連覇して決勝まで勝ち上がってきたスーパー中学生。まだパワー不足だが、それを補うラリー精度とブロックの固さで、前でも後ろでも戦えるのが強みだ。以前から潜在能力の高さは定評があったが、戦術の引き出しは中学生の域を超えている。決勝では「いつも勝てない」という森薗に敗れたが、今年のインターハイでは大暴れするだろう。

3	SEMI-FINAL	1
三部 航平 青森山田中	11－13 / 12－10 / 11－8 / 11－6	田添 健汰 希望が丘高

↑パワータイプとの打ち合いは不利。前に貼りつき、ブロックで田添を振り回し、逆転勝ち

R:ローズウッド NCT V（FL）
F：テナジー・05（特厚）
B：テナジー・64（特厚）

3	FINAL	2
松平 志穂 四天王寺高	7－11	浜本 由惟 EA
	11－9	
	3－11	
	15－13	
	11－5	

↑バックの連打はミートとドライブの両方で打ち込める。少し下がってからのバックドライブも強い

松平家・長女 早さと力強さでジュニアを制す

ALL JAPAN 優勝 松平志穂［四天王寺高②・大阪］

トレードマークのしゃがみ込みサービス、前陣両ハンドの早さで、接戦を次々にものにした松平。「年下がどんどん強くなっていますが、年齢は関係なく、向かっていく姿勢でプレーしました」（松平）。強気の連打は決勝でも随所で見られ、決勝は浜本のフォアにボールを回し、カウンターで狙い打った。

大会後、パリの世界選手権代表に選出された。次男・賢二、三男・健太と長女・志穂。兄妹三人が同時に世界代表となることは史上初。兄の背中を追って、長女が世界の舞台に飛び出す。

優勝が決まった瞬間、村田監督（手前）もヒートアップ

〈ジュニア女子〉
GIRLS Junior

長身からのバック連打 冷静沈着な試合運びで価値ある準優勝

3	SEMI-FINAL	2
浜本 由惟 EA	11－6	森 さくら 昇陽高
	8－11	
	11－9	
	6－11	
	15－13	

ALL JAPAN 準優勝 浜本由惟（ゆい）［JOCエリートアカデミー 中②・東京］

R:キョウヒョウ王Ⅲ（FL）
F：テナジー・05（特厚）
B：テナジー・64（特厚）

↓勢いに乗る森（手前／昇陽高）にマッチポイントを握られながら、逆転勝ち。勝負強さを見せた

強くなったというより、戦い方を学んだという印象だ。苦手な相手に試合を投げる、接戦に弱い印象の浜本はもういない。5回戦ではインターハイ優勝の前田（希望が丘高）に逆転勝ち。準々決勝の森戦でも、マッチポイントを先に握られたが、冷静に攻め続けた。

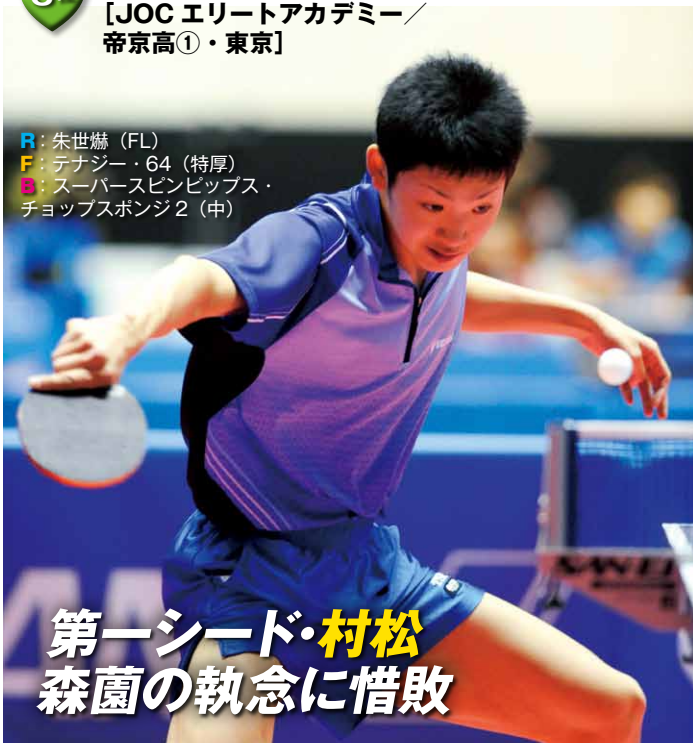
決勝の第4ゲーム、12－11でチャンピオンシップポイントの場面。浜本のフォアスマッシュを松平がブロック。オーバーミス、またはサイドに見えたボールだったが、判定はエッジ。完全に勝利を確信していた浜本は困惑し、そのまま逆転負けを喫（きっ）した。判定の真意はわからないが、勝負の神様は浜本に微笑まなかった。しかし、まだ中学2年生。大型選手として奮起を期待したい。

←ベンチには元五輪複優勝の偉関晴光が入り、中国語でアドバイス

この１年の世界ランキングの急上昇ぶりから大本命と思われた村松は、森薗の攻めに対応できず惜敗。森薗の浅いループドライブにカットの距離感を狂わされてしまった。しかし、近い将来、日本を背負ってシニアの大会で活躍する選手に成長することは間違いないだろう。

攻撃選手顔負けのフォアドライブも放つ

村松雄斗
ALL JAPAN 3位
[JOC エリートアカデミー／帝京高①・東京]



R：朱世爀（FL）
F：テナジー・64（特厚）
B：スーパースピンピップス・チョップスポンジ２（中）

第一シード・村松 森薗の執念に惜敗

BEST4

R：水谷隼（FL）
F：テナジー・05（特厚）
B：テナジー・05・FX（特厚）

初の表彰台も納得いかず「今年のインターハイでは負けない！」

田添健汰
ALL JAPAN 3位
[希望が丘高②・福岡]

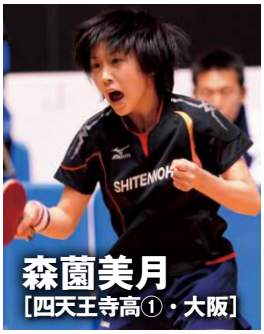
今大会、混合複チャンピオンに輝いた田添。ジュニアでも表彰台に登ったが、3位では不満だろう。それも中学生・三部に前陣でかき回されての敗戦だ。「もっと決め球を作らないとダメ。次は来年度のインターハイ、地元福岡で戦うかもしれない。その時は勝ちます」と決意を口にした。

長身をいかし、横から一気に振り抜くバックハンドは威力十分

BEST8

⬇➡ 世界ジュニア代表の伊藤（奥／豊田町スポ少）を下して８強入り。久々に強さを見せた

R:インナーフォース・ZLC（FL）
F：テナジー・05（特厚）
B：テナジー・64・FX（特厚）



森薗美月
[四天王寺高①・大阪]

⬇ 姉（佳純）似のスタイルから脱皮した感がある。大きなスタンスでボールに食らいつく

R:インナーフォース・ZLC（FL）
F：テナジー・05（特厚）
B：テナジー・05（特厚）

石川梨良
[EA 中③・東京]

⬇ 昨夏の全中女王のカットマン。カットだけでなく、カーブロングもうまい

R：タマス特注（ST）
F：テナジー・64（厚）
B：フェイント・ロングⅡ（超極薄）

佐藤 瞳
[尾礼部中③・北海道]

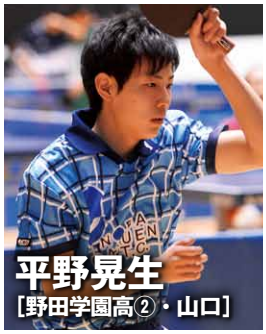
⬇ バックの安定感が素晴らしく、台上でも打てるのが魅力。インハイに続きランク入り

R：インナーフォース・ALC（FL）
F：V＞01（MAX）
B：V＞01（MAX）

楠川愛子
[城南高②・徳島]

⬇ 台上バックドライブから、ムチのようにしなる両ハンドで攻め込む次の野田のエース候補

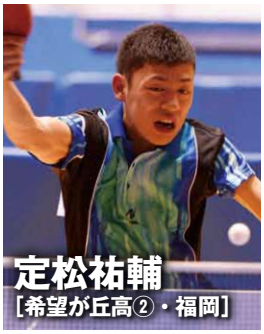
R：水谷隼（FL）
F：テナジー・05（特厚）
B：テナジー・64（特厚）



平野晃生
[野田学園高②・山口]

⬇ 体をいかした重い強打で東（EA ／帝京）を倒す。三部にはコース取りと粘りで崩された

R：キョウヒョウ王Ⅲ（FL）
F：テナジー・05（特厚）
B：テナジー・64（特厚）



定松祐輔
[希望が丘高②・福岡]

⬇ 一般でもラン決まで勝ち上がった吉村。両ハンドの切れ味は抜群だが、まだ発展途上

R：水谷隼（FL）
F：テナジー・05（特厚）
B：テナジー・64（特厚）

吉村和弘
[野田学園高①・山口]

⬇ パワーあふれる明徳のエース。酒井（EA ／帝京）とのカウンター勝負に勝利した

R：張継科（FL）
F：テナジー・05（特厚）
B：テナジー・05（特厚）

堀 大志
[明徳義塾高②・高知]

宋 恵佳
ALL JAPAN 3位
[青森山田高②・青森]

順当に勝ち上がり、優勝も射程圏内と思われたが、今まで一度も負けていなかった得意な相手の松平に完敗（右写真）。「相手はいつもと同じだったのに、自分が勝手に崩れて終わってしまった。自分から全部ミスをしてしまい、自分の卓球が全然できないまま修正できなかった」と悔しさを滲ませた。

3	SEMI-FINAL	0
松平 志穂（四天王寺高）	11－7 11－5 12－10	宋 恵佳（青森山田高）

R：ギャラクシャ（CP）
F：ラクザ７（特厚）
B：エクステンドHS（特厚）

優勝ペースが崩れる。得意相手・松平に初黒星

R：インナーフォース・ZLC（AN／特注）
F：テナジー・05（特厚）
B：テナジー・05（特厚）

ダークホース現る！ニューさくら、大爆発

森 さくら
ALL JAPAN 3位
[昇陽高①・大阪]

昨年の全日本後、青森山田中から転校。現在は地元大阪の昇陽高に通い、卓球私塾「関西卓球アカデミー」で力をつけて全国の舞台に返ってきた。技術面もさることながら、精神面の強化を感じる。これまでは負けると、涙を浮かべて落ち込んでいたが、今年は敗戦後でもハキハキと自分のプレーを冷静に分析した。ニューさくらが全日本を大いに盛り上げた。

3	5-ROUNND	2
森 さくら（昇陽高）	8－11 6－11 11－3 12－10 11－7	平野 美宇（ミキハウスJSC山梨）

平野（右）との注目の一戦で、昨年のリベンジを達成。精神的に強くなった

BEST16

伊藤美誠
[豊田町卓球スポーツ少年団小⑥・静岡]

平野美宇
[ミキハウスJSC山梨 小⑥・山梨]

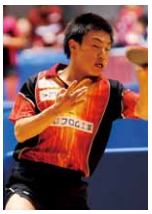
ミウ&ミマ、今年のジュニアはベスト16止まり

昨年大活躍した小学生コンビ。平野は森に、伊藤は森薗にそれぞれ敗れ、史上初の小学生優勝はならなかった。春から中学にあがり、どのように進化するのか期待したい

加藤杏華
[県岐阜商業高①・岐阜]
前陣でのスピード勝負が得意。楠川に惜敗した

下山優樹
[青森山田高②・青森]
村松には一方的に打ち込まれ完敗だった

東 勇渡
[EA／帝京高②・東京]
パワータイプの定松とまともに打ち合ってしまい敗退



上村慶哉
[希望が丘高②・福岡]
左腕から繰り出されるドライブが非常に強力

渡辺裕介
[明徳義塾高②・高知]
バランスの良い両ハンド型。松田（EA／帝京）に勝利

前瀧初音
[正智深谷高②・埼玉]
バックのミート打ちが鋭い。一般では平野（ミキハウス）に勝利

加藤美優
[EA 中①・東京]
一般でもランク入り。ジュニアでは松平に逆転負け

高橋美帆
[岩国商業高②・山口]
苦手の宋に完敗。ラリーで勝てない相手への戦術がほしい

前田美優
[希望が丘高①・福岡]
浜本の戦術変更に対応できず、16でストップ

加藤知秋
[県岐阜商業高②・岐阜]
力強い攻撃が持ち味。佐藤のカーブロングにてこずった

大塚大寛
[EA／帝京高②・東京]
ロング＆逆回転サービスで優勝した森薗を苦しめた

松下大星
[愛工大名電高①・愛知]
男女ランカー唯一のペン。フォアの打ち合いに自信あり

及川瑞基
[青森山田中③・青森]
ライバル三部に追いつくためにも独自のプレーがほしい

酒井明日翔
[EA／帝京高①・東京]
堀戦ではトリッキーなプレーが影を潜めた

※学校名の後の○数字は学年／EA＝JOCエリートアカデミー

ALL JAPAN HIGH ANGLE

全日本

俯瞰の眼

全日本はいわば
日本卓球界の定点観測ポイント。
全体を見渡してみると、
一体何が見えてくるのか？

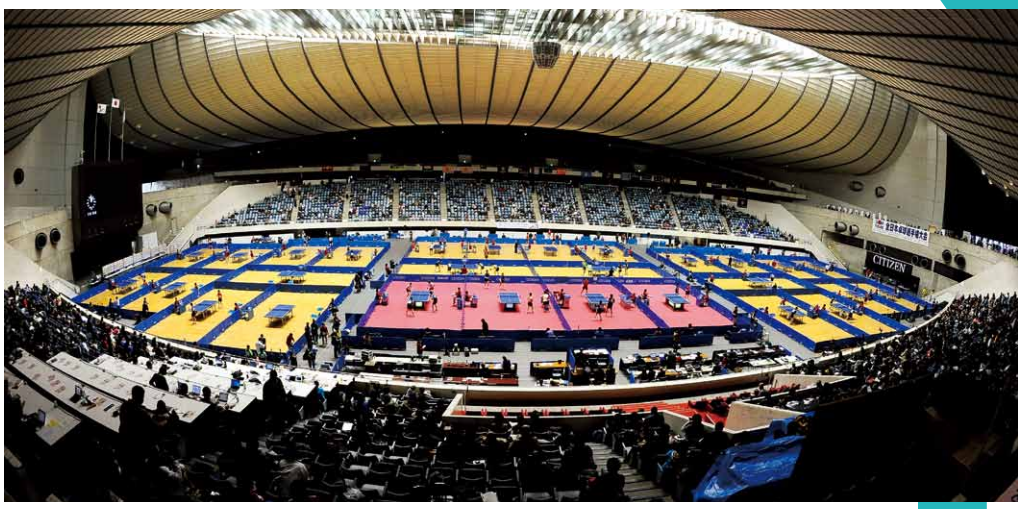
文＝柳澤太朗 *text by Taro Yanagisawa*

「リスタート」。今年の全日本を振り返る時、この言葉がひとつのキーワードになりそうだ。

昨年の全日本では、男子で水谷隼の連覇が「5」でストップし、高校3年生の吉村真晴が初優勝。女子では、福原愛が一般シングルス出場13回目で、ついに皇后杯を手にした。男女シングルスとも、昨年で区切りがついた。特に福原の優勝は、多くの卓球ファンにとっても、「肩の荷が下りた」ような安堵感があったはずだ。

そして昨年8月のロンドン五輪では、福原愛・石川佳純・平野早矢香の三人が、女子団体で銀メダルを獲得。五輪でのメダル獲得という日本卓球界の悲願はついにかなえられ、これもまたひとつの大きな区切りとなった。

大会の緊迫感という点では、やはり五輪を控えた昨年度大会のほうが上。いきなり全速前進というわけにはいかないが、「日本卓球界もここからリスタート」という全日本だった。



大会がスタートし、初日の男子ジュニア1回戦を見て印象的だったのは、台上バックドライブの大流行。今やストップは相手の待ちを外す「外し技」になりつつある。「日本のシェークはバックが弱い」と言われてきたが、台上バックドライブを使えない選手、台上バックドライブにバックハンドで対応できない選手は勝ち抜けない。たったひとつの台上技術が、日本卓球界の長年の課題を解決しようとしている。

男女シングルスの結果を俯瞰で見てみると、まず男子シングルスはいわゆる「ドイツ組」の強さが際立った。ベスト8に入った8名のうち、張一博を除く7名がドイツ・ブンデスリーガでプレーした経験を持ち、早くから世界水準のプレーに触れ、腕を磨いてきた。優勝した丹羽孝希も今シーズンは男子1部のフリッケンハウゼンでプレー。中国・超級リーグやそのひとつ下の甲Aリーグでプレーする選手も年々増加しており、海外組が多数を占めるサッカーの日本代表チームと同じような状況になっている。

「オリンピックで味わった悔しさは、オリンピックで晴らすしかない」という丹羽にとって、全日本優勝はひとつの通過点。4年後のリオデジャネイロ五輪に向け、その成長がさらに加速すれば、多くのライバルたちの成長を促すことにもなる。国際大会の代表に復帰する水谷も黙っていないだろう。

また、長い全日本の歴史で初めて、男子シングルスのランカー16名からペンホルダーの選手が姿を消したことは特筆に値する。近年は左ペン表の田勢邦史、中国式ペンドライブの吉田海偉・韓陽という選手たちが孤塁を守ってきたが、ペンホルダーの「Xデー」は遠からず来る運命だったのか。ペンホルダーの選手を見ると、つい応援したくなるのが最近の全日本だ。

一方の女子シングルスは、福原と石川の二強時代が到来。熾烈な出場枠の獲得レースをくぐり抜け、五輪の大舞台でメダルを獲得した自信は、計り知れないほど大きい。技術レベルのみならず、「貫禄」の差となって現れていた。

女子はランカー16名のうち、半数の8名が表ソフトや粒高ラバーの使用者。これは他国の国内選手権では考えられない、日本だけの特徴だ。4回戦でロンドン五輪代表の平野早矢香が、前瀧初音の強烈なバック表ソフト強打に完敗した一戦は衝撃的だった。

女子で将来が期待される中2の浜本由惟、中1の加藤美優、小6の平野美宇・伊藤美誠という「黄金世代」の選手たちは、浜本がジュニア2位、加藤が一般でランク入りという成果を残した。しかし、彼女たちの潜在能力からすれば、これでも物足りない結果。集団での争いではなく、先頭を突っ走るトップランナーの出現が待たれる。

東京体育館の改装工事に伴い、今年度だけ全日本の会場となった代々木第一体育館で、来年のゴールデンウイークに世界団体選手権が開催される。来年で築50年。さすがに古さは隠せないが、そこは運営側と観客が一体となり、大会の演出と熱い応援でカバーするしかない。世界の卓球ファンの記憶に残る、盛り上がる大会にしたいものだ。

ALL JAPAN

全日本 FLASH!!

今年も熱戦が繰り広げられた全日本選手権。初戦で姿を消す者、全日本に新たな旋風を巻き起こした者など、多くの選手によってドラマが誕生した。そんな熱戦の数々や、大会期間中に注目されたトピックスを紹介していこう。

全日本に潜む魔物、平野早矢香 まさかの初戦敗退

4	ROUND-4	0
前瀧 初音（正智深谷高）	11－7 / 11－7 / 11－5 / 11－7	平野 早矢香（ミキハウス）

今年も「全日本の魔物」が突然姿を現した。全日本選手権で5度の優勝を誇る平野早矢香（ミキハウス）が、女子シングルス初戦となる4回戦で、伏兵・前瀧初音（正智深谷高）にストレート負けを喫する大事件が起きたのだ。

バックに表ソフトを貼る前瀧は、裏ソフト面で出す非常に切れたバックのロングサービスを平野のバックに集め、平野がドライブで持ち上げたボールを反転してのバック表ソフトの強打で叩き続ける。返球するのが精一杯だった平野だが、そのボールも前瀧は平野の両サイドを厳しく突いて、満足にプレーをさせなかった。

「ボールの球質やタイミングが相手と完全にマッチしてしまった。自分のボールも走っていなくて、試合中にいろいろと修正したかったんですが……」（平野）

その平野を破った前瀧は、驚きの表情でこうコメントした。「バックハンドには自信がありました。一般に出るのは初めてだったので、思い切ってやった。平野さんとすごく試合がしたかったし、楽しみながら試合ができました」。

平野が全日本の初戦で敗れるのは、今回が初。しかし、記者会見では笑みすら浮かべて記者の質問に答えていた。「試合をしたい選手もたくさんいたので残念。ただ、どうすれば良かったのか、今は全く整理できていないです」（平野）

試合中に何度も軌道修正を図った平野だが、為す術がなかった。「調子は悪くなかった。ダブルスとの切り替えがうまくいかなかったのかもしれない」（平野）

BATTLE 1

男子シングルス4回戦

下山隆敬［協和発酵キリン］ × 御内健太郎［シチズン］

壮絶なラリー戦の末、シモヤマ、御内を粉砕！

①12–10
②11–9
③8–11
④7–11
⑤8–11
⑥11–8
⑦11–2

実力派チョッパー・御内（みうち）が初戦で姿を消した。相手は早稲田大の先輩・下山。「いつもはストップを多用してくるのに、ひたすらドライブをしてきた。ぼくのドライブもカウンターで狙われてしまい、全く対応できなかった」（御内）

とにかくドライブで攻め続けた下山

編集部が選んだ

全日本激アツ7番勝負!!

6日間にわたった取材の中で、編集部が選んだ激闘7試合を一挙公開！

我慢のラリー戦制し、高木和を喰う

①5–11
②11–8
③16–14
④11–13
⑤11–7
⑥1–11
⑦11–4

ラリーに強い両者の対戦は予想どおり見応えのある打撃戦に。ドライブからのカウンター、そして引き合いへという白熱のラリーが数多く見られた。しかし、最終ゲームは岸川がレシーブから積極的に攻撃をしかけ、試合運びのうまさで難敵の高木和を退けた。

BATTLE 2

男子シングルス6回戦

大矢英俊［東京アート］ × 時吉佑一［TEAM GIFU］

①11–5
②9–11
③9–11
④4–11
⑤11–5
⑥11–9
⑦11–7

吠えて、吠えて、吠えて、吠えた大矢

1－3で時吉（奥）にリードを許した大矢は、5ゲーム目から時吉のミドルを突いてフォアで回り込ませ、流れを変える。怒濤の3ゲーム連取で勝利を決めた大矢は、実に4回吠えた。その雄叫びは、代々木第一体育館に響き渡るほどのものだった。

BATTLE 3

男子シングルス6回戦

岸川聖也［スヴェンソン］ × 高木和卓［東京アート］

FLASH!!

優勝候補・村松 森薗の気迫に敗れる

①6–11
②11–6
③12–10
④13–11

BATTLE 4
ジュニア男子準決勝
森薗政崇［青森山田高］ × 村松雄斗［EA／帝京］

「ジュニアは優勝しか狙っていなかった」という村松。試合後は敗戦のショックを隠しきれなかった（下写真）

初優勝を目指す森薗の最大のヤマ場となった準決勝。2ゲーム目からは森薗がドライブで緩急をつけ、無理に攻め込まず、じっくりチャンスを待った。一球一球に神経を注いだ森薗のプレーに最後は村松が根負（こんま）け。ラストは村松のドライブをカウンターで叩き込み、天に突き上げた両手の拳（こぶし）。森薗の執念を見た。

石川、根本に辛勝 カットに苦しむ

①10–12
②11–9
③6–11
④11–8
⑤11–6
⑥11–6

BATTLE 5
女子シングルス6回戦
石川佳純［全農］ × 根本理世［中央大］

序盤からミスが多く、強打でもなかなか打ち抜けない石川。一方の根本は強打に距離を合わせ、カットをつなぐ。ストップにもすばやく反応し、浮けばドライブを叩き込んだ。

石川は4ゲーム目からはドライブのコースを散らし、ストップも鋭く止めて、根本の反撃ミスを誘う。なんとか勝利したが、この試合から歯車が狂った石川。この試合の代償は大きかった。

ケンタ、起死回生の一打

①14–12
②9–11
③11–9
④11–2
⑤6–11
⑥6–11
⑦13–11

BATTLE 7
男子シングルス準々決勝
松平健太［早稲田大］ × 岸川聖也［スヴェンソン］

第7ゲーム、10－11で岸川がリード。松平がバックに来たロングサービスを回り込んでドライブし、岸川はフォアストレートへ返球。飛びついた松平は後陣でしのぎ、フェンス際から強烈なバックハンドドライブを放つ。岸川は返球時に体勢が崩れてしまい、それを見逃さなかった松平が前陣に飛び込んでフォアドライブを決めた。3連続ポイントを挙げ、松平が逆転勝利。

台風の目・森さくら あと一歩で……

①11–6
②8–11
③11–9
④6–11
⑤15–13

BATTLE 6
ジュニア女子準決勝
浜本由惟［EA］ × 森さくら［昇陽高］

懐（ふところ）の深い攻守を見せる浜本とハードヒッター・森の対決は、見応え十分の激しいラリー戦。最終ゲームの終盤、浜本に何度もマッチポイントを握られながら、森が豪快なフォアドライブを連発。観客をどよめかせたが、粘りに粘った浜本が競り勝った。

第1日目

プレイバック！全日本

全日本選手権の6日間。第1日目から最終日までを日付ごとに振り返ってみる

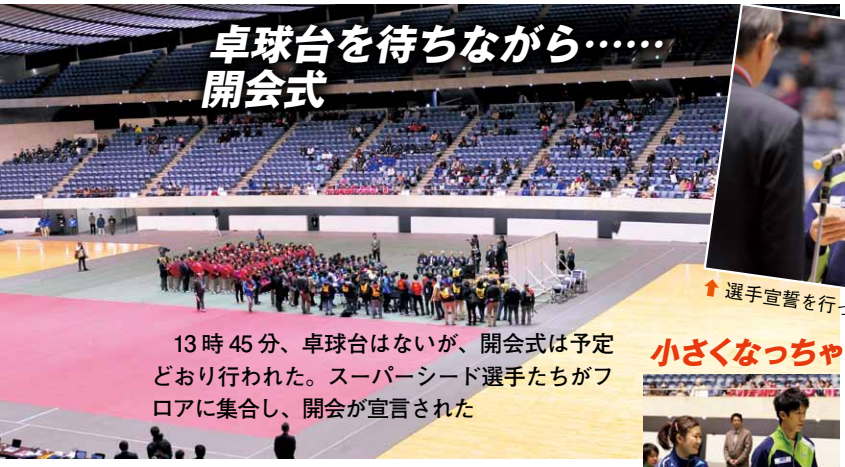
PLAY BACK ALL JAPAN

1月15日［火曜日］晴れ

前代未聞、「卓球台」が遅刻!! 全日本、波乱の幕開け

大会前日、まれに見る大雪に見舞われた東京。翌15日は晴れたものの、慣れない雪に都内の道路は大渋滞。その影響で、卓球台が試合開始予定時間になっても届かない！ よもやの大ハプニングでスタートした今大会。試合開始が2時間半遅れ、この日の最終試合は翌日に持ち越された。波乱の予感を漂わせるスタートとなった。

卓球台を待ちながら……開会式



13時45分、卓球台はないが、開会式は予定どおり行われた。スーパーシード選手たちがフロアに集合し、開会が宣言された

⬆選手宣誓を行った吉村選手

SCHEDULE

開会式

ジュニア男・女 ▸ 1回戦

雪～!!!!

⬆雪化粧の代々木第一体育館。全日本は初開催で、2014年の世界団体選手権会場となる

⬅雪の残る中、大きな荷物を持った選手たちは移動が大変……お疲れさまです

小さくなっちゃった!?

⬆天皇杯・皇后杯は、開会式で前チャンピオンから日本卓球協会会長に返還される。引き替えに、選手には少し小振りなレプリカのカップが贈られる

和やかムードの中 注目選手による記者会見

初日には試合のない注目の選手たち。開会式後にはメディア向けの共同記者会見が開かれた。この時点ではまだ笑顔の和やかムード。

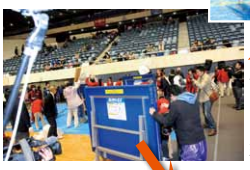
⬆前日は成人式……ということで、2月に二十歳になる石川選手を祝う、平野＆福原の姉さん選手たち

台が来た～!!!!

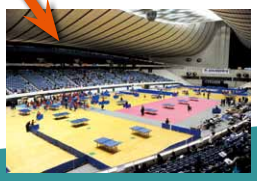
前日の夜に茨城を出発した卓球台を積んだトラックが、会場に着いたのは夕方4時前!!! スタッフ総動員で台、フェンスが大急ぎで設置され、17時半、予定より2時間半遅れでようやく第1試合が開始された。

雪景色の中ようやく到着！ 感動的な!? トラック会場入りのシーン

⬆スタッフの拍手の中、卓球台が会場入り～



卓球台にスタッフに、報道陣でフロアは騒然

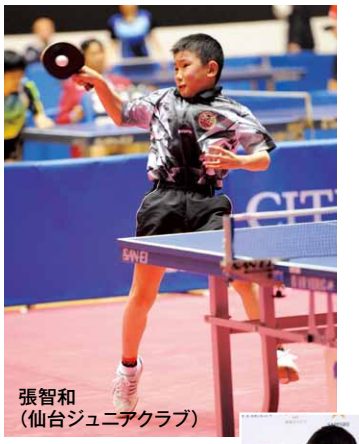


16時半頃、ようやく卓球会場らしくなってきた!!

今年の最年少登場!! 小3の張＆小5の桑原

今大会の最年少選手は、ジュニア男子に出場した小学3年生の張智和（ざん・ともかず）。9歳での全日本出場は男子史上最年少。センスを感じさせる前陣カウンターで会場の視線を集めた。

女子の最年少選手は、小学5年生の桑原穂実。小柄ながら両ハンドの強打で2回戦へ進出した。



張智和（仙台ジュニアクラブ）

桑原穂実（豊田町卓球スポーツ少年団）

⬅伊藤美誠選手と同じクラブの桑原。1回戦では高校生を破った

➡会見にはひとりで臨み、しっかり答えていた張くん。「緊張したのでミスが多かった。目標は1ゲーム取ることだったので（1ゲーム取れて）良かった」（張）

FLASH!!

四元、全日本に復帰＆注目のミウミマが会場を舞う

大会2日目からは、五輪メダリストの平野・石川選手が混合ダブルスに出場したり、ウェアが楽しみな四元選手、人気の小学生・ミウミマが登場。徐々に華やいだ空気になってきた全日本！ お目当ての選手のプレーを観戦に、この日は2,000名の観客が会場を訪れた。

四元奈生美（東京アート）

ママとなって復帰。注目の四元ウェア

出産を経て全日本に戻ってきた四元奈生美。今回は女子ダブルスのみの出場となった。鮮やかなイエロー＆虹色ネクタイのデザインは、四元が出演したテレビ番組で、タレントの山口智充さんとデザインしたもの。試合は残念ながら敗退したが、「これからもママさんアスリートとして試合で勝つことができたら」と意欲的なコメント。今後のプレー＆ウェアに期待！

2013全日本ウェアコレクション

⬆ ねぶたウェア。目ヂカラありすぎ

⬅ 遠目だとカーディガンをはおっているみたいな清純派？ウェア

➡ 学校名もピンクのチェック！キュートなデザイン

⬆ 抜群の着こなしは、サンリツの重本選手

ミウミマ注目の中、勝利!!

小学6年生の平野美宇、伊藤美誠の「ミウミマコンビ」がジュニア3回戦とシングルス1回戦に出場。会場の視線を集める中、ともに勝利し翌日へコマを進めた。

平野美宇（ミキハウス JSC 山梨）

伊藤美誠（豊田町卓球スポーツ少年団）

⬆ ジュニア3回戦ではゲームオール7−10から逆転勝利。ベンチで胸をなでおろすミマ

⬅ 冷静沈着なゲーム運び、パワーアップした両ハンドドライブで、ジュニア3回戦もシングルス1回戦もストレートで勝利のミウ

SCHEDULE	
女子シングルス	▸ 1回戦
男女ダブルス	▸ 1回戦
混合ダブルス	▸ 1〜3回戦
ジュニア男女	▸ 1〜3回戦

⬆ 東京体育館よりもフロアは少し広い代々木第一体育館。全部で28コートがフル回転

➡ 選手はこの長い階段を昇り下りしてコートへ。何度も往復すると、足腰が鍛えられそう

あうんの呼吸のはず!? 家族ペアも数多く登場の2日目

⬅ 住友金属物流の森田有城＆亜衣（旧姓藤沼／個人）の新婚夫婦ペア

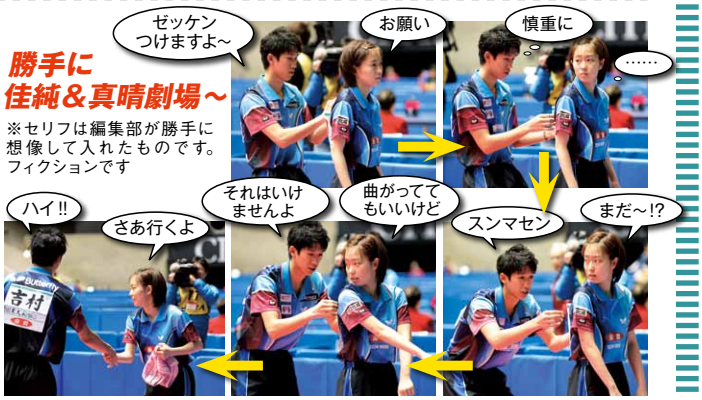
➡ 酒井春香（左／ミキハウス）と詩音（四天王寺高）の姉妹ペア

卓球商店街へいらっしゃ〜い

各メーカーのブースが集まる一角はまるで「卓球商店街」。全日本限定グッズなどもあり、マニアにはたまりません!!

勝手に佳純＆真晴劇場〜

※セリフは編集部が勝手に想像して入れたものです。フィクションです



女子スーパーシード初戦 早矢香、まさかの敗退に衝撃走る

大会も中盤にさしかかり、女子シングルスではスーパーシードが登場、ジュニア男子・女子、混合ダブルスでは準々決勝まで行われるなど、全日本特有のピリピリ感も非常に高まってきた。そんな中、五輪メダリストの平野早矢香がまさかの初戦敗退で、会場は騒然となった。

女子シングルス４回戦。期待の選手が敗れる波乱

夕方からスタートした、スーパーシード選手の初戦となる女子4回戦。毎年このラウンドで足下をすくわれる選手が出てくる「魔のラウンド」。今回は、平野（右／p.71 参照）をはじめ、世界戦パリ大会代表入りを決めていた森薗美咲、インターハイチャンピオンの前田美優、世界団体代表の石垣優香らが姿を消した。

SCHEDULE

男子シングルス	1～2回戦
女子シングルス	2～4回戦
男子ダブルス	2～3回戦
女子ダブルス	2回戦
混合ダブルス	4回戦～準々決勝
ジュニア男女	4回戦～準々決勝

↑朝の練習時間の貴重な光景。この日、水谷・岸川選手は試合はなかったが、会場の台や照明などをチェックしていた

↑世界団体代表の石垣も初戦で敗退。粘ってラリーに持ち込む平に対し、うまく対処できなかった

女子シングルス《4回戦》
4 平 侑里香（正智深谷高）
11－9, 9－11, 11－8, 11－1, 11－6
1 石垣 優香（日本生命）

↑12月の世界戦パリ大会国内選考会で優勝していた森薗だったが、森の超積極的な連続ドライブに受け身になってしまった

女子シングルス《4回戦》
4 森 さくら（昇陽高）
11－8, 8－11, 11－7, 11－8, 11－6
1 森薗 美咲（日立化成）

↑高校王者で上位進出が期待されていた前田。根本のカットを攻略できずに初戦で姿を消した

女子シングルス《4回戦》
4 根本 理世（中央大）
11－5, 11－7, 3－11, 12－10, 11－3
1 前田 美優（希望が丘高）

兄妹でベスト８

混合ダブルス準々決勝に進出した、笠原弘光（協和発酵キリン）・多加恵（大正大）の兄妹ペア。強さの要因は仲の良いところでしょうか!?

昨年準優勝だったジュニアでは５回戦で森（昇陽高）に惜敗し「本当に悔しい」（平野）。シングルスでは３回戦進出も重本（サンリツ）に敗れた（写真）

ミウミマ、今年は快進撃ならず

←ジュニア５回戦、ゲームオールジュースで敗れた伊藤。「まだまだ自分に甘い部分があるのかな」と涙を浮かべながらコメント

元キング・齋藤清（50歳）涙で全日本を去る

全日本単通算101勝の齋藤清（埼玉工業大職員）が２年ぶりに男子シングルスに出場。藤原（昇陽高教員）にゲームオール８点で惜敗した。得意のバックサービスからの展開が通じず、大会の数日前に傷めた左太ももの影響で、本来のフットワークも発揮できず。「ボールの速さや相手の粘りも50歳の選手にはキツい。あと１勝したかったんですけどね……。今回の全日本が最後。皆さんと最後のお別れと思って出てきました」（齋藤）。会見で感極まり、涙を見せた元キング。83年世界選手権でベスト８に入った思い出の地・代々木第一体育館での記録更新はならなかった。

齋藤清（埼玉工業大職員）

↑←出場選手の中ではもちろん最年長だった齋藤。試合後の会見では、感情を抑えられず涙を流した

FLASH!!

混合複&ジュニア男女決勝。初々しいチャンピオンが誕生!

大会も佳境となってきた大会4日目。この日はジュニアの男女、混合ダブルスの決勝戦が行われ、3種目ともに新チャンピオンが誕生。男子シングルスはスーパーシードがようやく登場し、ベスト32決定まで行われ、女子シングルスはベスト8が決定。さまざまなドラマが展開された。

SCHEDULE	
男子シングルス	3～4回戦
女子シングルス	5～6回戦
男子ダブルス	4～5回戦
女子ダブルス	3～4回戦
混合ダブルス	準決勝～決勝
ジュニア男女	準決勝・決勝

高1&高2の希望が丘ペア

田添健汰&前田美優（希望が丘高）

↑高校1年・前田と高校2年・田添のフレッシュペア。表彰台では、報道陣の「笑顔プリーズ」に満面の笑み！

政崇スマイル キラリ☆

森薗政崇（青森山田高）

←ジュニア決勝直後の爽やかスマイルGET!! 全日本シングルスでのタイトルは、カブ・ホープス・カデット13歳以下に続いて4つ目となった

↑記者会見でのキラキラ笑顔

←決勝前に音楽を聴き集中。横顔がりりしい！

↑初々しさが微笑ましかった記者会見での様子

志穂ちゃん ピース→ホッ

松平志穂（四天王寺高）

↑卓球界では知らない人はいない!? 松平兄妹の末っ子・志穂選手。決勝後のうれしいピースからのホッとしたお顔がキュート

注目集めた森さくら、ランク入り決めた中1加藤

→女子シングルスで中学1年の加藤美優(EA)が見事ランク入り！ 愛ちゃん以来の中1でのランカーとなった

←ジュニア準決勝&シングルス5・6回戦、3試合ともに激戦を演じた森。ジュニア準決勝（左）、最終ゲームジュースの場面でも思い切りの良い攻撃で観客をうならせたが13－15で惜敗

男子スーパーシードが登場。魔の初戦に今年も……

3回戦から4回戦まで行われた男子シングルス。前日よりもハイレベルな戦いが繰り広げられ、スーパーシード選手たちの初戦・注目の4回戦では、今年も一発負けの憂き目を見た選手も……。これがトーナメント形式ゆえの恐ろしさ。4回戦で注目された試合を以下に紹介しよう。

男子シングルス《4回戦》
4 吉村和弘（野田学園高）
10－12
6－11
11－5
11－7
12－10
11－9
2 久保田隆三（シチズン）

→前回ランカーの久保田（手前）。2ゲーム先取するも兄（真晴）譲りのセンスあふれる吉村のプレーの前に、その後ゲームを奪えず。2年連続のランク入りはならなかった

男子シングルス《4回戦》
4 上江洲光志（愛工大名電高）
11－8
13－11
11－6
7－11
11－4
1 小野竜也（協和発酵キリン）

↑社会人ベスト8の小野（奥）が、勢いのある上江洲（うえず）の思い切りの良い両ハンドカウンターに押され、まさかの敗退

男子シングルス《4回戦》
4 松下海輝（明治大）
11－6
4－11
9－11
11－9
9－11
11－9
11－9
3 軽部隆介（シチズン）

→ビッグトーナメント王者の軽部（手前）。松下との激戦の末に力尽きる

→社会人3位でスーパーシードの水野（手前）と、異質攻撃の実力者・坪口という注目のカード。接戦になると思われたが、坪口の圧勝となった

男子シングルス《4回戦》
4 坪口道和（長崎県スポーツ専門員）
11－6
11－9
6－11
11－6
11－9
1 水野裕哉（東京アート）

第5日目

1月19日［土曜日］晴れ

SCHEDULE

男子シングルス	5～6回戦
女子シングルス	準々決勝～決勝
男子ダブルス	準々決勝～決勝
女子ダブルス	5回戦

決勝を終えベンチに戻ろうとするところに祝砲の大きな音！ 思わず身構える福原選手

愛ちゃん祝砲にビックリ!! 健太・孝希が２年ぶりV

女子シングルス、男子ダブルスの決勝まで行われた５日目。愛ちゃん・佳純ちゃんの五輪メダリスト対決となった女子決勝は、最高の盛り上がりとなった。

➡試合直後のインタビューの様子

⬅副賞のレプリカ米俵を受け取り、ツボにはまったか!? 思わず笑顔の松平選手

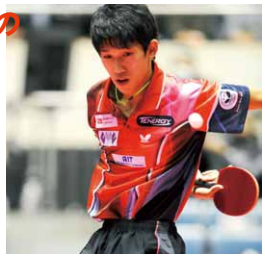
⬆この日からアリーナ席が設置された会場。大会期間中最高の観客動員数となった

小６ペア奮闘

⬅協会推薦で出場のミウミマペア。この日の５回戦では３位入賞の池田・平野組にストレートで敗れたが、一般種目でのベスト16入りは立派

⬆会場のオーロラビジョンで、後半の２日間のみ流された各社のCM。愛ちゃん・佳純ちゃんも登場

マハルの背面



➡前全日本チャンピオン・吉村真晴選手の背面打ち。さすが！

涙と笑顔の引退 田勢邦史と坂本竜介

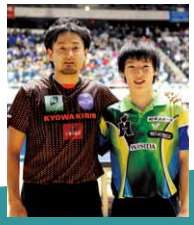
「自分の選手生活に悔いはなかった。本当に幸せな卓球人生を歩ませてもらった。ダブルス２回、ミックス２回優勝できて、シングルスでも表彰台に上れたのは良かった。良い思い出しかない」。青森山田高の後輩である高木和（東京アート）に敗れた後、田勢邦史（協和発酵キリン）は目に涙を浮かべながら語った。ペンホルダー表ソフトとしての矜持（きょうじ）を忘れず、シェーク全盛の時代にその存在をアピールした選手だった。

イップス（精神的スポーツ障害）と闘い続けていた坂本竜介（協和発酵キリン）は、青森山田高の後輩、松平健太（早稲田大）に敗れたが、「プレッシャーがなくなったせいか、今回イップスが出なかった。自分の思っているようなサービスは出せないけど、少し出せたから、すっきりプレーができた。リラックスして楽しくできたし、最後に健太とできて良かった」と笑顔を見せながら振り返った。

坂本竜介（協和発酵キリン）

⬆最後の試合となった高木和戦後、観客席に向かって深々と一礼する田勢

田勢邦史（協和発酵キリン）



⬅シングルスの最終試合となった松平健太戦後、笑顔の２ショット（左奥）。笑原弘光とのダブルスでは決勝へ進出。晴れ晴れとした表情で全日本を終えた

FLASH!!

最終日

1月20日［日曜日］ 晴れ

SCHEDULE

- 男子シングルス ▸ 準々決勝～決勝
- 女子ダブルス ▸ 準々決勝～決勝
- 閉会式

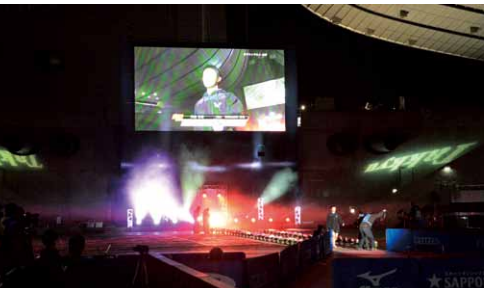
フィナーレは丹羽の高校生V!!

いよいよ大会最終日。男子シングルス、女子ダブルスの準々決勝から決勝が行われ、男子シングルスでは、丹羽が水谷を破り初優勝。女子ダブルスでは、藤井・若宮組が大会史上タイの４連覇を成し遂げた。

⬆➡ 表彰式での一コマ。「笑って！」の声に応えて、さわやか丹羽スマイル！

開場前の行列

⬆ 開場前には、入場の順番を待つ長い列ができていた



クールに入場、燃えるぜ決勝戦!!!!

⬆ 最終日のみに行われた決勝前の演出。スモークの中、照明を浴びながらコートへ向かう選手を待つのは、燃えるコートだ！

おいしく健康に時を刻める豪華な副賞

⬆ シチズン時計からは高級時計

副賞として各優勝者へ贈られたのは、高級時計とお米・卵・お肉と食用油。藤井・若宮組は４年連続で副賞もゲット！

⬅ 全国農業協同組合連合会からは、お米とお肉とたまご

➡ 日清オイリオグループより食用油

竹下通り以上!!

⬆ 各メーカーの売店のスペースは、人！人！人！の大混雑

⬅ よく見ると、ニッセイペア祝福のプラカードが！

全日本選手権 シングルス通算優勝回数データ

※2013年1月20日現在

〈男子〉

1	齋藤清	8回	★★★★★★★★	4連覇含む
2	長谷川信彦	6回	★★★★★★	3連覇含む
3	水谷隼	5回	★★★★★	5連覇
4	藤井則和	5回	★★★★★	4連覇含む
5	松下浩二	4回	★★★★	2連覇含む
5	偉関晴光	4回	★★★★	2連覇含む
7	田中利明	3回	★★★	3連覇
7	河野満	3回	★★★	3連覇
7	高島規郎	3回	★★★	2連覇含む

※２回優勝している選手は５名

〈女子〉

1	小山ちれ	8回	★★★★★★★★	6連覇含む
2	星野美香	7回	★★★★★★★	5連覇含む
3	平野早矢香	5回	★★★★★	3連覇含む
4	大関行江	5回	★★★★★	2連覇含む
5	保原キヨ	4回	★★★★	4連覇
7	松崎キミ代	3回	★★★	2連覇含む

※２回優勝している選手は福原愛を含め14名

フロム福島 in 全日本

●福島の選手ら50名が観戦。「全国のみなさん、ありがとう」

東日本大震災の被災地である福島県の選手と関係者約50名が、日本卓球協会の招待により、大会５日目と最終日に会場で試合を観戦した。

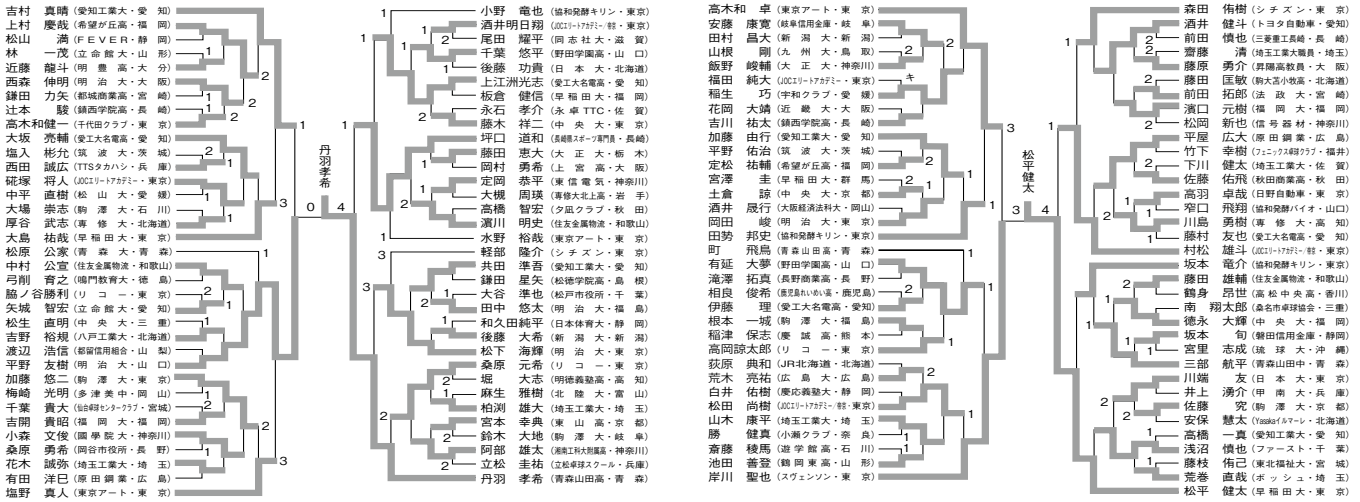
全国の卓球ファン・選手に向けた横断幕・プラカードで、復興支援に対する感謝の気持ちを伝えていた。

●震災にも負けず全日本出場！ 矢内智大選手

ジュニア男子に出場した矢内智大（やない・ともひろ）（福島工業高専）は、福島県のいわき市在住。それまでは福島県双葉郡の楢葉中に通っていたが、東日本大震災後、福島第一原発の事故のために避難を余儀なくされた。数日間の避難所生活を送った後、埼玉に住むいとこの家に滞在、その後いわき市立平一中に転校、現在は福島工業高専に通っている。

試合は惜しくも敗れたが、「とても緊張した。全く足が動かなかったが、全国の大会に出るという目標を叶（かな）えることができ、とてもうれしい」とコメント。

全日本 THE FINAL　MEN'S SINGLES　〔男子シングルス〕



◆男子シングルス４回戦◆

吉村（愛知工業大・愛知）－11、7、4、－10、9、7
上村慶哉（希望が丘高・福岡）

大島（早稲田大・東京）8、5、4、4
大坂（愛工大名電高・愛知）

平野（明治大・山口）－7、8、8、8、8 松原（青森大・青森）

塩野（東京アート・東京） 4、9、－6、5、－5、6
加藤（駒澤大・東京）

上江洲（愛工大名電高・愛知）8、11、6、－7、4
小野（協和発酵キリン・東京）

坪口（長崎県スポーツ専門員・長崎）
6、9、－6、6、9　水野（東京アート・東京）

松下（明治大・東京） 6、－4、－9、9、－9、9、9
軽部（シチズン・東京）

丹羽（青森山田高・青森）8、10、－10、4、－12、4
桑原（リコー・東京）

高木和（東京アート・東京） 5、5、3、1
稲生（宇和クラブ・愛媛）

田勢（協和発酵キリン・東京） 5、9、7、－7、13
加藤（愛知工業大・愛知）

有延（野田学園高・山口） －9、7、9、9、3
町（青森山田高・青森）

岸川（スヴェンソン・東京） 3、10、－9、4、4
松田（ＪＯＣエリートアカデミー／帝京・東京）

森田（シチズン・東京） 7、6、5、7
酒井（トヨタ自動車・愛知）

村松（ＪＯＣエリートアカデミー／帝京・東京）
5、1、1、4　平屋（原田鋼業・広島）

坂本（協和発酵キリン・東京）6、－8、9、9、9
三部（青森山田中・青森）

松平（早稲田大・東京） 6、10、8、7
浅沼（ファースト・千葉）

松平（協和発酵キリン・東京） 6、8、6、－10、3
阿部（リコー・東京）

韓（東京アート・東京）7、9、6、6 岩崎(早稲田大・東京)

吉田（青森山田高・青森） －7、3、5、9、6
田中（シチズン・東京）

吉田（えひめＴＴＣ・愛媛） 5、7、7、5
大久保（三菱重工名古屋・愛知）

大矢（東京アート・東京） 6、9、5、6
後藤（尚志学園高・北海道）

上田（青森大・青森） 3、16、－8、15、－4、6
柴田（愛知工業大・愛知）

下山（協和発酵キリン・東京）
10、9、－8、－7、－8、8、2 御内(シチズン・東京)

時吉（TEAM GIFU・岐阜）－3、15、6、11、6
横山（明治大・大阪）

森本（愛知工業大・愛知） 6、8、－6、9、－9、6
英田（朝日大・静岡）

笠原（協和発酵キリン・東京） 8、9、10、9
小澤（大阪桐蔭高・大阪）

張（東京アート・東京） 2、8、－7、4、7
鹿屋（法政大・東京）

吉村（野田学園高・山口）－10、－6、5、7、10、9
久保田隆三（シチズン・東京）

瀬山（リコー・東京） －7、6、－13、7、2、9
伊積（岡谷市役所・長野）

横山（長崎県スポーツ専門員・長崎）
6、8、－5、10、4　神（明治大・東京）

森薗（青森山田高・青森） －7、9、7、9、－9、7
藤本（近畿大・大阪）

水谷（beacon.LAB・東京） 6、6、10、3
青木（愛知工業大・愛知）

◆５回戦◆ ○数字はランキング

⑫吉村（愛知工業大） －8、8、－7、8、10、－8、9
大島（早稲田大）

⑧平野（明治大）－10、9、7、－9、10、－9、10
塩野（東京アート）

⑬坪口（長崎県スポーツ専門員） －6、7、6、6、9
上江洲（愛工大名電高）

①丹羽（青森山田高） 10、－9、2、－7、7、－11、3
松下（明治大）

⑨高木和（東京アート）3、5、－5、4、9 田勢（協和発酵キリン）

⑤岸川（スヴェンソン）7、5、－5、5、6 有延（野田学園高）

⑪村松（ＪＯＣエリートアカデミー／帝京）
6、－13、7、7、8　森田（シチズン）

③松平（早稲田大）3、8、9、4 坂本（協和発酵キリン）

⑦松平（協和発酵キリン） 5、3、9、－10、4
韓陽（東京アート）

⑭吉田（青森山田高）8、－8、7、10、5 吉田（えひめＴＴＣ）

④大矢（東京アート）3、－4、6、5、－3、9 上田（青森大）

⑩時吉（TEAM GIFU）7、－6、－5、－9、8、10、8
下山（協和発酵キリン）

⑯森本（愛知工業大） 7、－7、－8、8、－6、8、7
笠原（協和発酵キリン）

⑥張（東京アート）6、4、－11、7、8 吉村（野田学園高）

⑮瀬山（リコー） －9、－5、－10、9、5、10、10
横山（長崎県スポーツ専門員）

②水谷（beacon.LAB） 6、9、－8、－4、3、11
森薗（青森山田高）

◆６回戦◆

平野友樹	8、11、－9、7、4	吉村真晴
丹羽孝希	3、－2、3、4、3	坪口道和
岸川聖也	－5、8、14、－11、7、－1、4	高木和卓
松平健太	7、5、－4、11、10	村松雄斗
松平賢二	6、8、9、11	吉田雅己
大矢英俊	5、－9、－9、－4、5、9、7	時吉佑一
張一博	3、9、3、9	森本耕平
水谷隼	8、7、5、6	瀬山辰男

◆準々決勝◆

丹羽孝希	5、3、6、6	平野友樹
松平健太	12、－9、9、2、－6、－6、11	岸川聖也
大矢英俊	6、5、6、6	松平賢二
水谷隼	9、－9、3、6、－7、－9、3	張一博

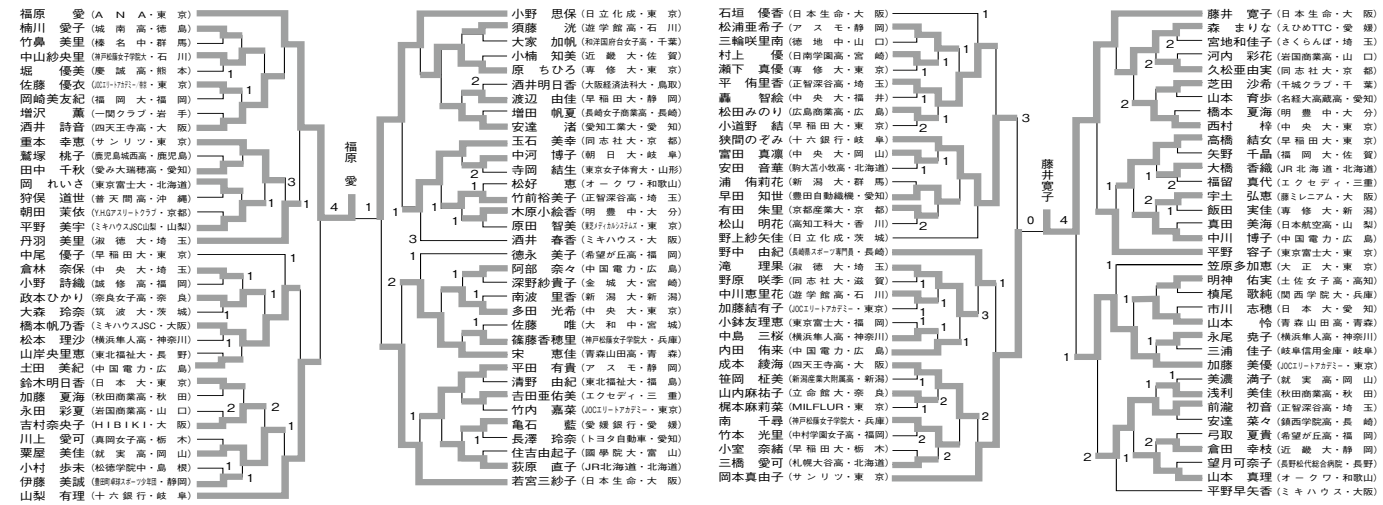
◆準決勝◆

丹羽孝希	12、－8、－8、8、8、7	松平健太
水谷隼	6、－11、2、6、11	大矢英俊

◆決勝◆

丹羽孝希	8、－3、－8、－9、7、5、9	水谷隼

全日本 THE FINAL　WOMEN'S SINGLES　〔女子シングルス〕



◆女子シングルス４回戦◆

福原（ANA・東京）　14、5、9、4
酒井（四天王寺高・大阪）
丹羽（淑徳大・埼玉）－6、8、5、－9、－6、12、9
重本（サンリツ・東京）
橋本（ミキハウスJSC・大阪）　8、－4、9、9、7
中尾（早稲田大・東京）
山梨（十六銀行・岐阜）　10、－9、4、5、7
粟屋（就実高・岡山）
小野（日立化成・東京）2、3、9、7　原（専修大・東京）
玉石（同志社大・京都）－5、7、6、－9、10、－7、7
酒井（ミキハウス・大阪）
宋（青森山田高・青森）　11、4、－7、15、12
徳永（希望が丘高・福岡）
若宮（日本生命・大阪）　9、7、－9、8、4
平田（アスモ・静岡）
平（正智深谷高・埼玉）　9、－9、8、1、6
石垣（日本生命・大阪）
狭間（十六銀行・岐阜）　10、4、8、7
野上（日立化成・茨城）
野中（長崎県スポーツ専門員・長崎）
6、－7、8、－10、－5、8、8　滝（淑徳大・埼玉）
岡本（サンリツ・東京）10、－9、－9、7、9、10
成本（四天王寺高・大阪）
藤井寛（日本生命・大阪）　9、6、4、7
森（えひめTTC・愛媛）
平野（東京富士大・東京）－7、4、7、8、13
高橋（早稲田大・東京）
加藤（JOCエリートアカデミー・東京）
3、9、－9、11、6　笠原（大正大・東京）
前瀧初（正智深谷高・埼玉）　7、7、5、7
平野（ミキハウス・大阪）
田代（日本生命・大阪）　8、9、－6、4、6
中村（日立化成・茨城）
阿部（サンリツ・東京）　4、1、4、9
池上（正智深谷高・埼玉）
亀崎（KTGクラブ・埼玉）　－6、7、7、5、4
石塚（十六銀行・岐阜）
福岡（中国電力・広島）　6、－9、－8、－9、6、7、8
浜本（JOCエリートアカデミー・東京）
松澤（淑徳大・埼玉）－5、6、6、－8、4、7
加藤（県立岐阜商業高・岐阜）
松平（四天王寺高・大阪）－6、9、－5、6、5、－13、1
小室（真岡女子高・栃木）
鈴木（青森山田高・青森）－5、8、－6、－14、7、9、8
森田（JOCエリートアカデミー・東京）
森（昇陽高・大阪）　8、－8、7、8、6
森薗（日立化成・東京）
藤井優（日本生命・大阪）3、6、7、5 佐藤（就実高・岡山）
市川（日立化成・茨城）　9、5、4、－11、8
石川（JOCエリートアカデミー・東京）
天野（サンリツ・東京）8、8、6、6 北岡（中央大・東京）
中島（早稲田大・東京）9、－14、－7、4、6、－10、7
下之段（藤ミレニアム・大阪）
根本（中央大・福島）　5、7、－3、10、3
前田（希望が丘高・福岡）
松本（ミキハウス・大阪）　9、8、9、3
藤原（土佐女子高・高知）
鳥居（神戸松蔭女子学院大・兵庫）
9、－9、－9、10、－9、6、6　森薗（四天王寺高・大阪）
石川（全農・山口）8、9、8、6　伊藤（十六銀行・岐阜）

◆５回戦◆○数字はランキング

①福原（ANA）　7、12、6、－3、6　丹羽（淑徳大）
⑬山梨（十六銀行）　2、2、2、11
橋本（ミキハウスJSC）
⑤小野（日立化成）4、6、7、－13、11 玉石（同志社大）
⑮若宮（日本生命）　2、9、7、－10、－8、7
宋（青森山田高）
⑨狭間（十六銀行）　6、5、9、9　平（正智深谷高）
⑦岡本（サンリツ）10、6、－6、10、8
野中（長崎県スポーツ専門員）
④藤井寛（日本生命）2、4、5、10 平野（東京富士大）
⑫加藤（JOCエリートアカデミー）
10、－9、9、－7、8、6　前瀧初（正智深谷高）
⑥田代（日本生命）9、－7、4、5、9　阿部（サンリツ）
⑭福岡（中国電力）　3、8、8、5 亀崎（KTGクラブ）
③松澤（淑徳大）－6、10、－7、5、7、5
松平（四天王寺高）
⑩森（昇陽高）－11、－8、6、8、9、13
鈴木（青森山田高）
⑧藤井優（日本生命）9、11、7、11　市川（日立化成）
⑯天野（サンリツ）8、－7、8、4、8 中島（早稲田大）
⑪根本（中央大）－7、－5、11、7、9、13
松本（ミキハウス）
②石川（全農）　6、6、－9、3、6
鳥居（神戸松蔭女子学院大）

◆６回戦◆

福原愛	9、7、11、9	山梨有理
小野思保	7、6、6、6	若宮三紗子
岡本真由子	－8、－3、10、10、－8、9、10	狭間のぞみ
藤井寛子	11、5、9、－4、11	加藤美優
田代早紀	8、9、9、6	福岡春菜
松澤茉里奈	7、2、－14、6、－9、－9、7	森さくら
藤井優子	8、4、6、5	天野優
石川佳純	－10、9、－6、8、6、6	根本理世

◆準々決勝◆

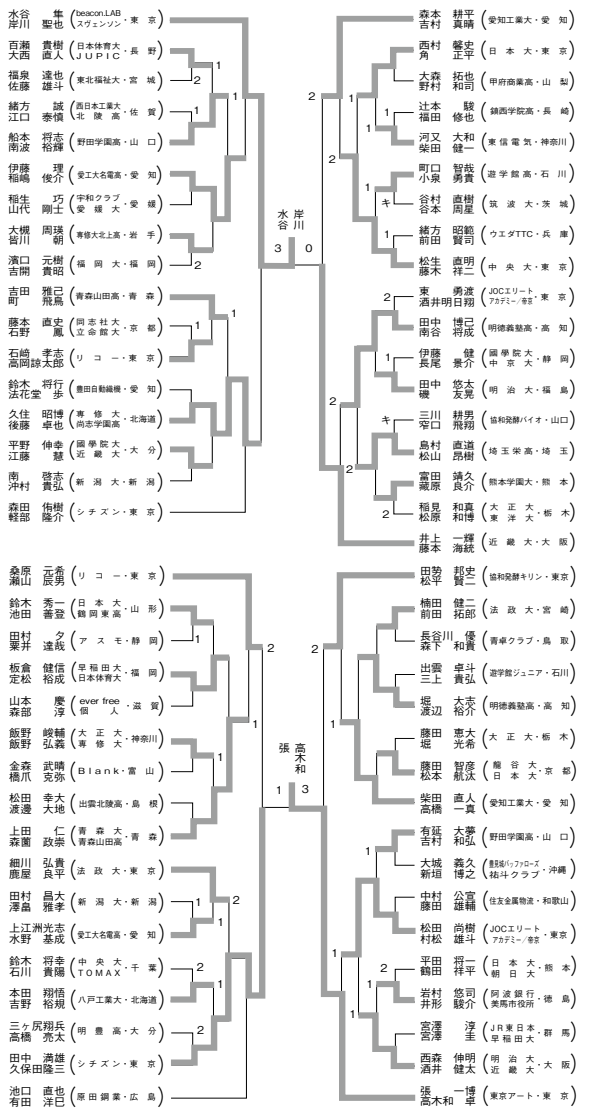
福原愛	8、－8、5、9、8	小野思保
藤井寛子	7、5、8、7	岡本真由子
松澤茉里奈	6、－9、4、4、12	田代早紀
石川佳純	10、4、9、3	藤井優子

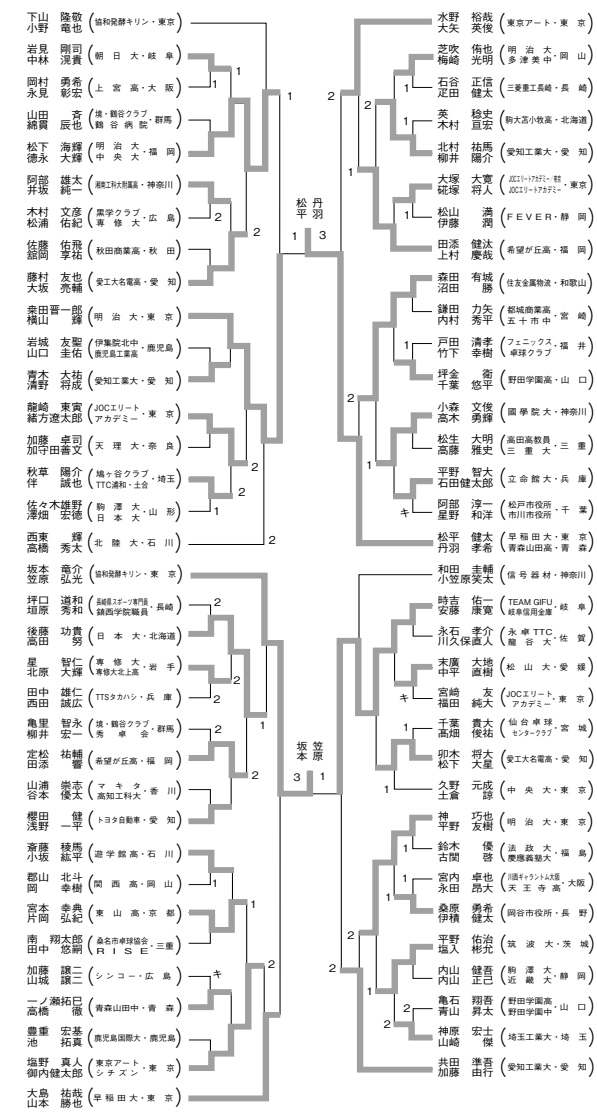
◆準決勝◆

福原愛	8、9、－9、－11、9、4	藤井寛子
石川佳純	－9、－9、3、－5、3、9、7	松澤茉里奈

◆決勝◆

福原愛	－6、7、－4、9、8、3	石川佳純





男子ダブルス

◆5回戦◆○数字はランキング

③水谷／岸川（beacon.LAB／スヴェンソン）
8、12、7　久住／後藤（専修大／尚志学園高）
⑧井上／藤本（近畿大）－5、6、7、－7、6
森本／吉村（愛知工業大）
⑤乗田／横山（明治大）4、11、－6、13
松下／徳永（明治大／中央大）
①松平／丹羽（早稲田大・青森山田高）
－8、－9、6、7、3　水野／大矢（東京アート）
⑥田中／久保田（シチズン）－5、10、－10、10、9
桑原／瀬山（リコー）
④張／高木和（東京アート）－7、8、－7、2、7
田勢／松平（協和発酵キリン）
②坂本／笠原（協和発酵キリン）8、11、9
大島／山本（早稲田大）
⑦時吉／安藤（TEAM GIFU／岐阜信用金庫）
－9、9、9、－9、7　共田／加藤（愛知工業大）

◆準々決勝◆

水谷／岸川　4、9、7　井上／藤本
松平／丹羽　－11、10、9、9　乗田／横山
張／高木和　12、－4、4、8　田中／久保田
坂本／笠原　8、－12、6、10　時吉／安藤

◆準決勝◆

松平健太／丹羽孝希 7、9、－9、9　水谷隼／岸川聖也
坂本竜介／笠原弘光 6、－5、6、2　張一博／高木和卓

◆決勝◆

松平健太／丹羽孝希　7、11、7　坂本竜介／笠原弘光

女子ダブルス

◆5回戦◆○数字はランキング

①藤井寛／若宮（日本生命）4、2、9
中尾／小道野（早稲田大）
⑧鈴木／宋（青森山田高）4、7、－12、4
野上／市川（日立化成・茨城）
④根本／北岡（中央大）8、6、－6、4
河村／松浦（アスモ・静岡）
⑦福岡／土井（中国電力）6、－4、4、8
阿部／天野（サンリツ）
⑥田代／藤井優（日本生命）5、11、9
大西／宮崎（日本体育大）
③池田／平野（東京富士大）7、7、9
平野／伊藤（ミキハウスJSC山梨／豊田町卓球スポーツ少年団）
②小野／森薗（日立化成）9、7、7
中島／加藤（早稲田大）
⑤石塚／山梨（十六銀行）6、6、8　久木／市原（龍谷大）

◆準々決勝◆

藤井寛／若宮（日本生命）4、7、6
鈴木／宋（青森山田高）
根本／北岡（中央大）5、8、6　福岡／土井（中国電力）
池田／平野（東京富士大）10、－9、7、8
田代／藤井優（日本生命）
小野／森薗（日立化成）－7、－8、9、7、4
石塚／山梨（十六銀行）

◆準決勝◆

藤井寛子／若宮三紗子 7、6、6　根本理世／北岡エリ子
小野思保／森薗美咲 6、5、9　池田好美／平野容子

◆決勝◆

藤井寛子／若宮三紗子 6、5、8　小野思保／森薗美咲

混合ダブルス

◆4回戦◆○数字はランキング

③松平・若宮（協和発酵キリン／日本生命）8、9、6
北村／髙木（愛知工業大）
⑤藤本／平野（近畿大／ミキハウス）4、－6、10、7
町／宋（青森山田高）
⑧軽部／小野（シチズン／日立化成）9、5、－4、－6、8
松下・小鉢（明治大／東京富士大）
②吉村／石川（愛知工業大／全農）10、－6、7、9
時吉／山梨（TEAM GIFU／十六銀行）
⑦笠原／笠原（協和発酵キリン／大正大）6、14、7
上田／鈴木（青森大／青森山田高）
①田添／前田（希望が丘高）7、4、8
有延／高橋（野田学園高／岩国商業高）
⑥柴田／安達（愛知工業大）7、－6、6、－9、8
神／平野（明治大／東京富士大）
④板倉／飛永（早稲田大）－3、10、1、－11、13
大矢／森薗（東京アート／日立化成）

◆準々決勝◆

松平／若宮　－9、－8、4、6、10　藤本／平野
吉村／石川　5、6、8　軽部／小野
田添／前田　8、7、6　笠原弘／笠原多
板倉・飛永　9、－4、7、5　柴田／安達

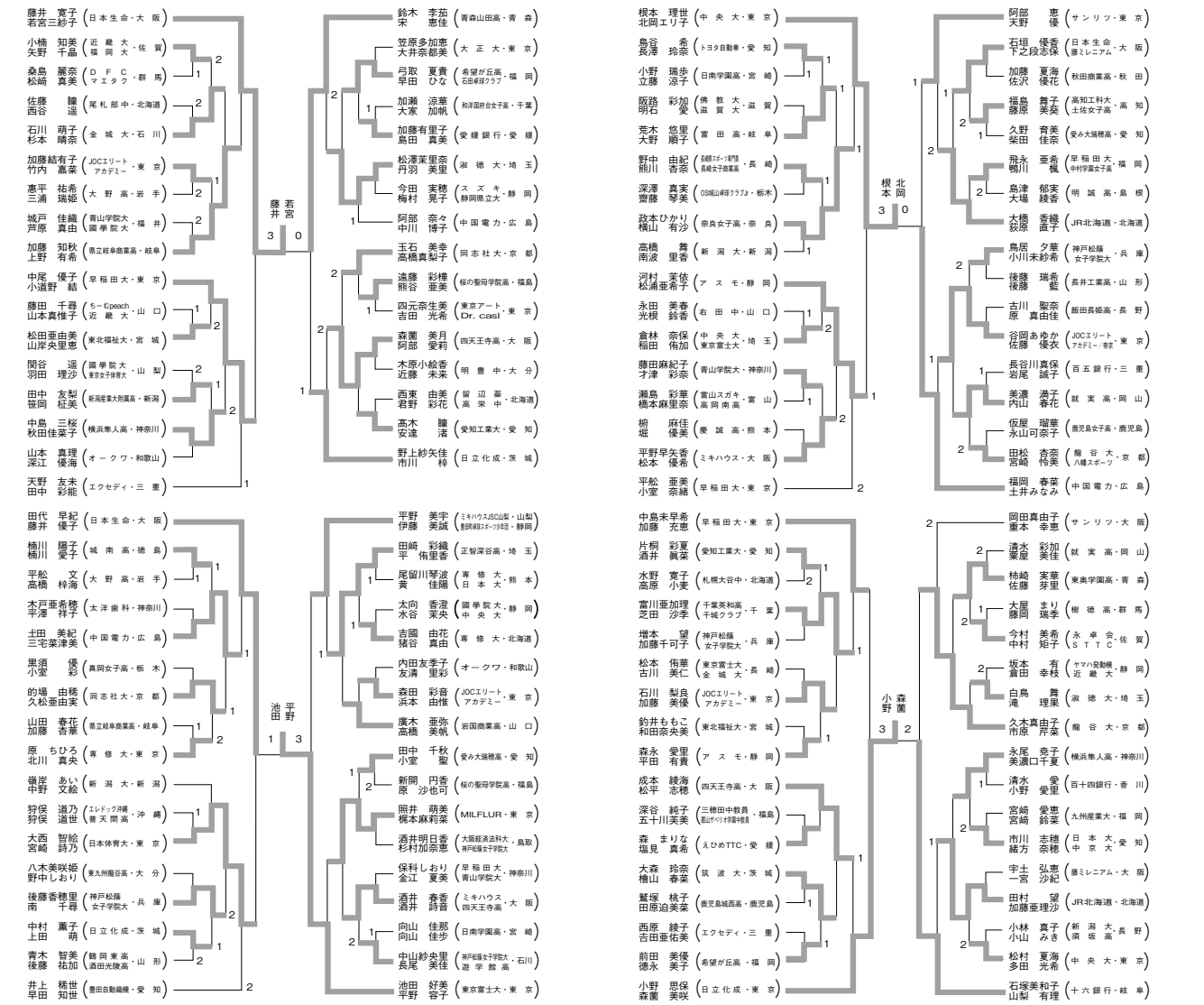
◆準決勝◆

吉村真晴／石川佳純 11、10、8　松平賢二／若宮三紗子
田添健汰／前田美優　4、5、9　板倉健信／飛永亜希

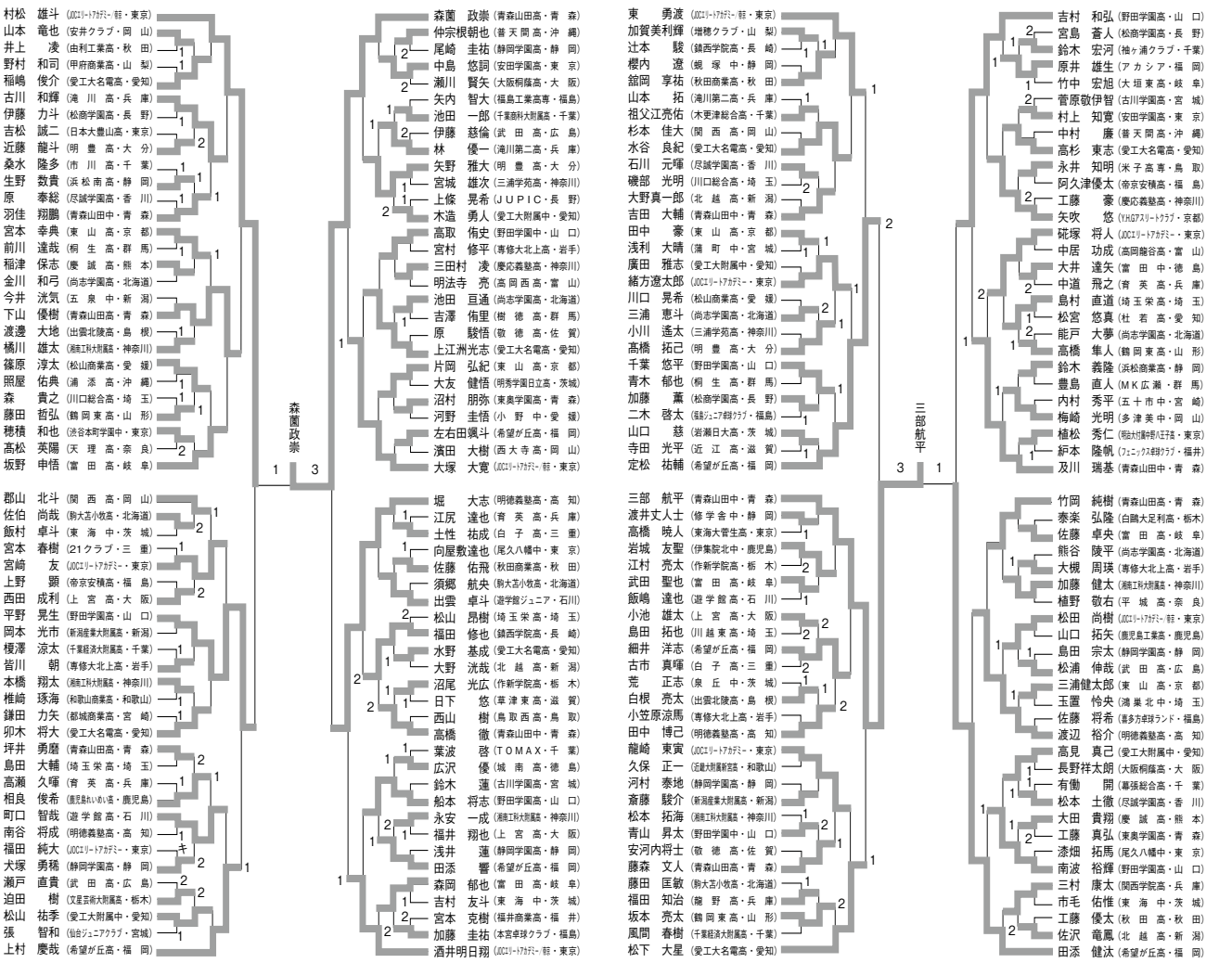
◆決勝◆

田添健汰／前田美優　8、9、6　吉村真晴／石川佳純

全日本 THE FINAL — WOMEN'S DOUBLES 〔女子ダブルス〕



全日本 THE FINAL — MIXED DOUBLES 〔混合ダブルス〕



◆ジュニア男子３回戦◆

村松（ＪＯＣエリートアカデミー／帝京・東京）
5、4、4　稲嶋（愛工大名電高・愛知）
古川（滝川高・兵庫）7、−8、6、5　羽佳（青森山田中・青森）
下山（青森山田高・青森）9、7、−7、6　宮本（東山高・京都）
坂野（富田高・岐阜）8、6、7　篠原（松山商業高・愛媛）
宮崎（ＪＯＣエリートアカデミー・東京）−3、9、6、8
郡山（関西高・岡山）
平野（野田学園高・山口）6、8、9　卯木（愛工大名電高・愛知）
町口（遊学館高・石川）　8、7、−12、5
相良（鹿児島れいめい高・鹿児島）
上村（希望が丘高・福岡）　6、4、9
松山（愛工大附属中・愛知）
森薗（青森山田高・青森）7、5、10　中島（安田学園高・東京）
矢野（明豊高・大分）3、5、−9、3　林（滝川第二高・兵庫）
上江洲（愛工大名電高・愛知）　9、10、4
高取（野田学園中・山口）
大塚（ＪＯＣエリートアカデミー／帝京・東京）
5、4、6　片岡（東山高・京都）
堀（明徳義塾高・高知）　6、11、9
出雲（遊学館ジュニア・石川）
福田（鎮西学院高・長崎）　11、−14、−8、8、9
高橋（青森山田中・青森）
船本（野田学園高・山口）　7、8、−8、10
田添響（希望が丘高・福岡）
酒井（ＪＯＣエリートアカデミー／帝京・東京）
7、2、7　森岡（富田高・岐阜）
東（ＪＯＣエリートアカデミー／帝京・東京）3、10、11
舘岡（秋田商業高・秋田）
水谷（愛工大名電高・愛知）　17、10、7
吉田（青森山田中・青森）
緒方（ＪＯＣエリートアカデミー・東京）
4、8、−13、8　髙橋（明豊高・大分）
定松（希望が丘高・福岡）　5、5、−9、7
千葉（野田学園高・山口）
三部（青森山田中・青森）　7、2、7
岩城（伊集院北中・鹿児島）
細井（希望が丘高・福岡）　10、7、−9、−1、6
田中（明徳義塾高・高知）
龍崎（ＪＯＣエリートアカデミー・東京）7、−7、8、4
藤森（青森山田高・青森）
松下（愛工大名電高・愛知）−10、8、−7、9、12
坂本（鶴岡東高・山形）
吉村（野田学園高・山口）−8、7、5、7
原井（アカシア・福岡）
矢吹（Ｙ.Ｈ.Ｇアスリートクラブ・京都）8、6、12
高杉（愛工大名電高・愛知）
砥塚（ＪＯＣエリートアカデミー・東京）9、7、10
島村（埼玉栄高・埼玉）
及川（青森山田中・青森）　3、9、−7、3
梅崎（多津美中・岡山）
竹岡（青森山田高・青森）　8、4、3
加藤（湘南工科大附属高・神奈川）
渡辺（明徳義塾高・高知）　8、8、−9、12
松田（ＪＯＣエリートアカデミー／帝京・東京）
南波（野田学園高・山口）9、3、5　高見（愛工大附属中・愛知）
田添健（希望が丘高・福岡）6、5、7　三村（関西学院高・兵庫）

◆４回戦◆

村松（ＪＯＣエリートアカデミー／帝京）　8、3、9
古川（滝川高）
下山（青森山田高）　5、6、10　坂野（富田高）
平野（野田学園高）7、6、5　宮崎（ＪＯＣエリートアカデミー）
上村（希望が丘高）　5、8、7　町口（遊学館高）
森薗（青森山田高）　7、5、7　矢野（明豊高）
大塚（ＪＯＣエリートアカデミー／帝京）9、6、9
上江洲（愛工大名電高）
堀（明徳義塾高）7、9、−8、−5、8　福田（鎮西学院高）
酒井（ＪＯＣエリートアカデミー／帝京）　3、9、11
船本（野田学園高）
東（ＪＯＣエリートアカデミー／帝京）　7、4、6
水谷（愛工大名電高）
定松（希望が丘高）7、8、−9、2　緒方（ＪＯＣエリートアカデミー）
三部（青森山田中）　5、5、12　細井（希望が丘高）
松下（愛工大名電高）　8、8、9
龍崎（ＪＯＣエリートアカデミー）
吉村（野田学園高）　7、8、3
矢吹（Ｙ.Ｈ.Ｇアスリートクラブ）
及川（青森山田中）　7、−9、−10、8、12
砥塚（ＪＯＣエリートアカデミー）
渡辺（明徳義塾高）　10、7、9　竹岡（青森山田高）
田添（希望が丘高）−12、5、6、6　南波（野田学園高）

◆５回戦◆ ○数字はランキング

③村松	7、8、10	下山
⑧平野	8、−7、7、9	上村
①森薗	−7、7、4、11	大塚
⑦堀	9、−7、8、10	酒井
⑤定松	−7、4、5、9	東
②三部	−8、3、6、10	松下
⑥吉村	9、9、−4、12	及川
④田添	9、9、10	渡辺

◆準々決勝◆

村松雄斗	7、4、4	平野晃生
森薗政崇	6、9、5	堀大志
三部航平	11、−6、−9、9、6	定松祐輔
田添健汰	8、11、9	吉村和弘

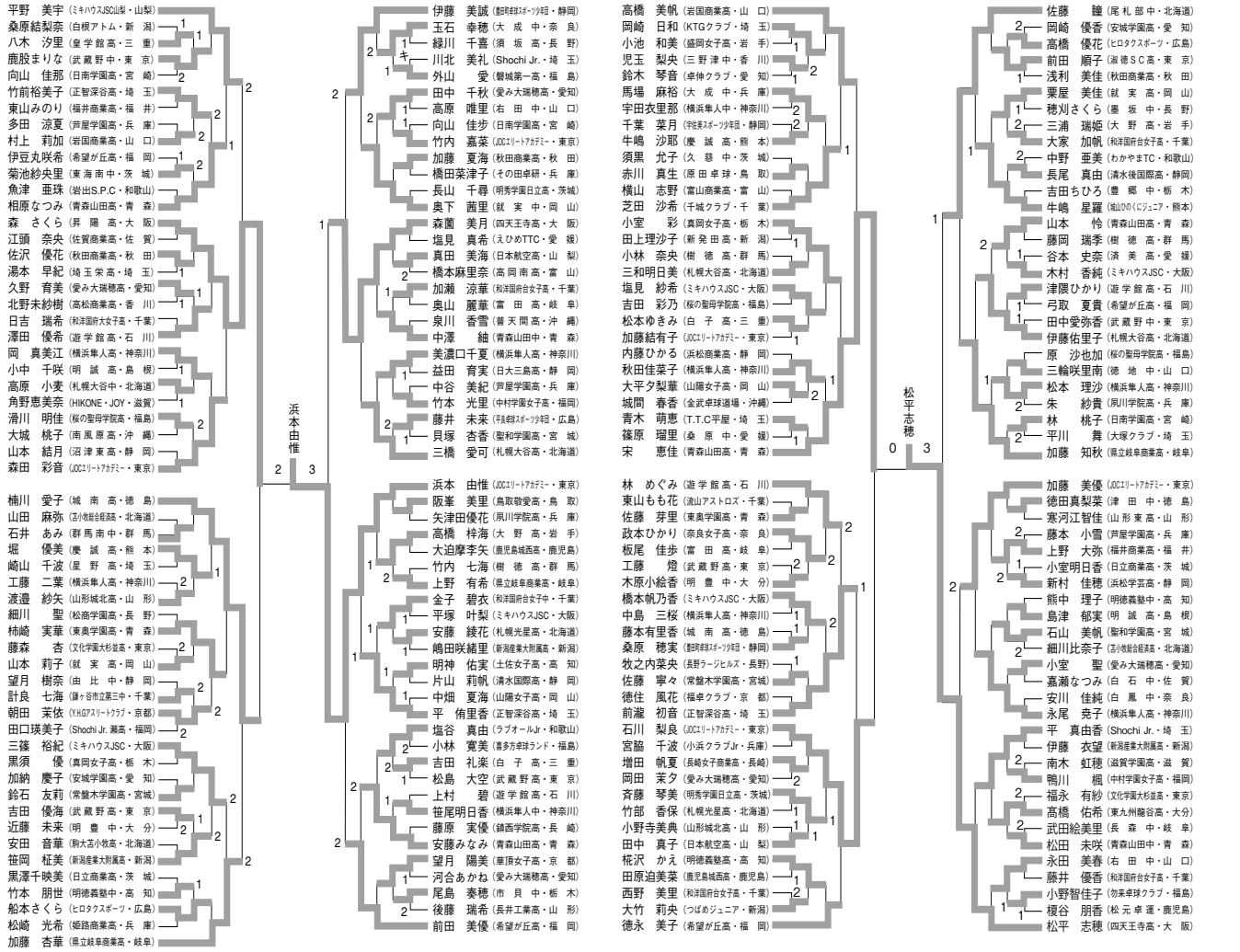
◆準決勝◆

森薗政崇	−6、6、10、11	村松雄斗
三部航平	−11、10、8、6	田添健汰

◆決勝◆

森薗政崇	5、7、−7、7	三部航平

全日本 THE FINAL　JUNIOR GIRLS　〔ジュニア女子〕



◆ジュニア女子３回戦◆

平野（ミキハウス JSC 山梨・山梨）8、5、5
鹿股（武蔵野中・東京）
相原（青森山田高・青森）－5、12、7、－9、4
竹前（正智深谷高・埼玉）
森（昇陽高・大阪）7、2、3　澤田（遊学館高・石川）
森田（ＪＯＣエリートアカデミー・東京）3、6、5
岡（横浜隼人高・神奈川）
楠川（城南高・徳島）7、－8、4、6 堀（慶誠高・熊本）
柿崎（東奥学園高・青森）－8、4、5、－10、7
朝田（Ｙ．Ｈ．Ｇアスリートクラブ・京都）
三條（ミキハウスＪＳＣ・大阪）8、－10、－2、4、5
笹岡（新潟産業大附属高・新潟）
加藤杏（県立岐阜商業高・岐阜）10、6、5
船本（ヒロタクスポーツ・広島）
伊藤（豊田町卓球スポーツ少年団・静岡）
6、－5、－9、2、13　　玉石（大成中・奈良）
奥下（就実中・岡山）　9、－6、14、－6、11
田中（愛み大瑞穂高・愛知）
森薗（四天王寺高・大阪）　8、4、5
中澤（青森山田中・青森）
三橋（札幌大谷高・北海道）　8、9、4
美濃口（横浜隼人高・神奈川）
浜本（ＪＯＣエリートアカデミー・東京）
－6、6、13、6　　高橋（大野高・岩手）
平（正智深谷高・埼玉）　－11、4、5、6
金子（和洋国府台女子中・千葉）
安藤（青森山田高・青森）　3、2、9
塩谷（ラブオール Jr・和歌山）
前田（希望が丘高・福岡）8、5、8 望月（華頂女子高・京都）
高橋（岩国商業高・山口）　12、10、7
岡崎（ＫＴＧクラブ・埼玉）
芝田（千城クラブ・千葉）3、10、12 馬場（大成中・兵庫）
小室（真岡女子高・栃木）　9、8、9
塩見（ミキハウスＪＳＣ・大阪）
宋（青森山田高・青森）　－12、5、9、8
秋田（横浜隼人高・神奈川）
林（遊学館高・石川）　9、8、－9、－7、7
政本（奈良女子高・奈良）
前瀧初（正智深谷高・埼玉）　9、－10、－6、8、9
橋本（ミキハウスＪＳＣ・大阪）
石川（ＪＯＣエリートアカデミー・東京）7、8、－7、6
斉藤（明秀学園日立高・茨城）
徳永（希望が丘高・福岡）　4、10、6
椛沢（明徳義塾高・高知）
佐藤（尾札部中・北海道）6、6、6 前田（淑徳ＳＣ高・東京）
牛嶋（城山ひのくにジュニア・熊本）7、10、6
粟屋（就実高・岡山）
伊藤（札幌大谷高・北海道）　4、－6、10、－8、9
山本（青森山田高・青森）
加藤知（県立岐阜商業高・岐阜）5、－6、9、7
松本（横浜隼人高・神奈川）
加藤美（ＪＯＣエリートアカデミー・東京）9、4、10
上野（福井商業高・福井）
永尾（横浜隼人高・神奈川）3、5、3　石山（聖和学園高・宮城）
平（Shochi Jr.・埼玉）5、9、5 髙橋（東九州龍谷高・大分）
松平（四天王寺高・大阪）8、7、8 永田（右田中・山口）

◆４回戦◆

平野（ミキハウス JSC 山梨）－7、9、9、6
相原（青森山田高）
森（昇陽高）4、5、9　森田（ＪＯＣエリートアカデミー）
楠川（城南高）　8、6、4　柿崎（東奥学園高）
加藤杏（県立岐阜商業高）－5、7、5、－2、4
三條（ミキハウスＪＳＣ）
伊藤（豊田町卓球スポーツ少年団）　4、8、10
奥下（就実中）
森薗（四天王寺高）　2、7、7　三橋（札幌大谷高）
浜本（ＪＯＣエリートアカデミー）7、－7、5、11
平（正智深谷高）
前田（希望が丘高）－5、6、－7、7、3 安藤（青森山田高）
高橋（岩国商業高）6、6、－6、11 芝田（千城クラブ）
宋（青森山田高）　2、6、6　小室（真岡女子高）
前瀧初（正智深谷高）－4、9、－10、9、9 林（遊学館高）
石川（ＪＯＣエリートアカデミー）　9、7、10
徳永（希望が丘高）
佐藤（尾札部中）　－8、9、8、5
牛嶋（城山ひのくにジュニア）
加藤知（県立岐阜商業高）10、7、7 伊藤（札幌大谷高）
加藤美（ＪＯＣエリートアカデミー）　8、8、8
永尾（横浜隼人高）
松平（四天王寺高）　3、5、2　　平（Shochi Jr.）

◆５回戦◆ ○数字はランキング

③森	－8、－8、3、10、7	平野
⑧楠川	8、6、－8、－7、8	加藤杏
⑥森薗	－7、8、7、－8、10	伊藤
②浜本	－6、－7、5、9、9	前田
④宋	6、6、6	高橋
⑦石川	12、8、－8、9	前瀧初
⑤佐藤	7、9、10	加藤知
①松平	－6、－5、8、11、6	加藤美

◆準々決勝◆

森さくら	7、1、6	楠川愛子
浜本由惟	9、6、－8、4	森薗美月
宋恵佳	7、5、10	石川梨良
松平志穂	10、9、－4、7	佐藤瞳

◆準決勝◆

浜本由惟	6、－8、9、－6、13	森さくら
松平志穂	6、8、10	宋恵佳

◆決勝◆

松平志穂	－7、9、－3、13、5	浜本由惟